

米に関するマンスリーレポート

(令和元年7月号)



「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！
http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

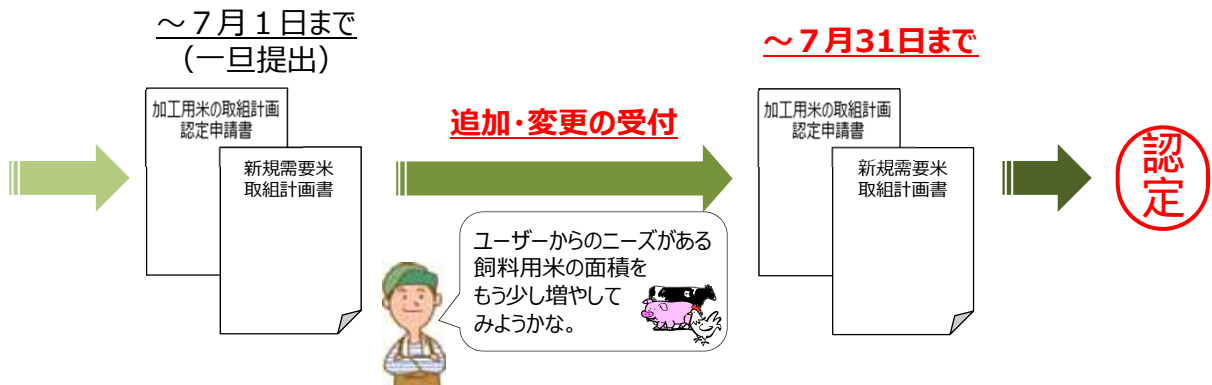
1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。

加工用米、新規需要米の取組計画書の追加・変更を7月末まで受け付けます

飼料用米、加工用米、米粉用米等実需者から安定供給が求められているところです。

このため、令和元年産においては、加工用米及び新規需要米の取組計画書の追加・変更について令和元年**7月31日まで受け付けます。**

【事務手続きの流れ】



「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」

別紙様式第3-2号の1 加工用米の取組計画認定申請書
別紙様式第4-1号 新規需要米取組計画書

を提出し直す形で、追加・変更を申請

(※ 7月1日以降に、加工用米又は新規需要米に新たに取り組みこととした場合も、申請可能です。)

(様式掲載→ <http://www.maff.go.jp/j/seisan/jyukyu/komeseisaku/index.html>)

【お問い合わせ先】

北海道農政事務所	011-330-8807	神奈川県拠点	045-211-7176	中国四国農政局	086-230-4251
函館地域拠点	0138-38-9007	山梨県拠点	055-254-6016	鳥取県拠点	0857-22-3256
旭川地域拠点	0166-30-9303	長野県拠点	026-234-5575	島根県拠点	0852-25-4490
釧路地域拠点	0154-99-9047	静岡県拠点	054-246-6121	岡山県担当	086-233-1577
帯広地域拠点	0155-24-2402	北陸農政局	076-232-4302	広島県拠点	082-228-9483
北見地域拠点	0157-23-4172	新潟県拠点	025-228-5281	山口県拠点	083-922-5255
東北農政局	022-221-6169	富山県拠点	076-441-9307	徳島県拠点	088-622-6132
青森県拠点	017-777-3512	石川県担当	076-203-9140	香川県拠点	087-883-6503
岩手県拠点	019-624-1125	福井県拠点	0776-30-1619	愛媛県拠点	089-932-6989
宮城県担当	022-221-1105	東海農政局	052-223-4623	高知県拠点	088-875-2151
秋田県拠点	018-862-5612	岐阜県拠点	058-271-4407	九州農政局	096-300-6214
山形県拠点	023-622-7247	愛知県担当	052-763-4552	福岡県拠点	092-281-8261
福島県拠点	024-534-4144	三重県拠点	059-228-3199	佐賀県拠点	0952-23-3135
関東農政局	048-740-5257	近畿農政局	075-414-9020	長崎県拠点	095-845-7121
茨城県拠点	029-221-2186	滋賀県拠点	077-522-4275	熊本県担当	096-300-6305
栃木県拠点	028-633-3314	京都府担当	075-414-9084	大分県拠点	097-532-6134
群馬県拠点	027-221-1185	大阪府拠点	06-6941-9657	宮崎県拠点	0985-22-3184
埼玉県担当	048-740-0100	兵庫県拠点	078-331-9951	鹿児島県拠点	099-222-5840
千葉県拠点	043-224-5617	奈良県拠点	0742-36-2981	沖縄総合事務局	098-866-1653
東京都拠点	03-5144-5258	和歌山県拠点	073-436-3832	農林水産省穀物課	03-6744-7135

各実需者団体から国に対して要請があがってます！

【全国加工米需要者団体協議会】

「令和元年産加工用米等原料米の安定供給の確保について（要請）」（抜粋）

- 各産地においては、近年の主食用米の販売価格の上昇を受け、加工用米から主食用米への切替え意欲が強いこと等により、私どもの需要希望数量は満たされない状況にあります。
- このような状況を受けて、やむを得ずMA米を使用する動きが加速しつつあります。
- 現状では、私どもが必要とする加工用米の数量について結び付きを行うことが困難な状況です。このようなことから、加工用米の結び付きの拡大が図られるよう、国におかれましても、**各産地において需要のある加工用米について安定的に取引を推進することの重要性等について説明していただきますようお願いいたします。**

【日本酒造組合中央会】

「國酒（日本産酒類）振興のための決議」（抜粋）

- 国内振興への引き続きの支援及び輸出支援のためにも、酒造好適米のみならず**加工用米を含めた原料米の安価で安定的な供給体制の確保**

【協同組合日本飼料工業会】

「国産飼料用米の安定供給について（要請）」（抜粋）

- 本組合は、稲作生産者とも連携しつつ、国産飼料用米の積極的な活用に取り組んで参りました。
- その結果、国産飼料用米については、配合飼料原料として一定の地位を確立しつつあり、輸入とうもろこしと同等以下の価格での安定確保は、畜産生産者・飼料メーカーにとって欠かせないものとなっております。

（要請事項）

- ・ 国産飼料用米の生産が維持・拡大され、今後とも畜産生産者・飼料メーカーが安心して飼料用米を継続利用できるよう、**産地や稲作生産者に対して安定供給の重要性を説明するとともに、更なる積極的な取組を促すこと。**
- ・ 稲作生産者が安心して国産飼料用米の生産に取り組めるよう国の支援を安定的に継続すること。
- ・ 国産飼料用米の生産・利用が拡大するような支援策を拡充すること。

【日本米粉協会】

「米粉用米の安定供給の確保について（要請）」（抜粋）

- 近年、米粉市場は、大手製パン企業による米粉入りパン製造の増加、アレルギー対応食品市場の活発化などにより、拡大しています。
- 先月公表された第2回中間的取組状況によれば、第1回公表時よりも米粉用米の取組を減らす産地が増加しており、このまま推移すると、順調に増加している需要量と生産量の乖離がさらに拡大し、米粉製造企業の経営に支障が生じかねない状況となっております。
- 国は産地に対して、**米粉用米の安定取引の重要性等を説明するとともに、米粉用米の供給を安定的に行うために必要な生産者と米粉製造企業の結びつけを拡大するため、十分な推進期間を確保して頂きますようお願いいたします。**

令和元年産に向けた「備蓄米」の運用改善について

～農業者別結び付け要件の見直しの追加～

備蓄米は、不作により供給が減少する事態等に備えて蓄えておく、国民にとって重要な役割のあるお米です。このため、産地がより取り組みやすくなるよう元年産に向けて以下の改善を行っています。

追加
措置

今般、さらに備蓄米を推進するため、農業者別の結び付け要件を不要とする見直しを追加します。

① 優先枠の拡大

- ・ 入札における産地ごとの優先枠※を大幅に拡大しました。
- ・ さらに、産地は元年産の落札実績を2年産から4年産まで優先枠として維持することができます。

これにより、元年産の備蓄米にしっかり取り組みれば、今後も他産地と競合することなく、継続的・安定的に備蓄米に取り組むことが可能です。

※ 「優先枠」とは、各都道府県別に入札枠を設け、他産地と競合することなく優先的に入札できるようにする仕組み。このため、産地では備蓄米の安定的な取組みが可能。

② 国への引渡時期について

- ・ 収穫後、速やかな国への引き渡しが可能※となります。

これにより、産地での保管管理経費などが軽減され、国からの保管料も産地の倉庫などに早期に支払われることとなります。

※ 最速で9月から国への引き渡しが可能。

追加
措置

③ 農業者別結び付け要件（農業者別引渡数量報告）の廃止

- ・ 第5回目入札（4/16実施）より、JA等の集荷業者(売渡人)から国に対する備蓄米の農業者別引渡数量の報告を必要としない※こととします。

これにより、個々の農業者の同意を得なくてもJA等の集荷業者(売渡人)の自主的な判断で備蓄米への入札や国への引き渡しが可能となります。

※ 1 なお、地域農業再生協議会別の備蓄米の取組面積を把握する必要があることから、地域農業再生協議会別の備蓄米引渡予定数量(農業者別の数量ではありません)の報告をしていただくこととなります。

※ 2 第4回目までに落札したJA等の集荷業者(売渡人)の方も、国との契約締結段階で協議させていただくことで、第5回目以降と同様の取扱いが可能となります。

○問い合わせ先 農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班
代表：03-3502-8111（内線4975） 直通：03-6738-8973

令和元年産備蓄米の政府買入入札
第10回(7月17日実施予定)の買入予定数量

備蓄米の政府買入予定数量	20万9千トン
うちCPTPP分	9千トン

(単位：トン)

都道府県別優先枠(第10回)	26,206
北海道	1,686
秋田	6,656
山形	7,988
新潟	2,617
富山	4,534
福井	386
愛知	1,030
滋賀	312
鳥取	243
岡山	701
長崎	19
熊本	34
一般枠(指定なし)	0

第9回までの政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果については2頁参照。

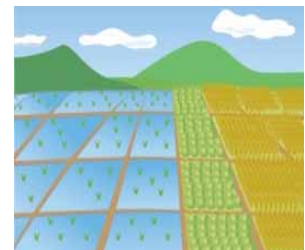
令和元年産米等の作付意向について 【第2回中間的取組状況（平成31年4月末現在）】

都道府県別の作付意向（平成31年2月末現在）を第1回中間的取組状況として3月に公表を行ったところですが、この度、第2回中間的取組状況として、都道府県別に加え、地域農業再生協議会別の4月末現在の作付意向を公表します。

都道府県別の作付意向（平成31年4月末現在）

- 第1回中間的取組状況（2月末現在）と比較すると、主食用米では対前年で減少傾向にある県の数は増加（減少6県→15県）しているものの、全体としては前年並みが見込まれます。一方、備蓄米では対前年で増加傾向にある県の数は大幅に増加（※）（増加20県→30県）しています。また、戦略作物については、飼料用米（増加12県→6県）、加工用米（増加15県→12県）では対前年で増加傾向にある県の数は減少しています。
 - 主食用米の消費量が毎年約10万トン減少すると見込まれる中、需要に応じた生産・販売に一層取り組むことが重要です。
- （※）第7回までの落札合計数量17万7千トン（対前年5万4千トン増）

- 各都道府県の主食用米の作付意向
平成30年産実績と比較すると以下のとおりと見込まれています。
増加傾向0県／前年並み傾向32県／**減少傾向15県**
 - 各都道府県の戦略作物等の作付意向
平成30年産実績との比較による各都道府県の戦略作物等の作付意向は、以下のとおりと見込まれています。
 - 備蓄米
増加傾向30県／前年並み傾向1県／**減少傾向1県**
 - 飼料用米
増加傾向6県／前年並み傾向11県／**減少傾向28県**
 - 加工用米
増加傾向12県／前年並み傾向13県／**減少傾向18県**
 - WCS用稲（稲発酵粗飼料用稲）
増加傾向11県／前年並み傾向15県／**減少傾向17県**
 - 米粉用米
増加傾向18県／前年並み傾向8県／**減少傾向18県**
 - 新市場開拓用米（輸出用米等）
増加傾向23県／前年並み傾向9県／**減少傾向4県**
 - 麦
増加傾向16県／前年並み傾向18県／**減少傾向12県**
 - 大豆
増加傾向11県／前年並み傾向14県／**減少傾向20県**
- （注）「麦」「大豆」については、二毛作面積を含む。



※ 地域農業再生協議会別の作付意向の詳細については、以下のURLを御覧ください。
http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/190528.html

令和元年産米等の第2回中間的取組状況（平成31年4月末現在）

都道府県	主食用米		備蓄米		戦略作物															
	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	飼料用米			加工用米			WCS		米粉用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		麦		大豆	
					30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績
	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績	30年産実績 (ha)	元年産の意向対前年実績
全国計	138.6万		21,606		79,535		51,490		42,545		5,295		3,578		169,513		115,148			
北海道	98,900		-		1,841		4,547		540		57		537		32,501		19,134			
青森	39,600		2,770		5,434		1,726		662		5		112		667		4,556			
岩手	48,800		47		3,986		1,199		1,620		58		171		3,379		3,748			
宮城	64,500		1,404		5,553		1,107		2,006		68		213		2,162		10,198			
秋田	75,000		2,393		1,993		9,786		1,229		233		252		309		7,835			
山形	56,400		3,508		3,704		4,141		908		136		226		79		4,839			
福島	61,200		3,170		5,275		439		1,052		2		38		207		885			
茨城	66,800		122		8,003		1,260		550		39		224		4,718		2,335			
栃木	54,700		1,046		9,155		2,023		1,626		604		54		10,900		2,176			
群馬	13,700		2		1,243		1,480		519		324		3		6,679		122			
埼玉	30,800		38		1,669		296		120		618		12		4,752		433			
千葉	53,900		120		4,379		1,583		984		44		19		557		581			
東京	133		-		-		-		-		0		-		-		-			
神奈川	3,080		-		13		-		-		-		-		7		9			
新潟	104,700		2,677		2,908		7,851		386		1,932		866		185		4,310			
富山	33,300		2,086		1,229		1,549		405		78		219		3,309		4,684			
石川	23,200		875		645		795		87		71		163		1,091		1,208			
福井	23,600		469		1,217		741		102		91		117		4,781		1,760			
山梨	4,820		-		16		78		12		3		0		61		117			
長野	31,300		44		267		745		240		23		61		2,336		1,420			
岐阜	21,500		48		2,347		934		208		27		49		3,405		2,811			
静岡	15,700		-		1,139		104		217		10		2		732		156			
愛知	26,700		79		1,449		668		193		63		21		5,408		4,116			
三重	27,100		-		1,691		249		239		86		43		6,391		4,284			
滋賀	30,100		200		941		1,188		255		31		80		7,672		6,439			
京都	13,900		-		122		512		107		6		12		251		247			
大阪	5,000		-		6		0		-		4		-		3		5			
兵庫	35,500		-		281		639		787		26		6		2,291		2,019			
奈良	8,530		-		43		15		44		30		-		107		51			
和歌山	6,430		-		3		-		2		-		-		1		15			
鳥取	12,700		67		794		18		359		0		-		130		668			
島根	17,200		14		983		242		533		2		0		583		577			
岡山	29,400		146		1,254		434		367		65		5		2,805		1,216			
広島	22,900		-		441		350		562		112		3		254		343			
山口	18,900		-		874		924		305		9		1		1,842		829			
徳島	11,200		166		543		26		217		15		20		120		22			
香川	12,500		-		131		42		111		7		-		2,605		52			
愛媛	13,900		-		319		36		135		4		6		1,918		322			
高知	11,400		2		944		58		228		18		-		9		69			
福岡	34,900		33		2,033		243		1,500		183		9		21,295		8,263			
佐賀	24,000		41		584		267		1,399		9		4		20,541		7,894			
長崎	11,400		-		131		10		1,204		6		-		1,189		354			
熊本	32,300		18		1,269		754		7,748		161		20		6,402		2,084			
大分	20,600		17		1,428		101		2,451		17		-		4,648		1,473			
宮崎	14,700		-		433		1,360		6,682		17		10		121		218			
鹿児島	18,300		-		822		967		3,645		1		-		109		271			
沖縄	716		-		-		-		-		-		-		0		-			

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「令和元年産の意向(対前年実績)」は、平成30年産作付実績と比較し、「増加傾向」、「前年並み傾向」、「減少傾向」で分類。

(注2) 主食用米の「30年産実績(ha)」は、平成30年12月10日統計部公表の主食用作付面積。

(注3) 飼料用米、加工用米、WCS、米粉用米、新市場開拓用米の「30年産実績(ha)」は、平成30年産新規需要米の取組計画認定面積。麦・大豆の「30年産実績(ha)」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積で、二毛作を含む。

(注4) 備蓄米の「30年産実績(ha)」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

令和元年産水稻の生育状況（令和元年7月1日現在）

- 各道県から公表された令和元年産水稻の生育状況を見ると、主産地ではおおむね草丈、葉数、茎数が「平年並み～多い」状況となっている。

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部

道府県	区分	生育状況等
		育苗・田植進行状況・生育状況等（自治体等公表資料の抜粋） 平年に対する遅速等
北海道	（生育）	（全道）生育は、やや早く進んでいる。（北海道農政部 6月15日現在） （空知）生育・やや進んでおり、分けつ・発生も良好である。（空知総合振興局 6月15日現在） （石狩）生育は平年に比べて早い。好天により、分けつ発生は順調である。（石狩振興局 6月15日現在） （後志）草丈は長い。葉数は多い。茎数は多い。生育遅速日数は5日早い。（後志総合振興局 6月15日現在） （胆振）生育は平年並み。（胆振総合振興局 6月15日現在） （日高）生育は平年に比べ2日早く順調である。（日高振興局 6月15日現在） （渡島）好天により生育は進んでおり、分けつの発生も順調。（渡島総合振興局 6月15日現在） （檜山）生育は平年より早い。（檜山振興局 6月15日現在） （上川）生育の遅速は、平年並に推移している。（上川総合振興局 6月15日現在） （留萌）生育は早く進んでいる。（留萌振興局 6月15日現在） （オホーツク）生育は平年よりやや進んでいる。（オホーツク総合振興局 6月15日現在）
青森	（生育）	（6月20日現在の生育状況） ・黒石の6月20日現在の生育状況は、「つがるロマン」は草丈が38.4cmで平年より2.1cm高く、株当たりの茎数は15.7本で平年よりも1.8本少なく、葉数は7.8葉で平年より0.2葉多かった。 「青天の霹靂」は草丈が37.2cmで平年よりも1.9cm短く、株当たりの茎数は15.0本で平年より1.7本少なく、葉数は7.2葉で平年より0.1葉多かった。 ・十和田の6月20日現在の「まっしぐら」の生育状況は草丈が43.4cm、株当たりの茎数は376本だった。 （地独）青森県産業技術センター-農林総合研究所 6月24日付）
岩手	（生育）	（6月25日現在） ・農業研究センター（北上） 全品種とも、草丈、葉数、葉色（SPAD値）は平年を上回っており、茎数は概ね平年並みとなっている。 ・県北農業研究所（軽米） 「いわてっこ」では、草丈、葉数、葉色（SPAD値）とも平年を下回っている。 （岩手県農業研究センター 6月27日付）
宮城	（生育）	（6月20日現在） ・県全体の水稻の生育は、葉数（平年差+0.3枚）から見ると平年に比べて2日程度早くなっており、草丈は35.4cm（平年比98%）、1㎡当たり茎数は432本（平年比109%）、葉色はGM値※1が42.4（平年差+0.1）となっている。（宮城県 6月21日付）
秋田	（生育）	（平 鹿）6月25日現在の水稻定点調査（あきたこまち11か所）では、草丈33.1cm（平年比94%）、茎数325本/㎡（同比98%）、葉数8.5葉（同差+0.3葉）となっている。（6月28日付） （由 利）6月25日の水稻定点調査結果（3品種・移植8か所平均）によると、草丈は36.9cmで平年よりやや短く（平年比98%）、㎡あたり茎数は460本で平年よりやや多く（平年比102%）、葉数は8.7葉と平年並み（平年差+0.2葉）。（6月28日付） （山 本）6月25日現在の水稻定点調査ほ（管内9地点、品種：あきたこまち）における生育状況は、草丈34.3cm（平年比95%）茎数463本/㎡（同比122%）、葉数8.8葉（同差+0.2）、葉色45.2（同比103%）となっている。（6月28日付） （仙 北）6月25日現在の管内のあきたこまちの生育状況は、草丈が36.1cm（平年比96%）、茎数は552本/㎡（平年比138%）葉数は9.0葉（平年差+0.7葉）、葉緑素計値は43.7（平年差-0.2ポイント）。（6月28日付） （鹿 角）6月25日の水稻定点生育調査では、草丈が34.2cmで短く（平年比92%）、㎡当たり茎数は505本でやや多く（平年比104%）、葉数は8.6葉で並（平年差-0.1葉）、葉色はSPAD値で45.9と並（平年比101%）（6月28日付） （秋田県農林政策課）
山形	（生育）	・6月20日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、草丈、葉数、葉色は平年並み、茎数は平年より多い状況である。（山形県 6月26日付） ・6月20日現在の平坦部「はえぬき」の生育は、茎数は多く、草丈、葉数、葉色は平年並となっている。（山形おいしさ際立つ！米づくりプロジェクト本部 6月20日付） （最上）（6月20日調査） ・生育診断圃の調査結果では、全品種で草丈並からやや短く、茎数は並から多い状況。 一方で、茎数の増加が鈍っている圃場がみられる。（最上総合支庁農業技術普及課 6月21日付）
福島	（生育）	・6月4日現在の農業総合センターの生育調査では、本部（郡山）と浜地域研究所（相馬）の茎数が多く、会津地域研究所（会津坂下）の茎数が少なくなっている。コシヒカリの主稈葉数からみた生育は、本部（郡山）で平年並み、会津地域研究所（会津坂下）で平年より2日遅れ、浜地域研究所（相馬）で平年より5日早まっている。（福島県 6月10日付）
茨城	（生育）	（水戸市 5月1日移植） ・（対平年遅速）あきたこまちは3日程度遅い。コシヒカリ平年並。ふくまるは1日程度遅い。 ・（生育ステージ）あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは最高分けつ期、ふくまるは幼穂形成期。 （水戸市 5月10日移植） ・（対平年遅速）コシヒカリは2日程度遅い。 ・（生育ステージ）コシヒカリは最高分けつ期（茨城県農業総合センター 6月25日付） （龍ヶ崎市 4月26日移植） ・（対平年遅速）あきたこまちは4日遅い。コシヒカリは1遅い。ふくまるは3日遅い平年並。 ・（生育ステージ）あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは節間伸長開始期、ふくまるは幼穂形成期。 （龍ヶ崎市 5月7日移植） ・（対平年遅速）あきたこまちは6日遅い。コシヒカリは1日遅い。 ・（生育ステージ）あきたこまちは幼穂形成期、コシヒカリは節間伸長開始期。（茨城県農業総合センター 7月1日付）
栃木	（生育）	・早植栽培（品種：コシヒカリ） （6月21日調査結果）（全体の生育）（11か所平均：平年値に-欠、及び生育不良地点除く） 草丈は平年並（平年比100%）、茎数はやや多く（105%）、葉数は平年並、葉色は0.3濃い。 地域によりバラツキがあるが、葉齢から判断して生育は平年並と考えられる。 生育診断値（葉色×茎数）は 平年比99%で平年並である。（栃木県 6月24日付）
千葉	（生育）	・4月2日に移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は平年と比較して「並」～「やや早」となっており幼穂形成期を迎えています。また、4月20日に移植した「コシヒカリ」は6月19日頃（平年より2日早い）から幼穂形成期を迎え、追肥時期となっている。 ・5月1日に移植した「コシヒカリ」は平年並みの6月2日頃から幼穂形成期となる見込み。 なお、4月植え「コシヒカリ」の一部のほ場では、過繁茂で推移している。（千葉県 6月27日付）

道府県	生育状況等	
	区分	育苗・田植進行状況・生育状況等（自治体等公表資料の抜粋）
		平年に対する遅速等
新潟	(生育)	<p>(6月20日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈が「並」、茎数が「多い」、葉数の進みが「やや早い」、葉色が「並」の状況で、生育は2日程度早い状況。 ・長岡市に設置した調査ほ場の早生品種つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶきの茎数は、指標値に比べ、それぞれ「やや少ない」、「多い」、「多い」状況。（新潟県 6月21日付） <p>(佐渡) コシヒカリの生育は、茎数が過剰となっている。 (佐渡農業普及指導センター 6月20日付)</p> <p>(岩船) 草丈：やや短、茎数：多（地域差・ほ場間差大）、葉数の進み：並、葉色：並 (村上農業普及指導センター 6月20日付)</p> <p>(上越) 「コシヒカリ」の生育は6月中旬の低温で鈍化し、現在は草丈やや長、葉数並となっている。 (上越農業普及指導センター 6月20日付)</p> <p>(南魚沼) (6月20日調査) 草丈：並（36 cm<103%） 葉色：やや濃い（SPAD 値 39.2<+1.2） 茎数：やや多（354 本/m<109%） 葉数：やや早い（8.1 葉<+0.4） (南魚沼農業普及指導センター 6月21日付)</p>
富山	(生育)	<p>(本田での生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・てんたかく 平年に比べ、草丈、葉色は並み、茎数は多く、葉齢は0.3 葉多くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は平年並み、茎数はかなり多くなっている。幼穂形成期は、平年より2日早い6月27日頃と見込まれる。出穂期は、7月19日頃と見込まれる。 <p>・コシヒカリ 平年に比べ、草丈、葉色、葉齢は並み、茎数は多くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈、葉色は平年並み、茎数は多くなっている。生育量（草丈×m茎数×葉色÷1000）の平均値は113と平年に比べてやや大きく、また88から147とばらつきが大きくなっている。幼穂形成期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より1日程度早い7月11日頃と見込まれる。</p> <p>・てんこもり 平年に比べ、草丈、葉齢は並み、茎数は多く、葉色はやや淡くなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は平年並み、茎数は多く、葉色は淡くなっている。幼穂形成期は、今後、平年並みの気温で推移した場合、平年より1日程度早い7月13日頃と見込まれる。・富富前 前年に比べて、草丈はやや長く、茎数、葉齢、葉色は並みとなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈、茎数は前年並み、葉色は前年よりやや淡くなっている。幼穂形成期は、今後平年並みの気温で推移した場合、前年より1日程度早い7月12日頃と見込まれる。 (富山県 農業技術課広域普及指導センター 6月25日付)</p>
石川	(生育)	<p>(本田の生育 6月24日調査)</p> <p>1. 出穂期（早生品種） 生育観測田における早生品種ゆめみつぼで幼穂が確認されている（0.4～4mm程度）。ゆめみつぼの出穂期は加賀地域で7月17日頃と近年より2日程度早く、前年並、能登地域（羽咋～中能登）では7月20日頃と近年より2～3日早く、前年並である。また、能登地域（奥能登～珠洲）の能登ひかりの出穂期は、平年及び前年並の7月24日頃と思われる。</p> <p>2. 草丈 ゆめみつぼは近年比106%（加賀地域105%、能登地域108%）とやや長い。コシヒカリは平年比102%（加賀地域100%、能登地域104%）と平年並。ひやくまん穀は前年比117%（加賀地域119%、能登地域116%）と長い。</p> <p>3. m当たり茎数 早生は茎数の増加が緩やかとなり、前年並に最高分けつ期を迎えると予想される。ゆめみつぼは、近年比113%（加賀地域116%、能登地域113%）と近年及び前年よりやや多い。コシヒカリは、平年比105%（加賀地域102%、能登地域108%）と平年並で前年よりやや多い。ひやくまん穀は近年比132%（加賀地域109%、能登地域168%）と、加賀地域で近年並で前年より多く、能登地域で近年及び前年より多い。（石川県農林総合研究センター 6月25日付）</p>
福井	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・5月2日植えのハナエチゼンでは6月25日（平年より2日早い）に幼穂形成期を迎えた。 (水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 6月27日付)
長野	(生育)	<p>(農業試験場八重森圃場(標高348m))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後20日の生育は、「あきたこまち」「コシヒカリ」「風さやか」とともに葉数、茎数が平年値に比べ少なく、草丈は短い。 ・移植後30日の生育は、「あきたこまち」「コシヒカリ」「風さやか」とともに葉数、茎数が平年値に比べ少なく、草丈は短い。いずれの品種においても生育の進展が平年、前年に比べても緩慢である。（長野県農業試験場 6月21日現在） <p>(標高1017m原村の原村試験地における水稻生育状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植後20日調査では、いずれの品種も主稈葉数が平年よりやや少なく、茎数が平年よりかなり少ない。 ・移植後30日調査では、いずれの品種も主稈葉数が平年並みで草丈が平年よりやや短く、茎数が平年よりかなり少ない。 (長野県農業試験場 6月26日現在)
滋賀	(生育)	<p>(6月10日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬の気温がやや低く、強風による植え傷みもあり、初期の分けつはやや遅れたが、5月中旬～6月上旬の高温により、生育は旺盛になっている。(滋賀県 6月19日付)
兵庫	(育苗・田植)	<p>(5月28日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県北 移植後、低温の日があり、本田での生育はやや遅れ気味である。 ・県南 苗の生育は順調である。（兵庫県 6月3日付）
高知	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> ・早期稲 分けつ期。天候が安定していたため、生育は全般的に順調。 ・普通期稲 育苗～活着期。県全域で移植が始まっており、移植最盛期は各地区ともに5月第6半旬で、移植後の生育は概ね順調である。なお、嶺北の一部では湯水により、移植が遅れている地区がある。 (高知県病害虫防除所 6月6日付)
福岡	(育苗・田植)	<ul style="list-style-type: none"> ・早期水稻（夢つくし、コシヒカリ） 生育は順調で有効茎が確保され、中干し時期となっている。4月下旬植えの出穂期は平年より2～3日早い7月中旬の見込み。 ・普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど） 5月中旬～6月上旬植えは、田植え後、高温で経過したため活着が良く生育は順調。降雨が少ないため、一部地域では、田植えが平年に比べて3日～1週間程度遅れている。麦収穫後でも田植えが始まり、平坦地の「夢つくし」は6月上旬、「元気つくし」は6月中下旬、「ヒノヒカリ」は6月下旬が最盛期となる見込み。（福岡県農林総合試験場 6月14日付）
宮崎	(生育)	<p>(作物の生育状況) (6月中旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期水稻は穂ばらみ期、普通期水稻は移植前後。 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長 6月25日付)

本資料は、地方自治体等ホームページにより公表された令和元年産水稻の生育状況等の一部を（公社）米穀機構情報部において取りまとめたものです。
各情報の詳細については、以下URL（公社）米穀機構ホームページの「出所（原資料）」を参照願います。
URL：http://www.komenet.jp/documents/2019/190701_sakugara.pdf

「米の安定取引に向けた取組」へのお願い

—産地と実需の結び付きによる安定的な取引関係の構築—

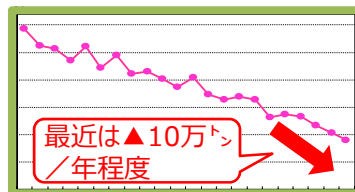
「需給・価格の安定」のために皆様へお願いしたい3つのこと

- 1 産地側から実需者側に直接販売するルートの拡大
- 2 産地と実需者間での複数年契約等の事前契約の拡大
- 3 用途毎の品質や価格ニーズに対応するため、多収品種の導入等による生産コストの低減

米をめぐる現状

① 米の消費動向

- ・ 我が国の主食用米の消費量は、今後、毎年「約10万トン」程度減少すると見込まれる



② 中食・外食事業者からの声

- ・ 消費量が減少見込みの中、中食・外食向けの米の消費量は堅調に推移
- ・ 一方、中食・外食事業者からは希望する価格帯での調達が難しくなったとの声

米消費における
中食・外食割合

H9 18.9%

H30 30.0%

③ 新たな需要の拡大

- ・ 米粉用や輸出用などの新たな需要が拡大する傾向



こうした状況の中で、今後とも米の需給及び価格の安定を図っていくためには、

- ① 産地側が実需者側のニーズを的確に把握すること
- ② 産地側と実需者側がしっかりと結び付いた安定的な取引関係を構築することが重要です。

上記3つの取組実施により、全体での需給の均衡と、産地は「安定的な販路の確保」、実需者は「安定的な仕入れの確保」が、それぞれ図られるものと考えられます。

農林水産省による取組支援

- 農林水産省としても、こうした取組を後押しするため、実需者と産地のマッチング支援や複数年契約の拡大、一般家庭用向け及び中食・外食向けの米の販売動向等の情報提供、各産地における多収性品種の導入等の取組の推進等に努めます。

実需者と産地のマッチングイベント「米マッチングフェア」への支援

米マッチングフェア 2019
 2019年8月・9月 2020年1月・2月
 東京2回・大阪2回

業務用途への安定取引に向けて

出展無料
 大規模生産法人、農協等の皆様へ

産地：大規模生産法人、農協等
 実需者：中食・外食、事業者等

業務用途に特化した米の商談会

「米に関するマンスリーレポート」での情報提供

○ 事前契約及び複数年契約数量

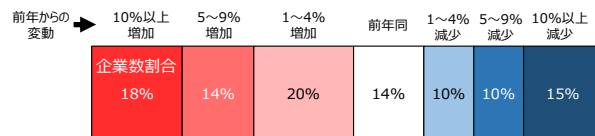
播種前時点での事前契約の状況を都道府県別に調査・公表

都道府県	令和元年産米 (平成31年3月末現在)		平成30年産米 (平成30年3月末現在)		対前年同月差	
	事前契約数量 ①	うち複数年契約 ②	事前契約数量 ③	うち複数年契約 ④	事前契約数量 ①-③	うち複数年契約 ②-④
北海道	153.7	153.7	133.6	133.6	20.0	20.0
青森	10.2	10.2	35.0	35.0	▲24.8	▲24.8

○ 中食・外食向けの米の仕入状況調査

中食・外食事業者に対して、米の仕入数量・価格の動向を調査・公表

仕入数量の動向（平成31年1～3月）



生産コスト低減に向けた具体的な取組

省力栽培技術の導入

直播栽培（育苗・田植えを省略）

(実証例)
 労働時間
 18.4時間/10a → 13.8時間/10a
 (移植) (直播)
 費用(利子・地代は含まない)
 103千円/10a → 93千円/10a
 (移植) (直播)



スマート農業技術の活用

営農管理システムの導入等により、作業のムダを見つけて手順を改善
 (実証例)
 田植え作業時間
 1.62時間/10a → 1.15時間/10a
 (移植作業時間の削減)

密苗栽培

育苗箱数を減らせるため、資材費の低減が可能。
 苗継ぎも少なく省力的
 (実証例) 育苗箱数 15～18箱/10a → 5～6箱/10a



大規模経営に適合した品種

多収品種

単収
 530kg/10a → 700kg/10a
 (全国平均) (多収栽培で単収増)
 生産費
 16千円/60kg(全国平均)
 → 13千円/60kg(試算)

作期の異なる品種の組み合わせ



担い手への農地集積・集約等

- 今後10年間（2023年まで）で全農地面積の8割を担い手に集積
 - ・ 分散錯圖の解消
 - ・ 農地の大区画化、汎用化

生産資材費の低減

農業生産資材価格の引下げ

- 生産資材業界の再編や法規制等の見直し
- 生産資材価格や取引条件等の「見える化」

農業機械の低コスト仕様

- ・ 基本性能の絞り込み
 - ・ 耐久性の向上
- ⇒ 基本性能を絞った海外向けモデルの国内展開等
 (標準モデル比2～3割の低価格化)



肥料コストの低減

- ・ 土壌診断に基づく施肥量の適正化(肥料の自家配合等)、精密可変施肥
- ・ フレキシブルコンテナの利用(機械化による省力化等)
- ⇒ 土壌改良資材のフレコン利用(20kg袋比7%低価格化)



合理的な農薬使用

- ・ 発生予測による効果的かつ効率的防除
- ・ 輪作体系や抵抗性品種の導入等の多様な手法を組み合わせた防除(IPM)
- ⇒ 化学農薬使用量抑制

未利用資源の活用

- ・ 鶏糞焼却灰等の利用
- ⇒ 従来品比7%低価格化



○ 問い合わせ先 農林水産省政策統括官付農産企画課米穀需給班
 代表：03-3502-8111（内線4975） 直通：03-6738-8973

目 次

I	米の需給・契約・販売	
1	米の需給（米の基本指針（平成31年3月）） 平成30/31年及び平成31/32年の需給見通し	1
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果	2
(2)	平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年5月末現在）（速報）	3
(3)	都道府県別事前契約数量（速報）	7
II	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成24年7月末～令和元年5月末）（速報）	13
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	15
(3)	平成29・30年産の産地別民間在庫の推移（速報）	16
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	24
(2)	価格帯別分析結果（令和元年5月）	25
(3)	相対取引価格・数量（平成30年産米、産地品種銘柄別、令和元年5月分）（速報）	26
2	スポット価格の状況（日本コメ市場株式会社）	29
3	米の先物取引価格の推移	30
4	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、令和元年6月分）	32
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	30年産米の作付状況	
(1)	30年産米の用途別作付面積及び生産量	34
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	34
(3)	新規需要米の用途別認定状況	34
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	
(1)	29米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	35
(2)	加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移	36
3	酒造好適米の需給状況	
(1)	日本酒の出荷状況	37
(2)	日本酒原料米の使用状況	37
(3)	酒造好適米の生産量	38
(4)	酒造好適米の需要量	38
4	飼料用米の需要量	39
5	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	41
6	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	42
V	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	43
(2)	畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	47
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）	49
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	51
(5)	コメ海外市場拡大戦略プロジェクト	53

VI	消費動向	
	(1) 米の消費動向(米穀機構による調査)	55
	(2) 購入数量の推移(家計調査)	56
	(3) 消費者物価指数の推移	57
	(4) 小売物価統計の推移	58
	(5) 米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向	59
	(6) 中食・外食事業者の米の仕入状況	60
	(7) 小売価格の推移(POSデータ)	61
VII	輸入米(MA米、CPTPP・国別枠)の動向	
	1 MA米(一般、SBS)	
	(1) MA米の輸入数量(輸入先国別及び輸入方式別)	62
	(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成30年度)	63
	(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成30年度)	64
	2 CPTPP・国別枠の見積合わせ結果(令和元年度)	64
VIII	その他	
	(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果	65
	(2) 平成30年産水陸稲の収穫量	66

I 米の需給・契約・販売

1 米の需給（米の基本指針(平成31年3月)）

平成30/31年及び平成31/32年の需給見通し

(単位: 万トン)

平成30 / 31年	平成30年6月末民間在庫量	A	190 (確定値)
	平成30年産主食用米等生産量	B	733 (31年産米の水稲収穫量(主食用))
	平成30/31年主食用米等供給量計	C=A+B	923
	平成30/31年主食用米等需要量	D	735
	平成31年6月末民間在庫量	E=C-D	188

平成30年産米の相対取引価格が平成29年産米に比して上昇していることから、需要量に及ぼす影響を踏まえ補正

新算出方法による見直し 補正
 $736\text{万トン} - 1\text{万トン} = 735\text{万トン}$

平成31 / 32年	平成31年6月末民間在庫量	E	188
	平成31年産主食用米等生産量	F	718 ~ 726
	平成31/32年主食用米等供給量計	G=E+F	906 ~ 914
	平成31/32年主食用米等需要量	H	726
	平成32年6月末民間在庫量	I=G-H	180 ~ 188

平成32年6月末民間在庫量が安定供給を確保できる水準(180万トン)となる718万トンから平成31/32年の需要見通しと同水準の726万トンまでと8万トンの幅をもって設定

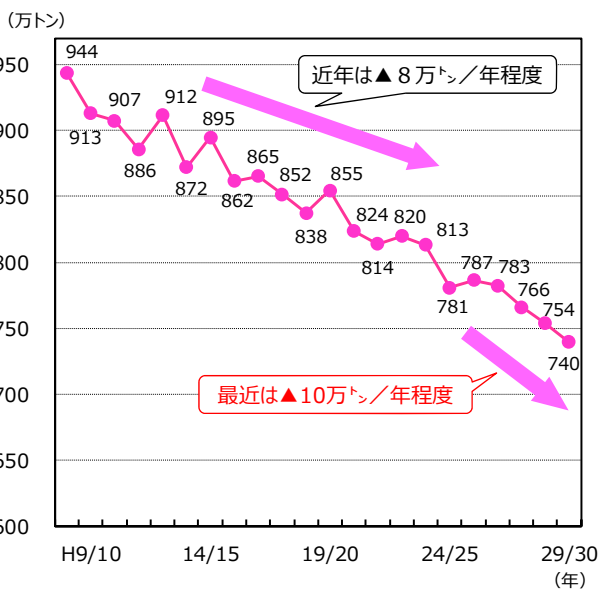
(参考)30年産(平成30年3月基本指針)との比較

平成30年産 735万トン	→	平成31年産 718万トン~726万トン
------------------	---	-------------------------

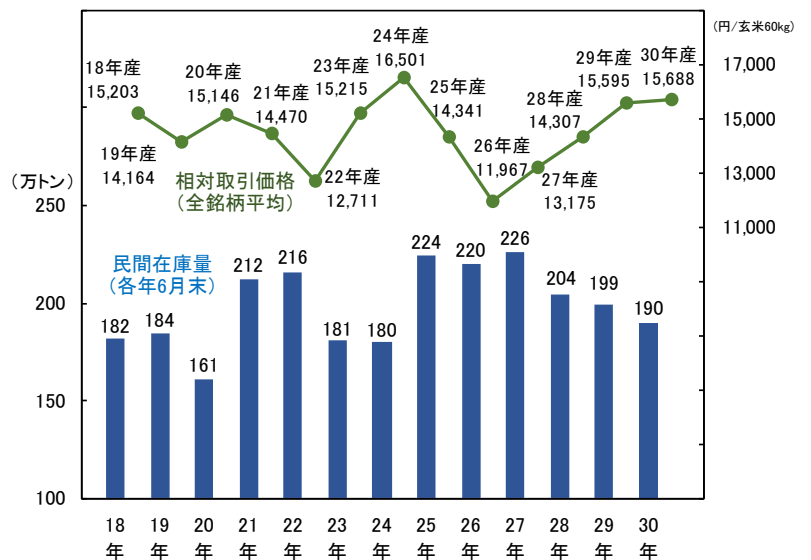
(前年比) ▲17~▲9
 ▲2.3%~▲1.2%

注：平成31/32年主食用米等需要量については、現時点で平成31年産米の価格の状況を見通すことが困難であるため、価格の変動が生じた場合の需要量への影響は見込んでいない。

(参考) 主食用米の需要量の推移



(参考) 相対取引価格と民間在庫量



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(30年産は元年5月)までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2 米の契約・販売

(1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

令和元年産

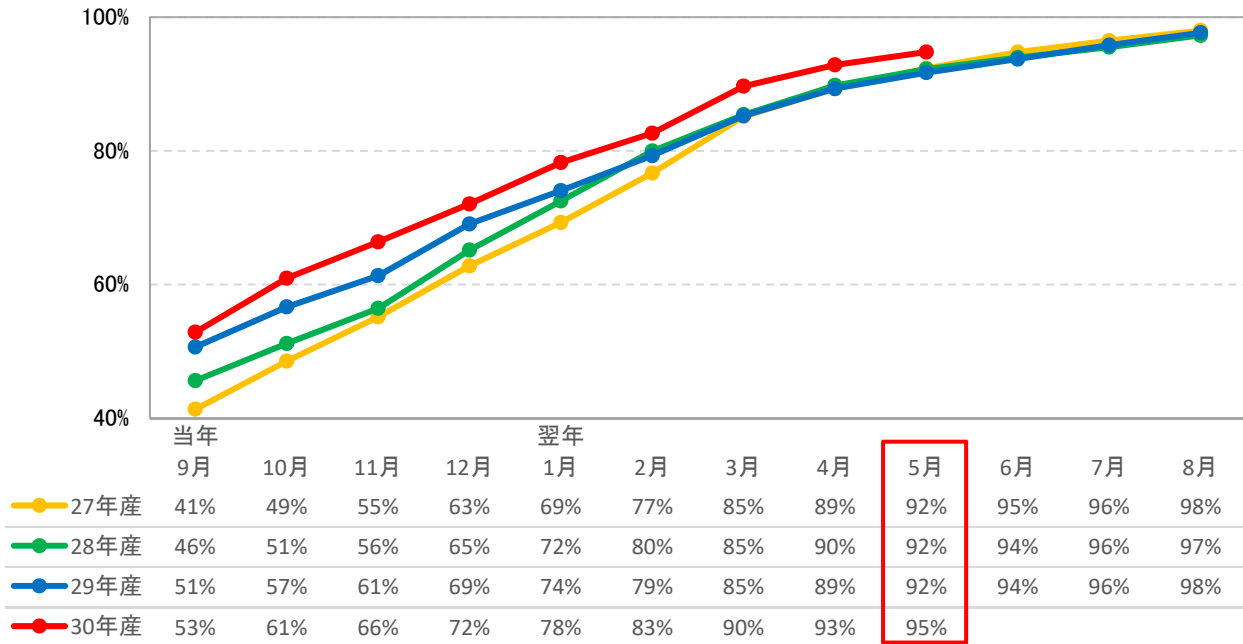
(単位：トン)

買入対象 米穀の 産地	都道府県 別優先枠	買入入札の結果									落札合計 数量
		第1回 平成31年1月 29日実施	第2回 平成31年2月 12日実施	第3回 平成31年3月 5日実施	第4回 平成31年3月 26日実施	第5回 平成31年4月 16日実施	第6回 令和元年5月 10日実施	第7回 令和元年5月 23日実施	第8回 令和元年6月 6日実施	第9回 令和元年6月 27日実施	
北海道	4,200	0	0	51	0	1,211	0	0	0	900	2,162
青森	26,600	7,012	12,007	2,632	2,330	1,648	915	0	0	0	26,544
岩手	3,530	280	0	499	1,800	50	849	0	0	0	3,478
宮城	11,600	408	8,302	963	1,927	0	0	0	0	0	11,600
秋田	28,000	2,014	7,334	4,641	905	976	500	1,339	971	1,332	20,012
山形	30,500	281	73	19,332	520	3	35	1,008	27	12	21,291
福島	27,000	4,085	10,798	2,761	470	1,993	5,794	700	0	0	26,601
茨城	700	196	390	42	34	38	0	0	0	0	700
栃木	7,500	1,599	4,560	767	105	312	18	21	105	0	7,487
群馬	30	0	12	0	0	18	0	0	0	0	30
埼玉	220	94	126	0	0	0	0	0	0	0	220
千葉	1,580	120	772	422	266	0	0	0	0	0	1,580
東京											
神奈川											
新潟	27,800	160	20,052	218	995	3,127	107	36	94	0	24,789
富山	17,400	129	11,141	702	80	0	0	0	30	115	12,197
石川	7,430	138	220	3,858	344	1,500	222	286	757	0	7,325
福井	4,500	30	2,728	189	567	0	338	18	0	150	4,020
山梨											
長野	1,500	20	230	100	0	0	0	1,076	0	0	1,426
岐阜	450	10	128	80	0	90	0	0	0	127	435
静岡	20	0	0	0	0	20	0	0	0	0	20
愛知	2,000	30	444	10	76	244	18	0	0	0	822
三重	270	60	0	0	0	0	0	0	0	188	248
滋賀	1,670	79	13	949	46	165	36	10	0	10	1,308
京都											
大阪											
兵庫											
奈良											
和歌山											
鳥取	700	0	0	100	0	0	100	100	100	0	400
島根	130	0	0	0	0	130	0	0	0	0	130
岡山	1,780	85	166	110	3	41	492	47	0	0	944
広島											
山口											
徳島	1,120	798	140	57	45	15	61	0	0	0	1,116
香川											
愛媛											
高知	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10
福岡	270	0	119	44	20	0	2	79	0	0	264
佐賀	220	0	0	220	0	0	0	0	0	0	220
長崎	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本	290	0	20	56	0	111	42	0	0	18	247
大分	100	0	0	0	0	0	94	0	0	0	94
宮崎											
鹿児島											
沖縄											
都道府県別枠計	209,140	17,628	79,775	38,813	10,533	11,692	9,623	4,720	2,084	2,852	177,720
指定なし	0	0	0	0	0	2,898	285	819	703	508	5,213
合計	209,140	17,628	79,775	38,813	10,533	14,590	9,908	5,539	2,787	3,360	182,933
うちCPTPP分											9,000

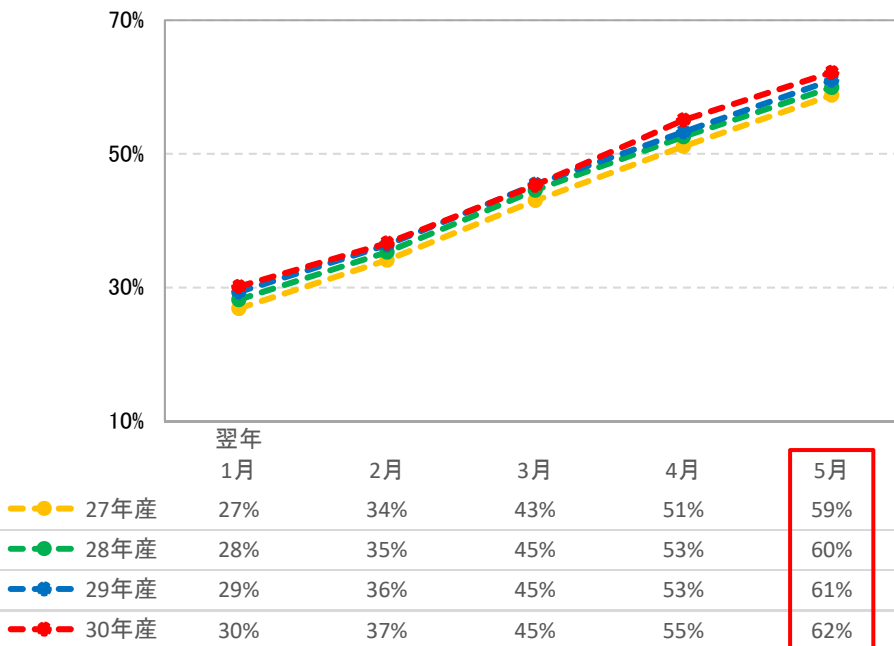
(2) 平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、令和元年5月末現在）（速報）

- 集荷数量は、前年同月と比較して▲7.1万トンの280万トン。
- 契約数量は、前年同月と比較して▲2.1万トンの265万トン。契約比率は95%。
- 販売数量は、前年同月と比較して▲3.9万トンの174万トン。販売比率は62%。

契約比率の推移(平成27～30年産)



販売比率の推移(平成27～30年産)



注：平成27～29年産は、各月末時点の契約・販売数量を生産年の翌年10月末の集荷数量で除して算出した最終実績ベース。
平成30年産は、各月末時点の契約・販売数量を令和元年5月末の集荷数量で除して算出した直近ベースのため、今後、集荷数量の増加に伴い契約・販売比率に変動が生じる場合がある。

集荷・契約・販売数量(累計、うるち米、令和元年5月末現在)(北海道から静岡まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)		(千玄米ト)				
北海道	305.9	294.1	96%	191.2	62%	84%	89%	86%
ななつぼし	139.3	133.6	96%	88.9	64%	81%	81%	81%
ゆめびりか	74.2	72.6	98%	44.1	59%	82%	97%	81%
きらら397	33.0	32.1	97%	14.7	44%	87%	88%	88%
青森	146.5	125.8	86%	82.1	56%	102%	101%	106%
まっしぐら	101.3	84.9	84%	56.8	56%	108%	107%	113%
つがるロマン	34.9	30.7	88%	16.9	48%	91%	89%	88%
岩手	129.0	128.9	100%	70.7	55%	104%	106%	97%
ひとめぼれ	99.3	99.8	101%	56.5	57%	103%	107%	96%
あきたこまち	14.8	14.7	99%	6.5	44%	89%	89%	92%
いわてっこ	2.8	2.7	99%	1.4	49%	111%	113%	120%
宮城	152.1	153.2	101%	81.1	53%	98%	100%	103%
ひとめぼれ	122.8	126.2	103%	65.4	53%	98%	101%	106%
つや姫	10.8	9.9	92%	5.9	55%	93%	90%	90%
ササニシキ	7.8	7.6	97%	4.3	55%	90%	90%	83%
秋田	249.8	243.5	97%	155.0	62%	105%	117%	106%
あきたこまち	200.9	196.7	98%	133.2	66%	104%	115%	105%
めんこいな	15.0	13.7	91%	6.1	41%	157%	175%	153%
ひとめぼれ	19.0	18.4	97%	9.0	48%	93%	94%	98%
山形	172.9	169.2	98%	114.9	66%	88%	89%	95%
はえぬき	102.6	100.2	98%	65.1	63%	87%	86%	97%
つや姫	34.2	34.2	100%	25.3	74%	88%	91%	88%
ひとめぼれ	13.9	12.9	93%	9.3	67%	77%	76%	73%
福島	157.7	146.5	93%	74.0	47%	97%	102%	92%
コシヒカリ中通り	45.8	39.1	85%	23.4	51%	89%	92%	82%
コシヒカリ会津	40.7	46.0	113%	18.4	45%	86%	97%	88%
コシヒカリ浜通り	7.5	7.3	97%	3.2	42%	79%	87%	78%
ひとめぼれ	29.8	26.3	88%	15.6	52%	101%	107%	108%
天のつぶ	20.6	17.2	84%	6.3	31%	158%	154%	119%
茨城	70.6	63.4	90%	50.9	72%	100%	97%	98%
コシヒカリ	52.5	47.0	89%	36.2	69%	97%	93%	93%
あきたこまち	9.9	9.9	100%	9.8	98%	102%	107%	106%
ミルクークイーン	1.2	1.2	100%	1.1	92%
栃木	136.2	120.7	89%	64.4	47%	111%	114%	109%
コシヒカリ	106.6	94.9	89%	49.2	46%	107%	109%	102%
あさひの夢	9.5	8.4	88%	4.4	46%	119%	119%	185%
なすひかり	9.0	7.1	79%	4.8	53%	123%	129%	121%
群馬	25.0	22.0	88%	12.0	48%	96%	85%	93%
あさひの夢	17.6	15.8	90%	8.2	47%	100%	90%	95%
ゆめまつり	4.8	3.6	75%	2.7	55%	84%	63%	83%
埼玉	18.4	16.8	92%	10.7	58%	89%	86%	91%
彩のかがやき	8.9	7.9	89%	5.8	65%	89%	82%	90%
コシヒカリ	4.7	4.4	93%	2.5	54%	75%	75%	68%
彩のきずな	3.5	3.4	95%	1.5	43%	111%	107%	157%
千葉	77.6	66.1	85%	55.1	71%	103%	93%	93%
コシヒカリ	36.7	30.3	83%	25.6	70%	95%	87%	87%
ふさこがね	17.8	14.3	80%	10.9	61%	123%	98%	96%
ふさおとめ	17.7	16.4	92%	14.4	81%	102%	97%	97%
東京	0.0	0.0	100%	0.0	100%
神奈川	2.3	1.7	74%	1.7	74%	91%	90%	90%
山梨	5.9	3.5	60%	3.5	60%	95%	88%	88%
コシヒカリ	5.0	3.0	61%	3.0	61%	95%	87%	87%
長野	66.0	65.5	99%	43.7	66%	97%	97%	108%
コシヒカリ	52.7	52.3	99%	35.1	67%	98%	98%	115%
あきたこまち	7.5	7.1	95%	4.0	54%	95%	97%	82%
静岡	6.0	6.0	100%	6.0	100%	92%	124%	124%
コシヒカリ	4.0	4.0	100%	4.0	100%	93%	121%	121%
きぬむすめ	0.7	0.7	100%	0.7	100%	102%	149%	149%
あいちのかおり	0.8	0.8	100%	0.8	100%	85%	137%	137%

注: 本表の注意点は次々頁の脚注を参照

集荷・契約・販売数量(累計、うるち米、令和元年5月末現在)(新潟から広島まで)

	集荷数量 ①	契約数量 ②	契約比率 ②/①	販売数量 ③	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)		(千玄米ト)				
新潟	259.9	246.8	95%	181.0	70%	102%	99%	103%
コシヒカリ一般	125.4	120.9	96%	91.8	73%	90%	89%	97%
コシヒカリ魚沼	31.0	26.8	86%	23.3	75%	106%	102%	118%
コシヒカリ佐渡	11.9	11.7	98%	9.0	76%	87%	86%	96%
コシヒカリ岩船	10.4	10.4	100%	7.7	74%	93%	93%	98%
こしいぶき	46.2	43.3	94%	26.8	58%	121%	116%	100%
富山	92.9	87.1	94%	64.9	70%	101%	107%	106%
コシヒカリ	71.2	66.8	94%	49.7	70%	96%	99%	99%
てんたかく	8.4	7.6	91%	6.2	74%	115%	116%	117%
石川	27.1	26.1	96%	13.3	49%	106%	103%	93%
コシヒカリ	16.7	16.7	100%	7.3	44%	96%	96%	73%
ゆめみづほ	5.4	4.6	85%	2.8	52%	113%	97%	122%
福井	69.4	68.0	98%	47.1	68%	104%	104%	98%
コシヒカリ	29.8	29.3	98%	20.0	67%	92%	91%	87%
ハナエチゼン	20.1	20.0	99%	15.9	79%	109%	108%	106%
岐阜	19.2	19.8	103%	12.4	65%	73%	77%	85%
ハツシモ	7.3	8.1	111%	4.0	55%	57%	63%	71%
コシヒカリ	6.6	6.0	92%	4.4	66%	89%	83%	89%
あきたこまち	1.7	1.7	98%	1.6	91%	87%	88%	114%
愛知	31.8	30.8	97%	20.5	65%	93%	98%	103%
あいちのかおり	16.9	17.2	102%	10.0	59%	93%	103%	110%
コシヒカリ	9.6	9.3	96%	6.8	70%	98%	95%	100%
大地の風	1.3	1.3	99%	1.0	76%	95%	95%	95%
三重	28.2	26.8	95%	18.9	67%	101%	98%	95%
コシヒカリ一般	15.6	15.4	99%	10.5	67%	101%	101%	95%
コシヒカリ伊賀	5.7	5.5	97%	3.8	66%	93%	93%	88%
キヌヒカリ	2.1	2.0	93%	1.1	51%	97%	96%	76%
滋賀	56.3	53.7	95%	36.2	64%	97%	92%	84%
コシヒカリ	20.6	19.4	94%	12.8	62%	94%	88%	74%
キヌヒカリ	10.7	9.9	92%	7.2	68%	98%	91%	93%
日本晴	4.5	4.3	95%	1.8	39%	92%	89%	71%
京都	9.4	9.4	100%	6.4	68%	75%	82%	74%
コシヒカリ	5.4	5.8	108%	3.8	71%	76%	83%	77%
キヌヒカリ	2.2	2.4	109%	1.7	79%	74%	81%	70%
ヒノヒカリ	0.9	0.8	84%	0.5	52%
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	40.1	37.6	94%	26.0	65%	99%	97%	102%
コシヒカリ	11.1	11.0	99%	8.1	73%	96%	96%	94%
ヒノヒカリ	3.6	3.3	92%	2.4	65%	79%	80%	98%
キヌヒカリ	3.4	3.2	96%	2.2	67%	97%	96%	108%
奈良	7.9	5.7	72%	5.7	72%	90%	89%	89%
ヒノヒカリ	6.1	4.2	70%	4.2	70%	89%	92%	92%
和歌山	0.9	0.9	100%	0.9	100%	60%	60%	60%
鳥取	22.3	21.3	95%	15.1	68%	106%	114%	113%
コシヒカリ	7.6	7.4	97%	5.4	72%	98%	105%	108%
きぬむすめ	8.4	7.9	94%	5.0	59%	114%	122%	117%
ひとめぼれ	5.9	5.7	97%	4.4	76%	108%	116%	117%
島根	37.8	36.4	96%	24.2	64%	98%	101%	95%
コシヒカリ	16.4	15.9	97%	10.9	66%	91%	93%	86%
きぬむすめ	14.3	13.8	96%	8.4	59%	106%	116%	109%
つや姫	4.5	4.4	98%	2.9	65%	104%	101%	98%
岡山	21.9	22.4	102%	11.8	54%	87%	89%	95%
アケボノ	6.7	6.7	100%	2.5	37%	90%	90%	101%
あきたこまち	1.6	1.8	115%	1.4	89%	77%	94%	97%
ヒノヒカリ	2.6	2.4	93%	1.4	55%	82%	76%	93%
広島	32.4	37.8	117%	21.7	67%	94%	109%	94%
コシヒカリ	13.8	16.0	115%	9.9	71%	91%	108%	94%
あきさかり	5.8	6.3	108%	4.0	68%
あきろまん	3.1	3.6	117%	1.8	59%	82%	104%	75%

注: 本表の注意点は次頁の脚注を参照

集荷・契約・販売数量(累計、うるち米、令和元年5月末現在)(山口から沖縄まで、全国計)

	集荷数量 ① (千玄米ト)	契約数量 ② (千玄米ト)	契約比率 ②/①	販売数量 ③ (千玄米ト)	販売比率 ③/①	参考:前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
						集荷数量	契約数量	販売数量
山口	40.0	37.9	95%	22.7	57%	122%	117%	127%
コシヒカリ	11.8	11.3	96%	7.6	64%	127%	124%	135%
ひとめぼれ	9.8	9.4	96%	5.9	60%	126%	122%	120%
ヒノヒカリ	8.5	8.1	95%	4.3	51%	124%	119%	124%
徳島	4.9	4.3	87%	3.7	75%	92%	80%	89%
コシヒカリ	2.3	2.0	88%	2.0	87%	80%	70%	87%
キヌヒカリ	1.3	1.3	100%	0.9	67%	87%	87%	76%
香川	21.5	19.6	91%	11.2	52%	92%	84%	81%
ヒノヒカリ	6.6	6.5	99%	3.2	49%	66%	66%	63%
コシヒカリ	7.6	7.2	94%	4.3	57%	100%	94%	81%
おいでまい	4.4	3.8	87%	2.4	54%
愛媛	9.8	8.1	82%	7.3	74%	85%	93%	88%
コシヒカリ	3.9	3.3	84%	3.2	81%	91%	93%	92%
ヒノヒカリ	1.7	1.2	68%	1.1	67%	76%	76%	79%
あきたこまち	1.4	1.0	72%	1.0	71%	90%	90%	90%
高知	8.4	8.0	95%	8.0	95%	121%	116%	150%
コシヒカリ	5.8	5.7	100%	5.7	100%	101%	101%	138%
ヒノヒカリ	0.9	0.7	77%	0.7	77%	390%	300%	298%
福岡	52.8	49.0	93%	33.3	63%	98%	98%	95%
夢つくし	17.0	16.0	94%	11.4	67%	100%	100%	91%
ヒノヒカリ	13.9	13.4	97%	9.3	67%	96%	96%	100%
元気つくし	18.6	16.8	91%	11.2	60%	98%	99%	99%
佐賀	42.0	41.5	99%	23.0	55%	98%	97%	94%
夢しずく	14.5	14.5	100%	7.8	54%	109%	108%	86%
さがびより	13.1	13.0	99%	6.5	49%	98%	97%	108%
ヒノヒカリ	9.3	9.3	100%	5.0	53%	92%	92%	92%
長崎	11.5	11.4	99%	6.8	59%	100%	101%	92%
ヒノヒカリ	3.4	3.4	99%	2.0	58%	94%	95%	84%
にこまる	5.0	4.9	98%	2.5	51%	104%	106%	90%
コシヒカリ	1.4	1.4	100%	1.2	86%	88%	90%	93%
熊本	37.9	27.3	72%	20.2	53%	101%	95%	88%
ヒノヒカリ	16.4	9.6	59%	7.8	48%	106%	83%	84%
森のくまさん	7.5	5.8	76%	3.4	45%	101%	94%	90%
コシヒカリ	5.7	5.6	100%	4.2	74%	88%	101%	93%
大分	11.9	11.9	100%	6.4	54%	89%	89%	89%
ヒノヒカリ	8.0	8.0	100%	3.5	44%	85%	85%	78%
ひとめぼれ	0.8	0.9	103%	0.5	62%	104%	101%	102%
宮崎	14.8	14.8	100%	13.2	89%	91%	91%	89%
コシヒカリ	8.5	8.5	100%	8.5	100%	85%	85%	85%
ヒノヒカリ	5.4	5.4	100%	3.9	73%	102%	102%	99%
鹿児島	11.4	11.4	100%	9.7	85%	87%	87%	87%
ヒノヒカリ	4.3	4.3	100%	2.9	66%	87%	87%	78%
コシヒカリ	3.5	3.5	100%	3.5	100%	89%	89%	89%
あきほなみ	1.5	1.5	100%	1.2	84%	69%	69%	79%
沖縄	1.6	1.6	100%	1.5	98%	101%	101%	99%
全国①	2,799	2,653	95%	1,741	62%	98%	99%	98%
参考 前年同月(29年産)②	2,870	2,674	93%	1,780	62%			
参考 前年同月差(①-②)	▲71	▲21	+2%	▲39	±0%			

資料: 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注: 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上)である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結(確認書等により数量のみが決定した契約を含む。)した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考:前年同月比」で、30年産又は29年産の同時期に数量がなかった場合は、「…」としている。

(3) 都道府県別事前契約数量（速報）

- 令和元年産の令和元年5月末現在の事前契約数量は対前年同月差+20万トンの85万トン、うち複数年契約数量は+17万トンの81万トンとなっている。

令和元年産・平成30年産 都道府県別事前契約状況（生産年5月末現在）

単位：千玄米トン

都道府県	令和元年産米 (令和元年5月末現在)			平成30年産米 (平成30年5月末現在)			対前年同月差		
	事前契約 数量 ①	複数年 契約 ②	播種前・ 収穫前契約 ③	事前契約 数量 ④	複数年 契約 ⑤	播種前・ 収穫前契約 ⑥	事前契約 数量 ①-④	複数年 契約 ②-⑤	播種前・ 収穫前契約 ③-⑥
北海道	153.7	153.7	-	133.6	133.6	-	20.0	20.0	-
青森	10.1	10.1	-	35.0	35.0	-	▲24.9	▲24.9	-
岩手	82.1	82.1	-	0.4	0.4	-	81.8	81.8	-
宮城	125.9	112.7	13.2	122.9	122.9	-	3.0	▲10.2	13.2
秋田	145.1	136.2	8.9	48.0	48.0	-	97.1	88.1	8.9
山形	21.0	21.0	-	19.1	19.1	-	1.8	1.8	-
福島	50.7	50.7	-	51.4	40.8	10.6	▲0.7	9.9	▲10.6
茨城	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	69.6	69.6	-	65.8	65.8	-	3.8	3.8	-
群馬	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	0.6	0.6	-	-	-	-	0.6	0.6	-
千葉	8.1	8.1	-	10.3	10.3	-	▲2.2	▲2.2	-
東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	31.0	31.0	-	26.3	26.3	-	4.7	4.7	-
静岡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟	110.7	110.7	-	86.1	86.1	-	24.6	24.6	-
富山	0.7	0.7	-	0.7	0.7	-	-	-	-
石川	1.5	1.5	-	1.5	1.5	-	-	-	-
福井	9.3	9.3	-	7.9	7.9	-	1.4	1.4	-
岐阜	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	1.5	1.5	-	-	-	-	1.5	1.5	-
三重	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀	7.7	7.7	-	40.0	40.0	-	▲32.3	▲32.3	-
京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	13.0	-	13.0	-	-	-	13.0	-	13.0
奈良	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	4.1	-	4.1	-	-	-	4.1	-	4.1
島根	2.4	2.4	-	-	-	-	2.4	2.4	-
岡山	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	-	-	-	2.0	2.0	-	▲2.0	▲2.0	-
山口	0.6	0.6	-	3.3	0.8	2.5	▲2.7	▲0.2	▲2.5
徳島	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	3.3	3.3	-	-	-	-	3.3	3.3	-
愛媛	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	0.6	0.6	-	-	-	-	0.6	0.6	-
佐賀	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 国	854	814	39	654	641	13	199	173	26

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の直接販売数量が5,000トン以上)である。

2 報告対象米穀は、水稻うるちもみ及び水稻うるち玄米(醸造用玄米を含む。)である。

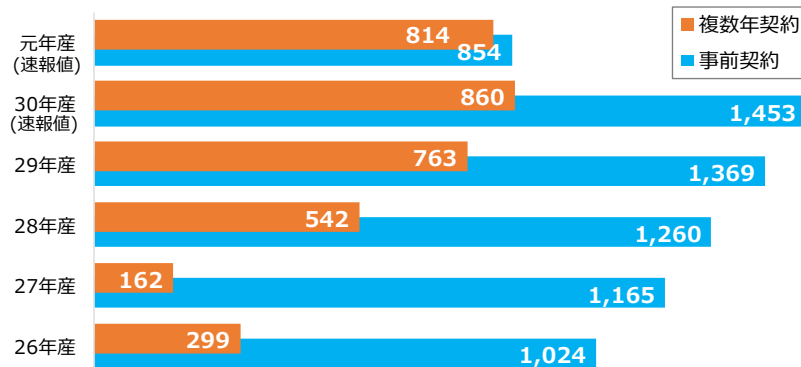
3 事前契約数量とは、は種前・収穫前契約及び複数年契約のうち、確認書等により販売数量が決定している数量である。

4 「-」は、事前契約数量に該当がないもの。

- 事前契約数量は、近年増加傾向にあり、平成30年産では対29年産比6%増の145万ト、また令和元年産では85万トとなっている（令和元年5月末現在）。
- 令和元年産の事前契約数量は対生産年1月+12万トとなっている（令和元年5月末現在）。

年産別 事前契約数量の推移

(千玄米ト)



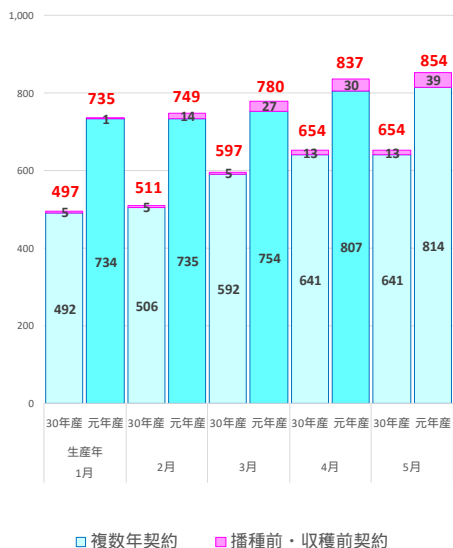
令和元年産 都道府県別事前契約数量の推移 (速報)

単位：千玄米トン

都道府県	平成31年				令和元年		②-①	都道府県	平成31年				令和元年		②-①
	1月末現在①	2月末現在	3月末現在	4月末現在②	5月末現在②	②-①			1月末現在①	2月末現在	3月末現在	4月末現在②	5月末現在②	②-①	
北海道	153.7	153.7	153.7	153.7	153.7	-	滋賀	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	-		
青森	-	-	10.2	10.1	10.1	10.1	京都	-	-	-	-	-	-		
岩手	82.1	82.1	82.1	82.1	82.1	-	大阪	-	-	-	-	-	-		
宮城	105.3	105.3	126.3	126.3	125.9	20.6	兵庫	-	13.0	13.0	13.0	13.0	13.0		
秋田	86.4	86.4	86.4	136.2	145.1	58.8	奈良	-	-	-	-	-	-		
山形	21.0	21.0	21.0	21.0	21.0	-	和歌山	-	-	-	-	-	-		
福島	43.7	43.7	43.7	43.7	50.7	7.0	鳥取	-	-	-	4.1	4.1	4.1		
茨城	-	-	-	-	-	-	島根	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	-		
栃木	69.6	69.6	69.6	69.6	69.6	-	岡山	-	-	-	-	-	-		
群馬	-	-	-	-	-	-	広島	-	-	-	-	-	-		
埼玉	-	-	0.6	0.6	0.6	0.6	山口	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.1		
千葉	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	-	徳島	-	-	-	-	-	-		
東京	-	-	-	-	-	-	香川	-	-	-	3.3	3.3	3.3		
神奈川	-	-	-	-	-	-	愛媛	-	-	-	-	-	-		
山梨	-	-	-	-	-	-	高知	-	-	-	-	-	-		
長野	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	-	福岡	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	-		
静岡	-	-	-	-	-	-	佐賀	-	-	-	-	-	-		
新潟	110.7	110.7	110.7	110.7	110.7	-	長崎	-	-	-	-	-	-		
富山	-	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	熊本	-	-	-	-	-	-		
石川	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-	大分	-	-	-	-	-	-		
福井	9.0	9.0	9.0	9.0	9.3	0.3	宮崎	-	-	-	-	-	-		
岐阜	-	-	-	-	-	-	鹿児島	-	-	-	-	-	-		
愛知	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-	沖縄	-	-	-	-	-	-		
三重	-	-	-	-	-	-	全 国	735	749	780	837	854	119		

令和元年産・平成30年産 事前契約数量の推移 (全国) (速報)

(千玄米トン)



- 平成30年産において事前契約を行なっている都道府県は38道府県、うち複数年契約を行っている都道府県は23道県。
- また、平成29年産と比べて事前契約数量が増加した都道府県は22県。

平成29・30年産 都道府県別事前契約数量の推移

単位:千玄米トン

	29年産	30年産	播種前・収穫前契約	複数年契約	前年差	前年比		29年産	30年産	播種前・収穫前契約	複数年契約	前年差	前年比
	①	②			③=②-①	④=②/①		③=②-①	④=②/①				
1 秋田	90.5	183.0	97.0	86.0	+92.5	202%	25 佐賀	26.3	26.2	26.2	-	▲ 0.1	99%
2 栃木	64.8	73.1	2.0	71.1	+8.3	113%	26 宮崎	8.6	8.2	8.2	-	▲ 0.3	96%
3 宮城	118.7	124.3	16.2	108.1	+5.6	105%	27 静岡	2.5	1.9	1.9	-	▲ 0.6	77%
4 長野	27.4	32.5	0.7	31.8	+5.2	119%	28 大分	5.9	5.3	5.3	-	▲ 0.6	89%
5 愛媛	0.9	4.2	4.2	-	+3.3	473%	29 島根	35.0	34.2	31.0	3.2	▲ 0.7	98%
6 長崎	4.0	7.0	7.0	-	+3.0	175%	30 京都	8.0	7.1	7.1	-	▲ 0.9	89%
7 山形	71.9	74.7	52.5	22.2	+2.8	104%	31 徳島	0.9	-	-	-	▲ 0.9	
8 富山	46.1	48.9	40.7	8.2	+2.8	106%	32 石川	23.8	22.4	20.9	1.5	▲ 1.4	94%
9 山口	24.4	27.1	26.2	0.8	+2.7	111%	33 青森	54.1	52.4	15.2	37.2	▲ 1.7	97%
10 兵庫	10.0	12.5	12.5	-	+2.6	126%	34 滋賀	43.0	40.0	3.5	36.5	▲ 3.0	93%
11 香川	14.1	16.4	16.4	-	+2.3	116%	35 岐阜	13.9	9.2	6.6	2.6	▲ 4.7	66%
12 福島	50.2	52.3	10.6	41.8	+2.1	104%	36 新潟	166.1	159.9	32.7	127.2	▲ 6.2	96%
13 福井	6.8	8.3	-	8.3	+1.5	122%	37 茨城	24.5	16.0	13.5	2.5	▲ 8.5	65%
14 熊本	15.8	17.1	17.1	-	+1.3	108%	38 北海道	183.1	174.6	1.2	173.3	▲ 8.5	95%
15 広島	25.1	26.2	24.2	2.0	+1.1	105%	39 千葉	27.9	10.3	-	10.3	▲ 17.5	37%
16 埼玉	8.2	9.2	8.6	0.6	+1.1	113%	40 東京	-	-	-	-		
17 岩手	91.3	92.2	9.9	82.4	+1.0	101%	" 神奈川	-	-	-	-		
18 愛知	14.5	15.1	13.5	1.5	+0.6	104%	" 山梨	-	-	-	-		
19 岡山	-	0.5	0.5	-	+0.5		" 大阪	-	-	-	-		
20 鳥取	5.4	5.7	5.7	-	+0.3	105%	" 奈良	-	-	-	-		
21 三重	19.8	20.0	20.0	-	+0.2	101%	" 和歌山	-	-	-	-		
22 福岡	32.9	33.0	32.4	0.6	+0.1	100%	" 鹿児島	-	-	-	-		
23 群馬	0.1	0.1	0.1	-	0.0	100%	" 沖縄	-	-	-	-		
24 高知	2.1	2.0	2.0	-	▲ 0.1	95%	全国	1,369	1,453	594	860	+84	106%

注1 29年産は生産年の翌年10月末時点、30年産は元年5月末時点の数量である。

注2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

平成30年産 業態区分別事前契約数量

単位:千玄米トン

	事前契約	播種前・収穫前契約	複数年契約
30年産	1,453	594	860
全国農業協同組合連合会 経済連及び県単一農協等 全集連・全集連系県集荷組合	1,376	539	837
単位農協 全集連系業者	77	54	23

注1 数量は、元年5月末時点である。

注2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

平成29・30年産 都道府県別事前契約状況

単位：千玄米トン

都道府県	29年産					30年産(令和元年5月末現在)				
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約	複数年契約比率	集荷数量 ④	うち事前契約 ⑤	事前契約比率 ⑤/④	うち複数年契約	複数年契約比率
				③	③/①				⑥	⑥/④
北海道	373.0	183.1	49%	142.6	38%	305.9	174.6	57%	173.3	57%
青森	145.6	54.1	37%	37.0	25%	146.5	52.4	36%	37.2	25%
岩手	124.9	91.3	73%	83.1	67%	129.0	92.2	72%	82.4	64%
宮城	155.8	118.7	76%	103.7	67%	152.1	124.3	82%	108.1	71%
秋田	243.5	90.5	37%	62.8	26%	249.8	183.0	73%	86.0	34%
山形	207.8	71.9	35%	19.8	10%	172.9	74.7	43%	22.2	13%
福島	165.1	50.2	30%	43.7	26%	157.7	52.3	33%	41.8	27%
茨城	72.4	24.5	34%	2.5	3%	70.6	16.0	23%	2.5	4%
栃木	122.7	64.8	53%	64.8	53%	136.2	73.1	54%	71.1	52%
群馬	26.2	0.1	0%	-	-	25.0	0.1	0%	-	-
埼玉	21.2	8.2	38%	-	-	18.4	9.2	50%	0.6	3%
千葉	75.6	27.9	37%	10.3	14%	77.6	10.3	13%	10.3	13%
東京	-	-	-	-	-	0.0	-	-	-	-
神奈川	2.5	-	-	-	-	2.3	-	-	-	-
山梨	6.3	-	-	-	-	5.9	-	-	-	-
長野	68.8	27.4	40%	25.7	37%	66.0	32.5	49%	31.8	48%
静岡	6.6	2.5	38%	-	-	6.0	1.9	32%	-	-
新潟	258.4	166.1	64%	106.7	41%	259.9	159.9	62%	127.2	49%
富山	92.1	46.1	50%	8.6	9%	92.9	48.9	53%	8.2	9%
石川	25.7	23.8	93%	1.5	6%	27.1	22.4	83%	1.5	6%
福井	67.1	6.8	10%	6.8	10%	69.4	8.3	12%	8.3	12%
岐阜	26.8	13.9	52%	2.6	10%	19.2	9.2	48%	2.6	14%
愛知	34.4	14.5	42%	-	-	31.8	15.1	47%	1.5	5%
三重	28.0	19.8	71%	-	-	28.2	20.0	71%	-	-
滋賀	58.3	43.0	74%	34.2	59%	56.3	40.0	71%	36.5	65%
京都	12.6	8.0	64%	-	-	9.4	7.1	76%	-	-
大阪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	40.9	10.0	24%	-	-	40.1	12.5	31%	-	-
奈良	8.7	-	-	-	-	7.9	-	-	-	-
和歌山	1.5	-	-	-	-	0.9	-	-	-	-
鳥取	21.1	5.4	26%	-	-	22.3	5.7	25%	-	-
島根	39.0	35.0	90%	3.3	8%	37.8	34.2	91%	3.2	8%
岡山	25.5	-	-	-	-	21.9	0.5	2%	-	-
広島	34.7	25.1	72%	2.0	6%	32.4	26.2	81%	2.0	6%
山口	32.8	24.4	74%	0.7	2%	40.0	27.1	68%	0.8	2%
徳島	5.3	0.9	17%	-	-	4.9	-	-	-	-
香川	23.7	14.1	59%	-	-	21.5	16.4	76%	-	-
愛媛	11.8	0.9	7%	-	-	9.8	4.2	42%	-	-
高知	6.9	2.1	30%	-	-	8.4	2.0	23%	-	-
福岡	53.9	32.9	61%	0.6	1%	52.8	33.0	63%	0.6	1%
佐賀	42.6	26.3	62%	-	-	42.0	26.2	62%	-	-
長崎	11.7	4.0	34%	-	-	11.5	7.0	61%	-	-
熊本	37.5	15.8	42%	-	-	37.9	17.1	45%	-	-
大分	13.5	5.9	44%	-	-	11.9	5.3	45%	-	-
宮崎	16.2	8.6	53%	-	-	14.8	8.2	55%	-	-
鹿児島	13.4	-	-	-	-	11.4	-	-	-	-
沖縄	1.5	-	-	-	-	1.6	-	-	-	-
全国	2,914	1,369	47%	763	26%	2,799	1,453	52%	860	31%

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注： 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 29年産は生産年の翌年10月末時点、30年産は元年5月末時点の数量である。

4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5 事前契約分とは、注4の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、都道府県の合計と一致しない。

7 「-」は、集荷数量や事前契約に該当がないもの。

主食用米の需要に応じた生産・販売

－ 需給や価格を安定させるためには、「産地と実需者との間での安定取引の拡大」が重要です－

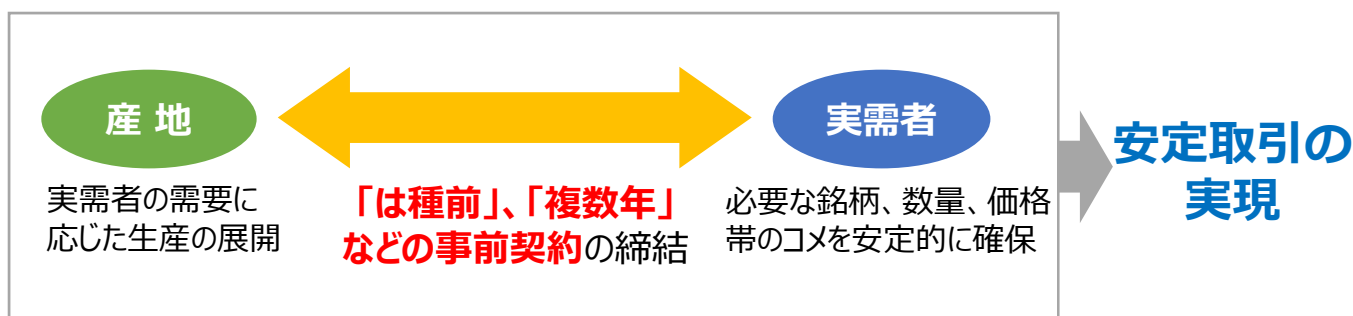
需要に基づかない生産にはリスクが伴います

需給緩和局面において、需要に基づかない生産が産地で行われていた場合、行き場の決まっていないコメは値下げ販売を余儀なくされるほか、他の産地の販売動向にも影響を与えてしまいます。

そうならないために

事前契約による安定取引の拡大が重要です

産地は、「は種前」、「複数年」などの事前契約に取り組むことによって需要を的確に捉えることができるほか、価格の安定化にもつなげることができます。



安定取引の実現のためには、**は種前に価格もセットで事前契約を行うことが重要です！**

事前契約を行うメリット

産地	<ul style="list-style-type: none">相場変動リスクの回避（需給変動等による価格変動幅を一定程度に収めることができる）経営の見通しが立てられる（収穫前に販売先、販売量等の見通しが立てられる）経営の安定化（需給環境に左右されず、安定して販売先を確保できる）
実需者	<ul style="list-style-type: none">求める品質・価格・量に応じたコメの安定的な仕入ができる経営の見通しが立てられる（収穫前に仕入コスト等の見通しが立てられる）経営の安定化（需給環境に左右されず、安定して仕入先を確保できる）

POINT

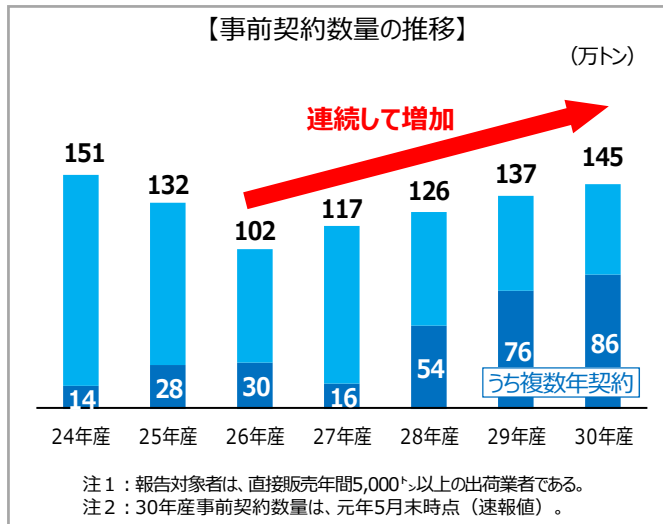
事前契約は、全体の需給均衡を図りながら、実需者の需要に応じた生産を行う上で最も効果的な手段であり、農業者の経営の安定化のためにも産地の主体的な取組拡大が重要です。

事前契約の取組が全国的に拡大しています

全国的にみると、事前契約数量は平成26年産以降から増加傾向にあります。産地別の取組状況には、バラツキがみられます。

産地別の事前契約の取組状況（平成29/30年産）

（単位：千トン）

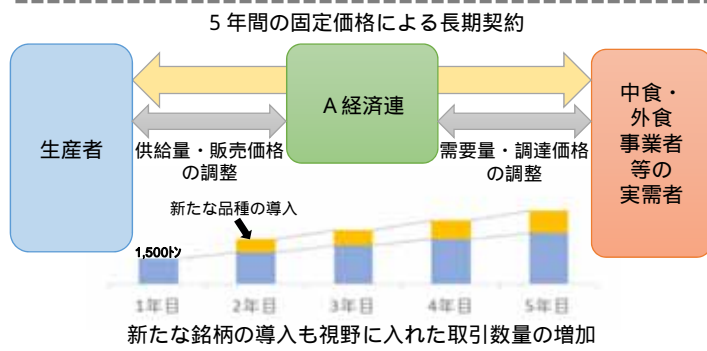


産地	前年比 ②/①	事前契約数量		産地	前年比 ②/①	事前契約数量	
		30年産 ②	29年産 ①			30年産 ②	29年産 ①
北海道	95%	174.6	183.1	滋賀	93%	40.0	43.0
青森	97%	52.4	54.1	京都	89%	7.1	8.0
岩手	101%	92.2	91.3	大阪	-	-	-
宮城	105%	124.3	118.7	兵庫	125%	12.5	10.0
秋田	202%	183.0	90.5	奈良	-	-	-
山形	104%	74.7	71.9	和歌山	-	-	-
福島	104%	52.3	50.2	鳥取	106%	5.7	5.4
茨城	65%	16.0	24.5	島根	98%	34.2	35.0
栃木	113%	73.1	64.8	岡山	-	0.5	-
群馬	100%	0.1	0.1	広島	104%	26.2	25.1
埼玉	112%	9.2	8.2	山口	111%	27.1	24.4
千葉	37%	10.3	27.9	徳島	-	-	0.9
東京	-	-	-	香川	116%	16.4	14.1
神奈川	-	-	-	愛媛	467%	4.2	0.9
山梨	-	-	-	高知	95%	2.0	2.1
長野	119%	32.5	27.4	福岡	100%	33.0	32.9
静岡	76%	1.9	2.5	佐賀	100%	26.2	26.3
新潟	96%	159.9	166.1	長崎	175%	7.0	4.0
富山	106%	48.9	46.1	熊本	108%	17.1	15.8
石川	94%	22.4	23.8	大分	90%	5.3	5.9
福井	122%	8.3	6.8	宮崎	95%	8.2	8.6
岐阜	66%	9.2	13.9	鹿児島	-	-	-
愛知	104%	15.1	14.5	沖縄	-	-	-
三重	101%	20.0	19.8	全国	106%	1,453	1,369

注 30年産事前契約数量は、元年5月末時点（速報値）。

取組事例（中食・外食事業者等との5年間の長期契約取引）

- A 経済連では、30年産からの米政策の見直しを機に、生産者にとっても経営のメリットとなるとして、実需者サイドの需要量・調達価格と、生産者サイドの供給量・販売価格の調整を行い、30年産から中食・外食事業者等の実需者との5年間の固定価格による長期契約取引を開始している。
- この取組は生産者、実需者双方から一定の評価を得られており、生産者サイドでは、次年度以降には新たな銘柄の導入や専用作付農地の集積などにより取引数量を増加させたいと考えている（開始初年度の契約数量は、1,500トン程度）。
また、契約終了の段階で、取引価格や契約年数の検証を行い、契約の継続や取引数量の増加に繋げていくこととしている。



以上を踏まえ

翌年産以降の自産地の取組みについて、他の産地に乗り遅れることのないよう事前契約の拡大を今一度検討してみませんか？

<お知らせ>

下記年月に公表した「米に関するマンスリーレポート」では、事前契約についての特集記事を掲載しております。

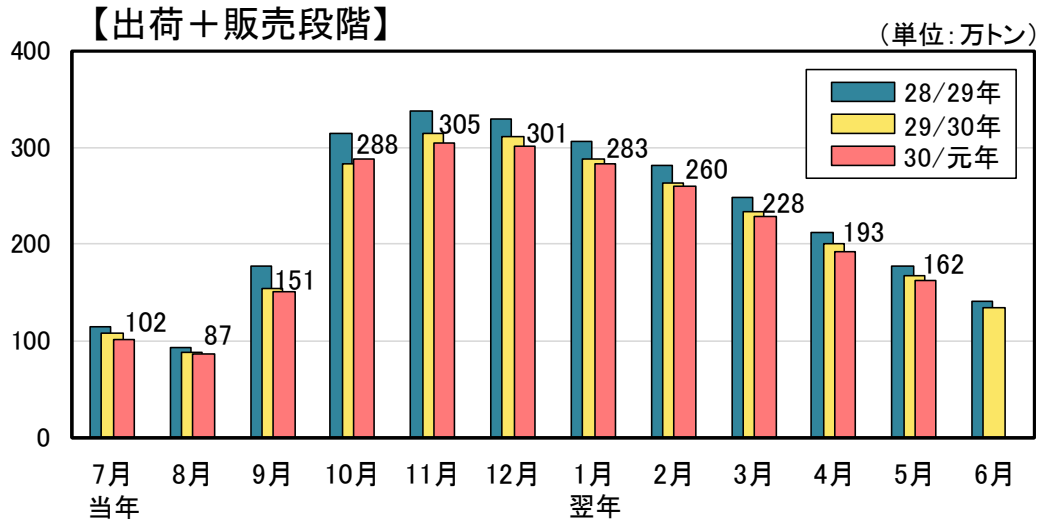
- ・ 平成30年4月号 「事前契約の取組状況について」
- ・ 平成29年2月号 「産地別の事前契約及び複数年契約数量の状況」

Ⅱ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 令和元年5月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月比▲5万トンの162万トンとなっている。

※ 産地別の在庫量は、16頁以降参照。



(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	(注7) 119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
29年産米	1	15	104	241	282	287	270	249	223	192	160	129
1年古米(28年産)	103	71	48	38	29	20	14	11	8	6	5	4
30/31年	102	87	151	288	305	301	283	260	228	193	162	
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲5	▲3	▲7	▲8	▲5	
30年産米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	
1年古米(29年産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

4 期間については、30/31年であれば、30年7月～元年6月である。

5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。

6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。

7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	257	240	218	186	158	130	103
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲19	▲20	▲18	▲14	▲13	▲12	▲9
29年産米	0	11	89	211	247	248	233	213	183	155	128	102
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9	6	4	3	2	2	1
30/31年	76	63	120	236	252	249	236	217	184	151	127	
対前年差	▲8	▲3	▲4	+5	▲10	▲8	▲3	▲1	▲3	▲7	▲3	
30年産米	1	14	90	219	240	240	229	211	180	148	125	
1年古米(29年産)	74	48	30	15	11	7	6	4	3	2	2	

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54	48	45	48	44	37	31
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	+1	+1	+3	±0	+1	+2	+2	+2
29年産米	0	4	15	30	35	39	37	36	40	37	32	28
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16	12	8	7	5	4	3	2
30/31年	26	25	31	53	53	53	47	43	44	42	35	
対前年差	+3	+2	±0	±0	±0	▲1	▲1	▲2	▲4	▲2	▲2	
30年産米	0	4	13	29	33	37	34	33	36	36	30	
1年古米(29年産)	23	19	16	21	17	13	10	8	6	5	4	

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成30年産（令和元年5月末）

【出荷＋販売段階】

（単位：千トン）

産地	30年産 (R1.5末)	29年産 (H30.5末)	前年 同月比	産地	30年産 (R1.5末)	29年産 (H30.5末)	前年 同月比
北海道	166.4	189.7	88%	滋賀	30.9	24.6	126%
青森	89.0	94.4	94%	京都	5.5	6.6	83%
岩手	72.9	67.8	108%	大阪	0.8	1.2	64%
宮城	97.7	100.3	97%	兵庫	23.2	23.1	100%
秋田	117.4	128.0	92%	奈良	3.8	3.6	105%
山形	78.3	98.5	79%	和歌山	0.7	1.1	62%
福島	112.2	117.9	95%	鳥取	14.3	16.6	86%
茨城	52.3	58.5	89%	島根	15.7	15.0	105%
栃木	93.1	87.6	106%	岡山	27.8	30.4	91%
群馬	16.1	17.2	94%	広島	17.5	17.8	98%
埼玉	15.4	17.3	89%	山口	19.4	17.8	109%
千葉	48.0	40.8	118%	徳島	4.5	4.7	96%
東京	0.0	0.0	-	香川	10.7	10.0	107%
神奈川	0.7	0.8	92%	愛媛	5.1	5.6	92%
新潟	106.7	107.2	100%	高知	3.2	4.9	66%
富山	39.3	39.9	98%	福岡	32.5	31.0	105%
石川	27.8	24.8	112%	佐賀	21.2	20.7	103%
福井	32.9	26.3	125%	長崎	5.4	4.9	111%
山梨	2.7	2.5	107%	熊本	31.6	24.5	129%
長野	29.3	35.5	83%	大分	10.4	10.7	97%
岐阜	11.3	15.5	73%	宮崎	4.9	4.3	112%
静岡	3.5	4.9	72%	鹿児島	9.9	8.2	121%
愛知	17.4	20.3	86%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	15.7	12.9	122%	全国計	1,545	1,596	97%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

(3) 平成29・30年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米) (速報)

(北海道から秋田) (単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月	
北海道	出荷+販売段階	122.0	85.4	74.0	269.5	316.0	317.8	300.5	273.7	241.0	205.6	176.7		
	30年産米			19.8	225.9	281.6	291.6	279.5	256.4	227.3	193.6	166.4		
	1年古米(29年産)	119.9	83.9	52.9	42.7	33.5	25.4	20.3	16.6	13.1	11.5	9.8		
	出荷段階	92.4	60.1	50.4	203.9	245.7	247.5	236.2	215.1	188.8	154.9	134.2		
	30年産米			15.3	184.8	232.9	238.6	229.6	210.2	185.5	152.0	131.9		
	1年古米(29年産)	92.1	60.0	35.0	19.1	12.8	8.9	6.6	4.9	3.3	2.9	2.3		
	販売段階	29.6	25.3	23.6	65.7	70.2	70.3	64.3	58.6	52.2	50.7	42.5		
	30年産米			4.4	41.1	48.7	53.0	49.9	46.2	41.7	41.6	34.5		
	1年古米(29年産)	27.8	23.9	18.0	23.6	20.7	16.5	13.7	11.7	9.9	8.6	7.5		
	青森	出荷+販売段階	66.1	50.2	50.5	134.1	127.3	132.7	148.7	132.6	126.4	112.2	96.1	
		30年産米			14.7	108.0	105.2	117.6	136.9	126.2	122.0	109.0	93.8	
		1年古米(29年産)	64.7	49.2	35.0	25.6	21.7	14.9	11.5	6.2	4.4	3.2	2.3	
出荷段階		46.8	33.3	37.7	113.2	104.1	110.7	130.3	116.0	103.1	88.4	74.7		
30年産米				14.6	100.8	94.4	104.7	125.7	115.4	103.0	88.3	74.7		
1年古米(29年産)		46.8	33.3	23.1	12.4	9.7	5.9	4.4	0.5	0.2	0.1	0.1		
販売段階		19.3	17.0	12.8	20.9	23.1	22.1	18.4	16.6	23.2	23.8	21.4		
30年産米				0.2	7.2	10.8	12.9	11.1	10.8	19.0	20.7	19.1		
1年古米(29年産)		17.9	15.9	11.9	13.2	12.0	9.0	7.1	5.7	4.2	3.1	2.2		
岩手		出荷+販売段階	40.4	27.2	24.3	114.3	132.9	144.0	132.5	121.0	103.6	89.7	75.1	
		30年産米			4.0	98.0	121.9	137.1	124.5	114.3	100.2	86.8	72.9	
		1年古米(29年産)	38.5	25.6	18.5	15.1	10.0	6.1	5.0	4.1	2.9	2.4	1.8	
	出荷段階	31.8	19.6	15.6	97.8	117.3	129.1	119.7	109.6	89.3	75.0	64.2		
	30年産米			3.6	90.8	112.7	126.5	115.4	105.9	88.1	74.0	63.3		
	1年古米(29年産)	30.9	18.8	10.8	6.5	4.2	2.1	1.7	1.4	0.9	0.7	0.6		
	販売段階	8.6	7.6	8.7	16.4	15.6	14.9	12.7	11.4	14.3	14.6	11.0		
	30年産米			0.4	7.2	9.3	10.6	9.2	8.4	12.1	12.9	9.6		
	1年古米(29年産)	7.6	6.8	7.7	8.6	5.8	4.0	3.3	2.7	2.0	1.7	1.3		
	宮城	出荷+販売段階	68.4	47.7	62.6	155.7	152.5	148.1	147.1	147.6	135.6	119.5	101.9	
		30年産米			32.5	130.8	135.1	135.6	137.6	140.0	129.2	114.1	97.7	
		1年古米(29年産)	66.1	46.0	28.8	23.7	16.4	11.9	8.9	7.0	5.9	4.9	3.8	
出荷段階		56.8	36.6	52.8	131.6	128.7	124.4	127.0	129.2	116.2	99.7	85.8		
30年産米				30.8	120.6	121.7	119.8	123.6	126.5	114.0	97.8	84.3		
1年古米(29年産)		55.8	35.9	21.3	10.5	6.4	4.2	3.0	2.3	1.9	1.6	1.2		
販売段階		11.6	11.1	9.9	24.1	23.8	23.8	20.0	18.5	19.4	19.8	16.1		
30年産米				1.7	10.3	13.3	15.8	14.0	13.6	15.2	16.3	13.4		
1年古米(29年産)		10.3	10.1	7.4	13.3	10.0	7.7	5.9	4.7	4.0	3.4	2.6		
秋田		出荷+販売段階	79.4	52.8	93.9	259.4	258.4	261.5	239.6	214.5	179.1	151.4	122.6	
		30年産米		0.0	62.2	234.3	236.8	243.1	223.8	201.6	169.2	144.3	117.4	
		1年古米(29年産)	76.8	50.9	30.4	24.0	20.9	17.9	14.5	11.9	9.8	7.0	5.2	
	出荷段階	62.9	39.6	82.4	237.0	232.8	233.3	215.3	192.5	151.8	125.6	102.6		
	30年産米			60.6	223.7	222.4	225.4	208.2	186.8	147.8	122.9	100.8		
	1年古米(29年産)	62.1	39.0	21.5	13.1	10.2	7.8	6.2	4.9	4.0	2.7	1.9		
	販売段階	16.5	13.2	11.5	22.4	25.6	28.3	24.3	22.0	27.3	25.8	20.0		
	30年産米			1.6	10.6	14.4	17.7	15.7	14.8	21.4	21.4	16.6		
	1年古米(29年産)	14.8	11.9	8.9	10.9	10.7	10.1	8.3	6.9	5.8	4.3	3.3		

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月	
山形	出荷＋販売段階	66.0	48.3	48.8	145.2	160.3	163.0	147.1	138.5	111.1	94.5	82.4		
	30年産米			17.9	117.8	140.4	149.5	135.2	129.3	104.8	89.5	78.3		
	1年古米(29年産)	62.8	45.8	28.9	25.9	18.7	12.4	9.7	7.3	5.8	4.6	3.7		
	出荷段階	55.4	38.5	38.6	124.3	139.7	143.3	131.2	124.8	98.2	80.0	69.5		
	30年産米			17.4	110.4	130.9	137.7	125.8	120.8	96.0	78.3	68.1		
	1年古米(29年産)	54.3	37.7	20.6	13.5	8.5	5.2	4.0	2.7	2.1	1.6	1.2		
	販売段階	10.6	9.8	10.3	20.9	20.6	19.7	15.9	13.7	12.9	14.5	12.9		
	30年産米			0.5	7.4	9.5	11.8	9.4	8.5	8.8	11.2	10.1		
	1年古米(29年産)	8.5	8.1	8.4	12.4	10.2	7.1	5.7	4.6	3.7	3.0	2.5		
	福島	出荷＋販売段階	80.9	57.7	58.6	202.7	213.5	205.4	186.9	189.8	166.1	137.2	118.2	
		30年産米			13.4	151.0	171.3	173.8	162.9	173.0	155.1	129.3	112.2	
		1年古米(29年産)	78.8	56.1	43.9	50.6	41.2	30.8	23.4	16.2	10.4	7.5	5.7	
出荷段階		61.9	43.5	45.8	161.2	171.6	166.2	153.3	147.7	130.0	104.6	92.0		
30年産米				12.5	137.8	152.6	152.3	142.6	140.6	125.3	101.3	89.5		
1年古米(29年産)		61.5	43.1	33.0	23.3	18.9	13.8	10.7	7.0	4.6	3.3	2.5		
販売段階		18.9	14.2	12.9	41.5	41.8	39.2	33.6	42.1	36.1	32.6	26.2		
30年産米				0.8	13.2	18.7	21.6	20.3	32.4	29.9	28.0	22.7		
1年古米(29年産)		17.3	13.0	10.9	27.4	22.2	17.0	12.8	9.2	5.8	4.2	3.2		
茨城		出荷＋販売段階	32.6	47.6	114.6	131.0	124.2	116.3	107.9	97.9	85.1	69.6	55.0	
		30年産米		26.4	96.5	117.8	114.3	108.7	101.7	93.0	81.0	66.4	52.3	
		1年古米(29年産)	32.0	20.6	17.5	12.7	9.6	7.4	5.9	4.7	4.0	3.1	2.6	
	出荷段階	17.0	27.3	74.6	89.3	85.4	79.7	71.7	64.6	54.3	42.0	31.6		
	30年産米		17.3	68.6	85.8	83.0	78.1	70.5	63.7	53.5	41.3	30.9		
	1年古米(29年産)	16.9	9.9	6.0	3.4	2.4	1.5	1.2	0.8	0.8	0.7	0.7		
	販売段階	15.6	20.3	39.9	41.7	38.8	36.6	36.1	33.3	30.8	27.6	23.5		
	30年産米		9.0	28.0	32.0	31.3	30.5	31.2	29.3	27.5	25.1	21.4		
	1年古米(29年産)	15.1	10.8	11.6	9.3	7.2	5.8	4.7	3.9	3.2	2.4	1.9		
	栃木	出荷＋販売段階	59.2	42.2	111.3	158.1	173.4	168.1	154.1	141.9	128.8	111.2	95.6	
		30年産米		0.1	79.9	126.5	151.6	154.4	144.8	135.6	124.5	107.9	93.1	
		1年古米(29年産)	57.6	41.0	30.5	31.0	21.3	13.3	9.1	6.1	4.3	3.2	2.4	
出荷段階		40.6	28.0	94.2	124.8	140.2	138.0	129.2	117.2	103.2	86.8	74.3		
30年産米			0.1	73.1	111.0	132.3	133.8	126.5	115.5	102.0	86.0	73.7		
1年古米(29年産)		40.5	27.9	21.0	13.7	7.8	4.2	2.7	1.7	1.2	0.8	0.6		
販売段階		18.6	14.2	17.1	33.4	33.2	30.0	24.8	24.7	25.6	24.4	21.3		
30年産米				6.8	15.5	19.3	20.6	18.3	20.1	22.5	21.9	19.4		
1年古米(29年産)		17.1	13.1	9.5	17.3	13.5	9.1	6.3	4.4	3.0	2.3	1.8		
群馬		出荷＋販売段階	11.3	7.4	5.5	10.3	22.3	29.6	29.1	28.0	25.3	19.2	16.4	
		30年産米			0.4	7.3	20.3	28.3	28.2	27.2	24.7	18.8	16.1	
		1年古米(29年産)	11.3	7.4	5.0	3.0	2.0	1.3	1.0	0.8	0.6	0.4	0.3	
	出荷段階	8.4	4.9	3.2	7.1	18.9	27.2	26.0	24.4	22.3	16.0	13.5		
	30年産米			0.4	6.9	18.8	27.2	26.0	24.4	22.3	16.0	13.5		
	1年古米(29年産)	8.4	4.9	2.8	0.2	0.1					0.0	0.0		
	販売段階	2.9	2.6	2.3	3.2	3.4	2.5	3.1	3.6	3.0	3.2	2.9		
	30年産米			0.1	0.4	1.5	1.2	2.1	2.8	2.5	2.8	2.7		
	1年古米(29年産)	2.9	2.5	2.2	2.8	1.9	1.3	1.0	0.8	0.6	0.4	0.3		
	埼玉	出荷＋販売段階	14.2	11.9	15.1	29.2	34.4	35.1	31.3	28.6	26.1	20.7	16.4	
		30年産米		1.0	4.4	20.8	27.5	29.8	27.0	25.2	23.6	19.0	15.4	
		1年古米(29年産)	13.8	10.6	10.4	8.2	6.7	5.3	4.2	3.4	2.5	1.7	1.1	
出荷段階		7.9	6.5	6.9	19.3	24.0	25.9	23.6	22.1	19.1	15.1	12.2		
30年産米			0.6	2.9	16.0	21.3	23.9	22.0	20.9	18.2	14.6	11.9		
1年古米(29年産)		7.9	5.9	4.0	3.3	2.8	2.0	1.6	1.2	0.9	0.5	0.3		
販売段階		6.3	5.4	8.2	9.9	10.4	9.2	7.7	6.5	7.0	5.6	4.2		
30年産米			0.3	1.5	4.8	6.3	5.9	5.0	4.3	5.4	4.4	3.4		
1年古米(29年産)		5.9	4.7	6.4	4.9	3.9	3.3	2.6	2.2	1.7	1.1	0.8		

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月	
千葉	出荷+販売段階	19.2	81.7	113.9	112.7	105.7	91.9	83.3	75.5	68.6	59.1	49.1		
	30年産米		70.4	105.7	106.6	100.5	88.0	80.0	72.9	66.7	57.8	48.0		
	1年古米(29年産)	19.0	11.2	8.1	6.1	5.2	3.9	3.3	2.6	1.9	1.3	1.1		
	出荷段階	7.8	68.1	96.5	96.3	90.1	74.5	66.9	60.9	46.1	37.8	32.5		
	30年産米		65.1	94.4	94.7	88.8	73.5	66.0	60.2	45.4	37.3	32.0		
	1年古米(29年産)	7.8	3.0	2.0	1.6	1.3	1.1	0.9	0.6	0.6	0.5	0.5		
	販売段階	11.4	13.6	17.4	16.4	15.5	17.4	16.4	14.6	22.5	21.3	16.6		
	30年産米		5.3	11.2	11.9	11.6	14.5	14.0	12.7	21.3	20.5	16.0		
	1年古米(29年産)	11.2	8.2	6.1	4.4	3.9	2.9	2.4	1.9	1.2	0.8	0.6		
	東京	出荷+販売段階										0.0	0.0	
		30年産米										0.0	0.0	
		1年古米(29年産)												
出荷段階														
30年産米														
1年古米(29年産)														
販売段階											0.0	0.0		
30年産米											0.0	0.0		
1年古米(29年産)														
神奈川		出荷+販売段階	0.5	0.3	0.4	2.1	1.9	1.7	1.4	1.2	1.0	0.9	0.7	
		30年産米			0.3	2.1	1.8	1.7	1.4	1.2	1.0	0.9	0.7	
		1年古米(29年産)	0.5	0.3	0.2							0.0	0.0	
	出荷段階	0.4	0.3	0.4	2.1	1.8	1.6	1.4	1.2	1.0	0.8	0.6		
	30年産米			0.3	2.0	1.8	1.6	1.4	1.2	1.0	0.8	0.6		
	1年古米(29年産)	0.4	0.3	0.1							0.0	0.0		
	販売段階										0.1	0.1		
	30年産米										0.1	0.1		
	1年古米(29年産)													
	山梨	出荷+販売段階	1.4	0.9	1.7	4.2	4.5	5.3	4.8	4.4	3.8	3.3	2.8	
		30年産米			1.2	3.8	4.2	5.1	4.7	4.3	3.7	3.2	2.7	
		1年古米(29年産)	1.4	0.9	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	
出荷段階		1.1	0.7	1.5	3.7	3.7	4.6	4.3	3.9	3.4	2.9	2.4		
30年産米				1.2	3.5	3.6	4.5	4.2	3.8	3.3	2.7	2.3		
1年古米(29年産)		1.1	0.7	0.4	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1		
販売段階		0.3	0.2	0.2	0.5	0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4		
30年産米				0.1	0.3	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.3		
1年古米(29年産)		0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1				0.0	0.0		
長野		出荷+販売段階	23.0	16.5	25.7	62.9	76.1	72.0	64.9	57.1	49.6	37.6	30.5	
		30年産米			14.8	51.7	67.8	66.2	60.6	54.3	47.9	36.1	29.3	
		1年古米(29年産)	22.7	16.2	10.7	11.0	8.2	5.7	4.3	2.8	1.7	1.4	1.2	
	出荷段階	19.4	13.5	22.1	53.1	66.5	62.8	57.2	50.1	43.8	31.7	25.8		
	30年産米			14.1	48.8	63.3	60.7	55.7	49.2	43.4	31.4	25.5		
	1年古米(29年産)	19.4	13.5	8.0	4.3	3.1	2.0	1.5	0.9	0.4	0.3	0.3		
	販売段階	3.6	3.0	3.6	9.8	9.6	9.3	7.8	7.0	5.8	5.9	4.7		
	30年産米			0.8	2.9	4.5	5.4	4.9	5.1	4.4	4.7	3.8		
	1年古米(29年産)	3.3	2.7	2.7	6.7	5.0	3.7	2.8	1.9	1.4	1.1	0.9		
	静岡	出荷+販売段階	2.2	5.5	13.7	17.3	17.0	15.7	11.8	10.2	8.7	6.7	3.6	
		30年産米		4.2	12.9	16.9	16.7	15.4	11.6	10.1	8.6	6.6	3.5	
		1年古米(29年産)	2.2	1.2	0.8	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	
出荷段階		0.5	2.7	8.3	11.5	11.5	10.8	7.5	6.6	5.6	4.3	1.7		
30年産米			2.5	8.2	11.4	11.5	10.8	7.5	6.6	5.6	4.3	1.7		
1年古米(29年産)		0.5	0.2	0.1	0.1									
販売段階		1.7	2.7	5.4	5.9	5.5	4.9	4.3	3.6	3.1	2.4	1.8		
30年産米			1.7	4.7	5.5	5.2	4.6	4.1	3.5	2.9	2.3	1.8		
1年古米(29年産)		1.7	1.0	0.7	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1		

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月	
新潟	出荷+販売段階	57.6	32.4	210.3	290.2	274.5	247.6	223.7	197.9	165.2	136.1	108.2		
	30年産米		0.5	193.6	276.2	264.1	240.8	218.8	194.3	162.5	133.9	106.7		
	1年古米(29年産)	53.4	29.4	15.0	12.7	9.2	5.7	3.8	2.6	1.8	1.3	0.8		
	出荷段階	44.5	22.0	195.2	265.1	250.5	222.8	200.5	176.9	145.2	115.1	90.9		
	30年産米		0.5	184.6	259.4	246.3	220.3	198.6	175.4	144.1	114.2	90.3		
	1年古米(29年産)	42.4	20.5	10.0	5.1	3.7	2.0	1.3	0.9	0.6	0.4	0.3		
	販売段階	13.2	10.4	15.1	25.1	24.0	24.8	23.2	21.1	20.0	21.0	17.3		
	30年産米			9.0	16.8	17.8	20.5	20.2	18.9	18.4	19.7	16.4		
	1年古米(29年産)	11.0	8.9	5.0	7.5	5.5	3.7	2.5	1.7	1.2	0.9	0.5		
	富山	出荷+販売段階	22.3	15.6	66.6	93.4	91.1	84.3	75.8	67.3	55.4	45.9	39.8	
		30年産米		2.0	57.3	87.9	86.8	81.3	73.6	65.8	54.5	45.2	39.3	
		1年古米(29年産)	21.9	13.3	9.1	5.4	4.2	2.9	2.1	1.4	0.9	0.7	0.5	
出荷段階		18.0	11.3	60.0	83.1	81.4	75.3	67.8	60.2	44.6	35.8	32.3		
30年産米			1.4	54.0	82.2	80.6	74.7	67.4	60.0	44.6	35.8	32.3		
1年古米(29年産)		17.9	9.9	6.1	0.9	0.7	0.6	0.4	0.2		0.0	0.0		
販売段階		4.4	4.3	6.6	10.3	9.7	9.0	7.9	7.1	10.8	10.1	7.5		
30年産米			0.6	3.3	5.7	6.2	6.6	6.2	5.8	9.9	9.4	7.0		
1年古米(29年産)		4.0	3.4	3.0	4.4	3.5	2.3	1.7	1.2	0.9	0.6	0.5		
石川		出荷+販売段階	14.1	13.7	55.6	67.8	62.9	56.3	50.7	45.7	40.4	33.8	28.4	
		30年産米		5.5	49.6	62.5	58.7	53.8	48.8	44.4	39.5	33.0	27.8	
		1年古米(29年産)	13.8	8.0	5.8	5.1	4.0	2.4	1.7	1.3	1.0	0.8	0.6	
	出荷段階	9.6	8.5	35.5	45.1	42.2	38.4	35.2	32.1	27.8	23.2	20.1		
	30年産米		2.8	31.3	41.9	40.1	37.1	34.2	31.5	27.4	22.9	19.8		
	1年古米(29年産)	9.4	5.5	4.0	3.1	2.0	1.1	0.9	0.6	0.4	0.3	0.3		
	販売段階	4.6	5.2	20.1	22.7	20.7	18.0	15.5	13.6	12.6	10.6	8.3		
	30年産米		2.6	18.2	20.6	18.6	16.7	14.7	12.9	12.1	10.1	8.0		
	1年古米(29年産)	4.4	2.5	1.8	2.1	2.0	1.3	0.8	0.7	0.6	0.4	0.4		
	福井	出荷+販売段階	13.8	16.5	46.9	70.2	63.7	63.2	60.0	53.9	49.7	40.8	33.3	
		30年産米		7.2	40.0	65.3	59.9	60.4	57.7	52.0	48.3	39.8	32.9	
		1年古米(29年産)	13.5	9.2	6.8	4.8	3.7	2.8	2.2	1.9	1.4	0.9	0.4	
出荷段階		10.3	12.1	38.0	55.8	50.8	49.7	48.6	44.3	40.4	32.4	26.0		
30年産米			5.5	33.2	54.1	49.5	48.6	47.7	43.6	39.8	31.9	25.8		
1年古米(29年産)		10.2	6.6	4.8	1.7	1.3	1.0	0.9	0.7	0.6	0.5	0.2		
販売段階		3.5	4.4	8.8	14.3	12.9	13.6	11.4	9.6	9.3	8.4	7.3		
30年産米			1.6	6.8	11.2	10.4	11.8	10.0	8.4	8.5	7.9	7.1		
1年古米(29年産)		3.3	2.6	1.9	3.1	2.4	1.7	1.4	1.1	0.8	0.4	0.2		
岐阜		出荷+販売段階	11.8	10.7	10.7	14.3	17.1	20.4	19.2	18.0	16.4	14.3	12.4	
		30年産米		1.2	3.6	8.4	12.4	16.7	16.1	15.6	14.4	12.8	11.3	
		1年古米(29年産)	11.2	9.0	6.7	5.6	4.4	3.4	2.8	2.2	1.8	1.3	0.9	
	出荷段階	8.4	7.5	8.1	7.4	9.9	14.0	13.3	13.1	11.2	9.6	8.3		
	30年産米		0.9	3.0	6.5	9.4	13.6	13.0	12.8	11.0	9.5	8.2		
	1年古米(29年産)	8.4	6.7	5.1	0.9	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1		
	販売段階	3.4	3.1	2.6	6.9	7.2	6.4	5.9	5.0	5.2	4.7	4.1		
	30年産米		0.4	0.6	1.9	3.0	3.1	3.1	2.8	3.4	3.4	3.1		
	1年古米(29年産)	2.8	2.3	1.6	4.7	3.9	3.0	2.5	2.0	1.6	1.2	0.8		
	愛知	出荷+販売段階	13.7	12.4	13.8	23.0	31.5	34.8	32.5	29.3	26.2	21.7	18.2	
		30年産米		2.5	7.8	19.7	29.0	32.0	30.3	27.6	24.9	20.8	17.4	
		1年古米(29年産)	13.3	9.6	5.9	3.1	2.3	2.6	2.0	1.6	1.3	0.9	0.8	
出荷段階		11.3	9.7	10.3	17.1	25.0	25.9	24.5	22.1	20.0	16.2	13.6		
30年産米			1.8	6.1	15.9	24.0	25.5	24.1	21.8	19.7	15.9	13.4		
1年古米(29年産)		11.2	8.0	4.2	1.3	0.9	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2		
販売段階		2.5	2.6	3.6	5.9	6.5	8.9	8.0	7.2	6.2	5.5	4.6		
30年産米			0.7	1.7	3.8	5.0	6.6	6.3	5.8	5.2	4.9	4.0		
1年古米(29年産)		2.1	1.6	1.7	1.9	1.3	2.2	1.6	1.2	1.0	0.6	0.5		

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月
三重	出荷＋販売段階	6.3	18.2	38.5	42.7	45.1	40.9	37.5	32.5	28.4	22.1	17.0	
	30年産米		14.6	35.7	40.2	42.7	38.7	35.6	30.8	26.9	20.7	15.7	
	1年古米(29年産)	5.8	3.5	2.8	2.5	2.3	2.2	1.9	1.7	1.5	1.4	1.3	
	出荷段階	4.7	15.1	33.8	37.9	40.5	36.8	33.7	29.1	24.8	18.7	14.2	
	30年産米		12.6	31.8	36.3	39.1	35.4	32.4	28.0	23.8	17.8	13.4	
	1年古米(29年産)	4.3	2.5	2.0	1.6	1.4	1.4	1.2	1.0	0.9	0.9	0.9	
	販売段階	1.6	3.1	4.7	4.8	4.5	4.2	3.9	3.4	3.6	3.5	2.8	
	30年産米		2.0	3.8	3.9	3.6	3.3	3.1	2.7	3.1	3.0	2.4	
	1年古米(29年産)	1.5	1.0	0.8	0.9	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5	0.4	
滋賀	出荷＋販売段階	14.3	14.9	50.2	66.6	69.4	69.2	61.8	58.1	46.3	39.5	32.5	
	30年産米		6.0	43.5	61.0	64.7	65.7	58.7	55.4	44.0	37.6	30.9	
	1年古米(29年産)	13.6	8.5	6.5	5.5	4.6	3.4	3.1	2.6	2.3	1.9	1.6	
	出荷段階	10.7	11.6	45.6	60.5	63.2	62.5	56.4	53.1	41.1	33.8	28.3	
	30年産米		5.6	41.2	56.8	59.8	60.1	54.2	51.1	39.3	32.4	27.2	
	1年古米(29年産)	10.4	5.8	4.4	3.7	3.3	2.4	2.2	1.9	1.7	1.3	1.1	
	販売段階	3.5	3.3	4.6	6.1	6.2	6.7	5.5	5.0	5.3	5.7	4.2	
	30年産米		0.5	2.3	4.2	4.8	5.6	4.6	4.3	4.7	5.2	3.7	
	1年古米(29年産)	3.3	2.6	2.1	1.8	1.3	1.0	0.9	0.7	0.6	0.5	0.5	
京都	出荷＋販売段階	4.0	2.8	8.3	12.4	12.8	11.3	10.1	9.7	8.7	6.9	5.7	
	30年産米			6.3	11.4	11.9	10.7	9.7	9.4	8.6	6.8	5.5	
	1年古米(29年産)	4.0	2.7	1.9	1.0	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	
	出荷段階	3.1	2.0	7.3	10.3	10.8	9.5	8.5	8.1	7.3	5.5	4.5	
	30年産米			6.0	10.2	10.8	9.5	8.5	8.1	7.3	5.5	4.5	
	1年古米(29年産)	3.1	2.0	1.3									
	販売段階	0.9	0.8	1.0	2.2	2.0	1.9	1.6	1.5	1.4	1.4	1.2	
	30年産米			0.4	1.1	1.2	1.3	1.2	1.3	1.3	1.3	1.0	
	1年古米(29年産)	0.9	0.7	0.6	1.0	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	
大阪	出荷＋販売段階	0.8	0.7	0.6	0.8	1.3	2.0	1.9	1.5	1.2	1.0	0.8	
	30年産米			0.3	0.6	1.2	1.9	1.8	1.5	1.2	1.0	0.8	
	1年古米(29年産)	0.8	0.7	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
	出荷段階	0.7	0.5	0.4	0.7	1.1	1.7	1.6	1.3	1.0	0.8	0.7	
	30年産米			0.3	0.6	1.1	1.7	1.6	1.3	1.0	0.8	0.7	
	1年古米(29年産)	0.7	0.5	0.1									
	販売段階	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	
	30年産米						0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	
	1年古米(29年産)	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
兵庫	出荷＋販売段階	17.3	13.3	28.1	39.0	47.2	42.1	41.0	35.9	31.5	27.8	23.8	
	30年産米			18.3	36.0	44.8	40.2	39.5	34.7	30.5	27.0	23.2	
	1年古米(29年産)	17.1	13.1	9.5	2.8	2.2	1.7	1.3	1.0	0.8	0.7	0.5	
	出荷段階	15.0	11.4	25.4	33.8	42.1	37.4	36.4	31.7	27.2	23.8	20.5	
	30年産米			17.2	33.4	41.9	37.3	36.4	31.7	27.2	23.8	20.5	
	1年古米(29年産)	15.0	11.4	8.1	0.4	0.2	0.1				0.0	0.0	
	販売段階	2.3	1.9	2.7	5.2	5.1	4.7	4.6	4.2	4.3	4.0	3.3	
	30年産米			1.1	2.7	3.0	2.9	3.1	3.0	3.3	3.2	2.7	
	1年古米(29年産)	2.0	1.7	1.4	2.4	2.0	1.6	1.3	1.0	0.8	0.7	0.5	
奈良	出荷＋販売段階	2.4	1.7	1.7	5.7	8.4	7.6	7.0	6.3	5.6	4.8	4.0	
	30年産米			0.8	5.2	7.9	7.2	6.6	6.0	5.4	4.6	3.8	
	1年古米(29年産)	2.3	1.7	0.8	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	
	出荷段階	1.6	1.2	0.9	4.2	6.7	6.1	5.6	5.1	3.3	2.7	2.3	
	30年産米			0.7	4.2	6.7	6.1	5.6	5.0	3.2	2.7	2.2	
	1年古米(29年産)	1.6	1.2	0.1							0.0	0.0	
	販売段階	0.8	0.6	0.8	1.4	1.6	1.5	1.4	1.3	2.4	2.1	1.7	
	30年産米			0.1	1.0	1.2	1.2	1.0	1.0	2.2	1.9	1.6	
	1年古米(29年産)	0.7	0.5	0.7	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月
和歌山	出荷＋販売段階	0.8	0.6	0.7	1.1	1.0	1.2	1.2	1.1	1.0	0.9	0.7	
	30年産米			0.3	0.8	0.8	1.0	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	
	1年古米(29年産)	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	
	出荷段階			0.3	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6				
	30年産米			0.3	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6				
	1年古米(29年産)												
	販売段階	0.8	0.6	0.4	0.4	0.3	0.6	0.6	0.6	1.0	0.9	0.7	
	30年産米				0.1	0.1	0.4	0.5	0.4	0.9	0.8	0.7	
	1年古米(29年産)	0.8	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	
鳥取	出荷＋販売段階	9.9	7.1	9.8	21.6	22.3	28.3	27.1	24.3	21.6	18.2	14.7	
	30年産米			4.9	18.1	20.0	26.7	25.9	23.4	20.9	17.6	14.3	
	1年古米(29年産)	9.8	7.0	4.9	3.4	2.3	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.4	
	出荷段階	7.5	5.1	7.6	18.3	19.4	25.3	21.7	18.9	16.9	13.9	11.3	
	30年産米			4.3	16.7	18.4	24.7	21.3	18.7	16.7	13.7	11.2	
	1年古米(29年産)	7.5	5.0	3.3	1.6	0.9	0.6	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1	
	販売段階	2.4	2.1	2.2	3.3	2.9	3.0	5.4	5.4	4.7	4.3	3.4	
	30年産米			0.6	1.4	1.6	2.0	4.6	4.7	4.1	3.9	3.1	
	1年古米(29年産)	2.3	2.0	1.6	1.8	1.4	1.0	0.8	0.7	0.5	0.4	0.3	
島根	出荷＋販売段階	8.8	6.8	18.5	26.9	26.3	29.7	28.8	26.8	23.5	19.2	15.9	
	30年産米		1.2	15.0	25.2	25.1	28.8	28.1	26.2	23.0	18.9	15.7	
	1年古米(29年産)	8.8	5.6	3.5	1.7	1.2	0.8	0.6	0.5	0.4	0.2	0.2	
	出荷段階	7.5	5.4	16.1	23.0	22.7	26.2	25.5	23.9	20.9	16.5	13.6	
	30年産米		1.1	13.7	22.7	22.6	26.2	25.5	23.9	20.9	16.5	13.6	
	1年古米(29年産)	7.5	4.3	2.4	0.3	0.2					0.0	0.0	
	販売段階	1.3	1.4	2.4	3.9	3.6	3.5	3.3	2.8	2.6	2.7	2.4	
	30年産米		0.1	1.3	2.6	2.5	2.6	2.6	2.3	2.2	2.4	2.1	
	1年古米(29年産)	1.3	1.3	1.1	1.3	1.0	0.8	0.6	0.5	0.3	0.2	0.2	
岡山	出荷＋販売段階	21.4	14.9	19.9	28.5	39.2	40.5	41.5	39.0	35.9	31.8	28.3	
	30年産米			7.7	20.9	34.3	37.4	39.4	37.4	34.8	31.0	27.8	
	1年古米(29年産)	21.3	14.8	12.2	7.5	4.9	3.1	2.1	1.6	1.1	0.8	0.5	
	出荷段階	15.7	10.7	12.5	20.3	30.5	31.7	33.4	31.5	27.4	24.1	21.4	
	30年産米			6.5	18.2	29.7	31.3	33.2	31.3	27.3	24.0	21.4	
	1年古米(29年産)	15.7	10.7	6.0	2.1	0.8	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	
	販売段階	5.6	4.1	7.5	8.2	8.7	8.9	8.1	7.6	8.5	7.6	6.9	
	30年産米			1.2	2.7	4.6	6.1	6.2	6.1	7.5	7.0	6.4	
	1年古米(29年産)	5.6	4.1	6.2	5.5	4.1	2.7	1.9	1.4	1.0	0.7	0.5	
広島	出荷＋販売段階	10.1	6.7	21.3	39.5	38.9	34.4	31.1	27.9	24.1	20.9	17.8	
	30年産米		0.2	17.6	37.6	37.6	33.5	30.4	27.3	23.6	20.6	17.5	
	1年古米(29年産)	9.9	6.2	3.5	1.7	1.1	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	
	出荷段階	7.2	4.3	18.3	33.7	33.4	29.4	26.5	23.5	18.8	16.0	13.4	
	30年産米		0.2	16.2	33.6	33.4	29.4	26.5	23.5	18.8	16.0	13.4	
	1年古米(29年産)	7.2	4.1	2.1							0.0		
	販売段階	2.9	2.4	2.9	5.8	5.5	5.0	4.6	4.4	5.3	5.0	4.4	
	30年産米			1.3	4.0	4.2	4.1	3.9	3.8	4.8	4.6	4.1	
	1年古米(29年産)	2.7	2.1	1.4	1.6	1.1	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	
山口	出荷＋販売段階	12.0	9.2	18.1	30.0	32.3	32.3	29.5	26.7	23.9	23.7	19.9	
	30年産米		0.6	11.9	25.9	28.8	29.6	27.5	25.1	22.7	22.9	19.4	
	1年古米(29年産)	11.8	8.5	6.2	4.0	3.4	2.6	2.0	1.6	1.2	0.8	0.5	
	出荷段階	10.6	7.9	16.7	25.2	27.8	27.9	26.1	23.6	19.5	20.5	17.6	
	30年産米		0.5	11.4	25.2	27.8	27.9	26.1	23.6	19.5	20.5	17.6	
	1年古米(29年産)	10.6	7.4	5.3	0.1								
	販売段階	1.4	1.4	1.4	4.8	4.5	4.3	3.4	3.0	4.5	3.2	2.3	
	30年産米		0.1	0.5	0.8	1.0	1.7	1.4	1.4	3.2	2.4	1.7	
	1年古米(29年産)	1.2	1.1	0.9	4.0	3.4	2.6	2.0	1.6	1.2	0.8	0.5	

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.7	9.4	12.9	12.3	11.5	10.5	9.3	8.5	7.8	6.0	4.8	
	30年産米		7.5	11.5	11.1	10.5	9.8	8.8	8.0	7.3	5.6	4.5	
	1年古米(29年産)	2.5	1.7	1.3	1.1	0.9	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3	
	出荷段階	0.3	5.9	9.0	8.4	7.6	6.8	6.1	5.4	4.2	2.8	2.3	
	30年産米		5.9	9.0	8.4	7.6	6.8	6.1	5.4	4.2	2.8	2.3	
	1年古米(29年産)	0.3									0.0	0.0	
	販売段階	2.4	3.5	3.9	3.9	3.9	3.8	3.3	3.1	3.6	3.1	2.5	
	30年産米		1.6	2.5	2.7	3.0	3.1	2.7	2.6	3.1	2.8	2.2	
	1年古米(29年産)	2.2	1.7	1.3	1.1	0.9	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3	
香川	出荷+販売段階	6.0	5.1	5.8	12.9	18.3	17.0	15.6	14.5	13.3	12.2	10.9	
	30年産米		0.8	3.3	11.5	17.2	16.4	15.1	13.9	13.1	12.1	10.7	
	1年古米(29年産)	6.0	4.2	2.5	1.4	1.0	0.6	0.5	0.5	0.2	0.1	0.1	
	出荷段階	5.0	4.2	5.0	11.7	16.8	15.8	14.6	13.6	12.5	11.3	10.2	
	30年産米		0.7	3.1	11.1	16.7	15.7	14.5	13.5	12.5	11.3	10.2	
	1年古米(29年産)	5.0	3.5	1.8	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1				
	販売段階	1.0	0.9	0.9	1.2	1.5	1.2	0.9	0.8	0.8	0.9	0.6	
	30年産米		0.1	0.2	0.4	0.5	0.6	0.6	0.4	0.6	0.7	0.5	
	1年古米(29年産)	0.9	0.7	0.6	0.9	0.9	0.5	0.3	0.4	0.2	0.1	0.1	
愛媛	出荷+販売段階	3.4	4.5	7.0	11.5	12.4	11.8	10.5	9.2	8.0	6.5	5.3	
	30年産米		2.5	5.7	10.7	11.8	11.3	10.2	8.9	7.7	6.3	5.1	
	1年古米(29年産)	3.1	1.9	1.1	0.7	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	
	出荷段階	2.9	4.0	6.5	11.0	11.9	11.3	10.1	8.7	7.3	5.9	4.6	
	30年産米		2.3	5.5	10.4	11.4	10.9	9.7	8.5	7.1	5.7	4.4	
	1年古米(29年産)	2.7	1.5	0.9	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	
	販売段階	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.6	0.7	
	30年産米		0.1	0.2	0.3	0.4	0.4	0.4	0.5	0.6	0.5	0.7	
	1年古米(29年産)	0.4	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1				0.0	0.0	
高知	出荷+販売段階	3.6	9.9	9.1	10.4	9.8	8.7	7.7	6.7	5.8	4.8	3.8	
	30年産米	0.6	7.5	7.0	8.8	8.4	7.6	6.8	5.9	5.0	4.1	3.2	
	1年古米(29年産)	2.8	2.2	1.9	1.5	1.2	1.0	0.9	0.8	0.7	0.6	0.5	
	出荷段階	1.1	5.3	4.8	5.6	5.0	2.2	2.0	1.7	1.5	1.1	0.8	
	30年産米	0.3	4.8	4.5	5.4	4.9	2.1	1.9	1.6	1.4	1.1	0.8	
	1年古米(29年産)	0.6	0.3	0.2	0.1						0.0	0.0	
	販売段階	2.6	4.6	4.3	4.9	4.7	6.5	5.7	5.0	4.3	3.7	3.0	
	30年産米	0.3	2.7	2.6	3.4	3.5	5.5	4.8	4.2	3.6	3.0	2.4	
	1年古米(29年産)	2.2	1.9	1.7	1.4	1.2	1.0	0.8	0.8	0.7	0.6	0.5	
福岡	出荷+販売段階	17.2	11.5	21.5	39.3	50.9	58.1	59.7	54.1	47.2	40.0	33.2	
	30年産米		1.4	15.3	35.1	47.4	55.3	57.5	52.4	46.0	39.2	32.5	
	1年古米(29年産)	16.8	9.9	5.9	4.1	3.4	2.7	2.1	1.7	1.1	0.8	0.6	
	出荷段階	14.5	8.7	14.3	28.8	40.5	48.3	51.3	46.9	40.5	33.7	28.0	
	30年産米		0.7	9.6	27.0	39.3	47.3	50.6	46.4	40.3	33.6	27.9	
	1年古米(29年産)	14.4	8.0	4.6	1.7	1.2	0.9	0.7	0.5	0.2	0.1	0.1	
	販売段階	2.7	2.8	7.2	10.6	10.4	9.8	8.4	7.3	6.6	6.3	5.2	
	30年産米		0.8	5.7	8.1	8.1	8.0	7.0	6.1	5.7	5.6	4.6	
	1年古米(29年産)	2.4	1.9	1.3	2.3	2.2	1.7	1.4	1.2	0.9	0.7	0.5	
佐賀	出荷+販売段階	11.4	8.2	8.2	23.4	31.9	31.9	31.5	30.1	28.1	25.1	21.4	
	30年産米	0.1	1.4	4.2	22.0	30.8	31.2	31.1	29.8	27.8	24.9	21.2	
	1年古米(29年産)	11.1	6.6	3.9	1.4	1.1	0.7	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	
	出荷段階	9.8	6.8	7.0	21.0	29.2	29.4	29.4	28.2	26.4	23.1	19.8	
	30年産米		1.3	3.9	20.9	29.2	29.4	29.4	28.2	26.4	23.1	19.8	
	1年古米(29年産)	9.8	5.5	3.0									
	販売段階	1.6	1.3	1.2	2.4	2.7	2.4	2.1	2.0	1.7	2.1	1.6	
	30年産米	0.1	0.1	0.3	1.1	1.6	1.8	1.7	1.6	1.4	1.9	1.4	
	1年古米(29年産)	1.4	1.1	0.9	1.3	1.1	0.7	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月	6月
長崎	出荷+販売段階	2.6	2.2	2.3	6.2	8.6	9.9	9.9	8.8	7.8	6.5	5.5	
	30年産米		0.6	1.4	5.7	8.2	9.6	9.6	8.7	7.6	6.4	5.4	
	1年古米(29年産)	2.6	1.5	0.9	0.5	0.5	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	
	出荷段階	2.4	2.0	1.9	5.5	7.8	9.3	9.2	8.4	7.5	6.2	5.2	
	30年産米		0.6	1.2	5.3	7.6	9.1	9.1	8.3	7.4	6.2	5.2	
	1年古米(29年産)	2.4	1.4	0.7	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
	販売段階	0.2	0.2	0.4	0.7	0.8	0.7	0.6	0.5	0.3	0.3	0.3	
	30年産米			0.2	0.4	0.6	0.4	0.5	0.4	0.2	0.3	0.2	
	1年古米(29年産)	0.2	0.2	0.1	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	
熊本	出荷+販売段階	14.4	12.6	11.4	33.2	44.1	46.8	48.8	46.5	42.9	37.4	32.7	
	30年産米	0.1	3.2	5.7	29.9	41.5	44.7	46.9	44.9	41.6	36.3	31.6	
	1年古米(29年産)	14.1	9.3	5.7	3.3	2.6	2.1	1.8	1.5	1.4	1.2	1.1	
	出荷段階	10.1	7.7	7.0	22.1	31.5	34.2	37.6	36.0	31.8	26.5	23.2	
	30年産米		1.5	3.5	21.1	30.6	33.8	37.3	35.7	31.6	26.3	23.0	
	1年古米(29年産)	10.0	6.2	3.4	1.0	0.8	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	
	販売段階	4.3	4.9	4.4	11.1	12.7	12.7	11.2	10.5	11.2	11.0	9.5	
	30年産米		1.6	2.1	8.8	10.9	10.9	9.7	9.2	10.0	9.9	8.6	
	1年古米(29年産)	4.1	3.2	2.3	2.2	1.7	1.8	1.5	1.3	1.2	1.1	0.9	
大分	出荷+販売段階	7.4	5.9	5.7	11.0	17.7	18.9	18.0	16.7	14.6	12.2	10.6	
	30年産米		0.6	2.4	8.9	16.1	17.7	17.1	16.0	14.0	11.7	10.4	
	1年古米(29年産)	7.2	5.2	3.3	2.0	1.6	1.1	0.9	0.7	0.6	0.4	0.3	
	出荷段階	5.0	3.8	3.5	7.5	12.4	13.1	12.3	11.3	9.9	8.2	7.1	
	30年産米		0.3	1.6	6.7	11.7	12.7	12.0	11.0	9.7	8.0	7.1	
	1年古米(29年産)	4.9	3.4	1.8	0.7	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1	0.0	
	販売段階	2.3	2.1	2.3	3.5	5.4	5.8	5.6	5.4	4.7	4.0	3.5	
	30年産米		0.3	0.8	2.2	4.3	5.0	5.0	5.0	4.3	3.7	3.3	
	1年古米(29年産)	2.3	1.8	1.5	1.3	1.0	0.7	0.6	0.5	0.3	0.3	0.2	
宮崎	出荷+販売段階	9.4	5.8	2.6	10.5	11.1	11.8	10.8	9.7	8.2	6.5	4.9	
	30年産米	7.3	4.4	2.0	10.2	10.9	11.7	10.7	9.6	8.2	6.5	4.9	
	1年古米(29年産)	2.1	1.3	0.6	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
	出荷段階	7.0	2.8	0.4	8.0	8.9	9.8	8.9	7.9	6.6	4.9	3.5	
	30年産米	5.7	2.2	0.2	7.9	8.9	9.8	8.9	7.9	6.6	4.8	3.5	
	1年古米(29年産)	1.3	0.6	0.2							0.0	0.0	
	販売段階	2.4	3.0	2.2	2.6	2.2	2.0	1.9	1.8	1.6	1.7	1.4	
	30年産米	1.6	2.3	1.8	2.3	2.0	1.9	1.8	1.7	1.5	1.6	1.4	
	1年古米(29年産)	0.8	0.7	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
鹿児島	出荷+販売段階	6.8	8.6	6.1	15.2	18.8	18.6	17.8	16.4	14.8	12.2	10.5	
	30年産米	1.6	5.0	3.7	13.5	17.5	17.3	16.7	15.4	14.0	11.4	9.9	
	1年古米(29年産)	4.4	2.8	1.8	1.0	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	
	出荷段階	4.4	4.6	2.3	10.8	13.4	13.2	13.0	12.2	11.2	9.1	7.9	
	30年産米	0.6	1.9	0.5	9.5	12.3	12.1	12.0	11.3	10.4	8.4	7.2	
	1年古米(29年産)	3.2	2.1	1.2	0.7	0.5	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	
	販売段階	2.4	4.0	3.7	4.4	5.4	5.4	4.8	4.2	3.6	3.1	2.7	
	30年産米	1.1	3.1	3.1	4.1	5.2	5.2	4.7	4.1	3.6	3.1	2.6	
	1年古米(29年産)	1.3	0.8	0.6	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1		0.0	0.0	
沖縄	出荷+販売段階	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	
	30年産米	0.5	0.5	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	
	1年古米(29年産)												
	出荷段階	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2		0.0	0.0	
	30年産米	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.2	0.2		0.0	0.0	
	1年古米(29年産)												
	販売段階	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1					0.0	0.0	
	30年産米	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1					0.0	0.0	
	1年古米(29年産)												

Ⅲ 米の価格情報

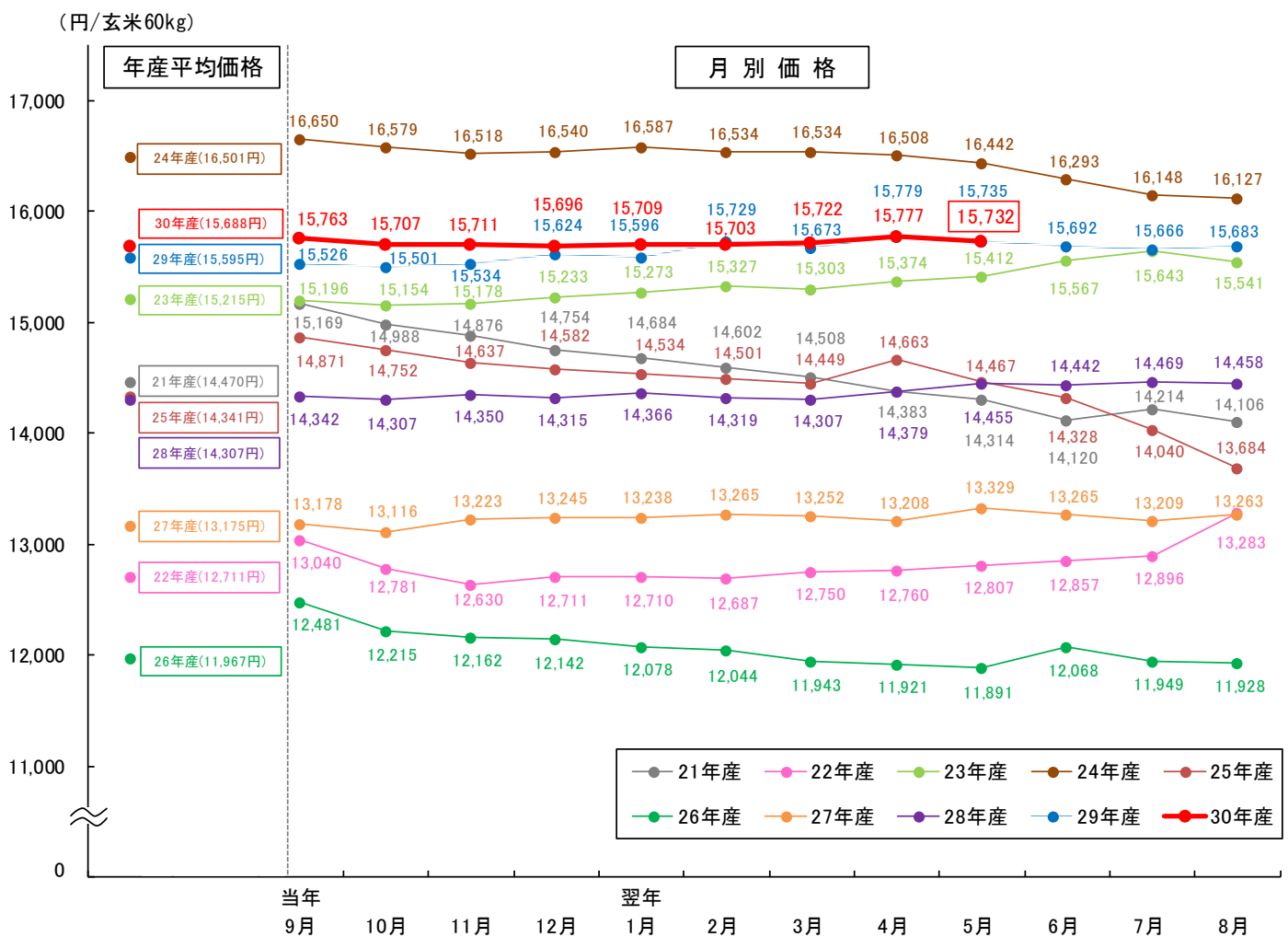
1 相対取引価格・数量

(1) 相対取引価格（年産別）

- 平成30年産米の令和元年5月の相対取引価格は、全銘柄平均で15,732円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+93円/60kg。

※ 産地銘柄ごとの価格は、26頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（30年産は令和元年5月）までの通年平均価格（29年産以前は確定値、30年産は速報値。確定値は月毎の速報値公表後の修正を反映させたものである）。

(2) 価格帯別分析結果（令和元年5月）

- 平成29年産米と平成30年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成29年産の価格が60kg当たり16,000円以上の銘柄は▲130円、14,000円未満の銘柄は+716円。
- 産地銘柄ごとでは、「愛媛県産ヒノヒカリ」が最も上昇しており、次いで、「愛媛県産あきたこまち」、「愛媛県産コシヒカリ」という状況。

価格帯別相対取引価格

円/玄米60kg(税込)

		年産平均価格(平成29年産)			
		16,000円～	15,000円～16,000円	14,000円～15,000円	～14,000円
平成29年産(出回り～30年10月)	①	17,275	15,533	14,747	13,802
平成30年産(出回り～元年5月) (29年産価格帯ベース)	②	17,145	15,645	14,932	14,518
価格差	②-①	▲130	+112	+185	+716

注 各年産の価格帯別平均価格は、産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

平成29/30年産における産地品種銘柄別相対取引価格差（上位20）

円/玄米60kg(税込)

		29年産	30年産	価格差 ②-①
		(出回り～ 30年10月) ①	(出回り～ 元年5月) ②	
1	愛媛 ヒノヒカリ	13,692	15,169	+1,477
2	愛媛 あきたこまち	13,693	14,977	+1,284
3	愛媛 コシヒカリ	14,303	15,530	+1,227
4	徳島 コシヒカリ	14,940	15,908	+968
5	徳島 キヌヒカリ	14,221	15,102	+881
6	奈良 ヒノヒカリ	14,721	15,535	+814
7	広島 あきろまん	13,651	14,452	+801
8	鹿児島 コシヒカリ	15,542	16,307	+765
9	岐阜 あきたこまち	14,286	14,882	+596
10	三重 キヌヒカリ	14,265	14,810	+545

		29年産	30年産	価格差 ②-①
		(出回り～ 30年10月) ①	(出回り～ 元年5月) ②	
11	滋賀 コシヒカリ	15,096	15,641	+545
12	広島 コシヒカリ	14,923	15,463	+540
13	静岡 きぬむすめ	14,415	14,951	+536
14	香川 ヒノヒカリ	14,295	14,812	+517
15	千葉 コシヒカリ	15,034	15,547	+513
16	山梨 コシヒカリ	17,552	18,061	+509
17	大分 ひとめぼれ	15,262	15,764	+502
18	長野 コシヒカリ	15,580	16,081	+501
19	香川 コシヒカリ	14,806	15,272	+466
20	鹿児島 ヒノヒカリ	15,518	15,983	+465

(3) 相対取引価格・数量（平成30年産米、産地品種銘柄別、令和元年5月分）（速報）

相対取引価格・数量①（北海道から静岡）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (元年5月) ①	数量 30年産米 (元年5月) ②	参 考								年産平均価格							
				価格				数量				30年産米 (31年4月)	29年産米 (30年5月)	30年産米 (31年4月)	29年産米 (30年5月)	30年産米 (出回り～ 元年5月)	29年産米 (出回り～ 30年10月)	価格差	対前年比
				30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比	30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比								
北海道	ななつぼし	15,840	5,152	15,944	99%	16,012	99%	5,105	101%	5,621	92%	15,998	15,882	+ 116	101%				
北海道	ゆめびりか	16,688	559	17,155	97%	16,752	100%	2,405	23%	3,548	16%	16,250	17,226	976	94%				
北海道	きらら397	15,213	851	15,561	98%	15,998	95%	1,291	66%	1,361	63%	15,560	15,681	121	99%				
青森	まっしぐら	14,617	3,824	14,756	99%	15,051	97%	4,568	84%	2,886	133%	14,763	14,923	160	99%				
青森	つがるロマン	15,558	536	15,610	100%	15,581	100%	827	65%	1,744	31%	15,029	15,112	83	99%				
岩手	ひとめぼれ	15,675	2,038	15,372	102%	15,318	102%	3,194	64%	10,525	19%	15,324	15,172	+ 152	101%				
岩手	あきたこまち	15,219	2,956	15,294	100%	15,020	101%	2,804	105%	2,794	106%	15,248	15,043	+ 205	101%				
岩手	いわてっこ	14,861	258	14,753	101%	14,760	101%	324	80%	102	253%	14,781	14,679	+ 102	101%				
宮城	ひとめぼれ	15,476	27,973	15,513	100%	16,268	95%	12,583	222%	3,540	790%	15,530	15,496	+ 34	100%				
宮城	つや姫	15,859	965	16,092	99%	15,647	101%	540	179%	2,197	44%	15,936	15,811	+ 125	101%				
宮城	ササニシキ	15,770	655	15,780	100%	15,891	99%	1,023	64%	559	117%	15,792	15,724	+ 68	100%				
秋田	あきたこまち	15,853	9,944	15,967	99%	16,080	99%	29,851	33%	6,315	157%	15,840	15,995	155	99%				
秋田	めんこいな	15,133	700	14,699	103%	15,605	97%	1,573	45%	150	467%	14,731	14,990	259	98%				
秋田	ひとめぼれ	15,224	764	15,465	98%	15,681	97%	5,675	13%	279	274%	15,447	15,695	248	98%				
山形	はえぬき	15,198	2,855	15,414	99%	15,326	99%	8,983	32%	6,062	47%	15,474	15,360	+ 114	101%				
山形	つや姫	18,499	813	18,311	101%	18,526	100%	1,569	52%	1,696	48%	18,371	18,175	+ 196	101%				
山形	ひとめぼれ	15,371	250	15,561	99%	15,463	99%	543	46%	498	50%	16,037	15,857	+ 180	101%				
福島	コシヒカリ(中通り)	15,580	1,567	15,542	100%	15,463	101%	2,580	61%	1,375	114%	15,440	15,412	+ 28	100%				
福島	コシヒカリ(会津)	15,919	1,739	16,085	99%	15,214	105%	3,026	57%	884	197%	15,524	15,321	+ 203	101%				
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	15,263	-	15,393	-	279	-	1,115	-	15,109	15,036	+ 73	100%				
福島	ひとめぼれ	15,172	1,112	15,066	101%	15,188	100%	1,601	69%	1,735	64%	14,949	14,955	6	100%				
福島	天のつぶ	14,844	517	13,996	106%	14,919	99%	868	60%	681	76%	14,614	14,691	77	99%				
茨城	コシヒカリ	15,483	4,787	15,555	100%	15,667	99%	5,525	87%	2,644	181%	15,559	15,287	+ 272	102%				
茨城	あきたこまち	15,432	346	15,369	100%	15,767	98%	616	56%	180	192%	15,098	15,470	372	98%				
茨城	ミルキーQueen	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,330	-	-	-				
栃木	コシヒカリ	15,623	9,012	15,517	101%	15,419	101%	4,632	195%	5,889	153%	15,617	15,460	+ 157	101%				
栃木	あさひの夢	14,815	593	14,951	99%	14,838	100%	1,485	40%	486	122%	14,830	15,012	182	99%				
栃木	なすひかり	14,866	125	15,038	99%	15,355	97%	722	17%	554	23%	14,989	14,954	+ 35	100%				
群馬	あさひの夢	14,696	282	14,663	100%	15,226	97%	1,077	26%	552	51%	15,200	15,312	112	99%				
群馬	ゆめまつり	14,724	119	14,708	100%	15,211	97%	238	50%	660	18%	15,001	15,273	272	98%				
埼玉	彩のかがやき	-	-	-	-	15,230	-	-	-	437	-	15,156	14,919	+ 237	102%				
埼玉	コシヒカリ	-	-	-	-	15,336	-	-	-	197	-	15,476	15,024	+ 452	103%				
埼玉	彩のきずな	-	-	15,182	-	-	-	579	-	-	-	15,169	14,904	+ 265	102%				
千葉	コシヒカリ	15,288	1,007	15,459	99%	15,177	101%	1,508	67%	1,126	89%	15,547	15,034	+ 513	103%				
千葉	ふさこがね	14,589	477	14,866	98%	15,021	97%	995	48%	429	111%	14,639	14,542	+ 97	101%				
千葉	ふさおとめ	14,597	581	14,686	99%	14,562	100%	913	64%	1,133	51%	14,777	14,629	+ 148	101%				
山梨	コシヒカリ	17,755	338	17,842	100%	17,284	103%	453	75%	409	83%	18,061	17,552	+ 509	103%				
長野	コシヒカリ	16,319	162	-	-	16,135	101%	-	-	408	40%	16,081	15,580	+ 501	103%				
長野	あきたこまち	15,537	261	-	-	15,185	102%	-	-	105	249%	15,256	14,801	+ 455	103%				
静岡	コシヒカリ	16,031	1,078	16,033	100%	15,820	101%	325	332%	278	388%	15,971	15,548	+ 423	103%				
静岡	きぬむすめ	15,013	251	-	-	-	-	-	-	-	-	14,951	14,415	+ 536	104%				
静岡	あいちのかおり	14,997	146	-	-	-	-	-	-	-	-	14,936	14,625	+ 311	102%				

注：本表の注意点は次々頁の脚注を参照

相対取引価格・数量②（新潟から広島）

(単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (元年5月) ①	数量 30年産米 (元年5月) ②	参 考								年産平均価格			
				価格				数量				30年産米 (出回り～) 元年5月)	29年産米 (出回り～) (30年10月)	価格差	対前年比
				30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比	30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比				
				/	/	/	/	/	/	/	/				
新潟	コシヒカリ(一般)	16,929	1,587	16,944	100%	16,801	101%	7,969	20%	4,395	36%	17,043	16,924	+ 119	101%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	21,695	1,107	21,528	101%	20,987	103%	1,493	74%	890	124%	21,026	20,782	+ 244	101%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,510	374	-	-	-	-	-	-	-	-	17,508	17,389	+ 119	101%
新潟	コシヒカリ(岩船)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17,450	17,351	+ 99	101%
新潟	こしいぶき	15,069	660	15,066	100%	15,291	99%	1,996	33%	548	120%	15,094	14,968	+ 126	101%
富山	コシヒカリ	15,930	589	16,255	98%	15,817	101%	4,381	13%	5,665	10%	15,967	15,882	+ 85	101%
富山	てんたかく	14,627	160	14,551	101%	14,418	101%	459	35%	617	26%	14,760	14,542	+ 218	101%
石川	コシヒカリ	-	-	-	-	15,624	-	-	-	1,031	-	15,889	15,608	+ 281	102%
石川	ゆめみづほ	-	-	14,807	-	14,528	-	200	-	370	-	14,694	14,454	+ 240	102%
福井	コシヒカリ	16,541	663	16,214	102%	16,123	103%	1,127	59%	1,192	56%	16,119	15,964	+ 155	101%
福井	ハナエチゼン	15,095	208	15,125	100%	-	-	226	92%	-	-	14,966	14,726	+ 240	102%
岐阜	ハツシモ	15,863	242	15,579	102%	15,310	104%	110	220%	664	36%	15,283	14,989	+ 294	102%
岐阜	コシヒカリ	16,271	755	16,476	99%	15,836	103%	310	244%	274	276%	15,932	15,615	+ 317	102%
岐阜	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,882	14,286	+ 596	104%
愛知	あいちのかおり	14,539	744	14,619	99%	14,756	99%	950	78%	1,269	59%	14,560	14,522	+ 38	100%
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,347	14,990	+ 357	102%
愛知	大地の風	14,745	128	14,726	100%	-	-	146	88%	-	-	14,682	14,425	+ 257	102%
三重	コシヒカリ(一般)	15,278	181	-	-	15,060	101%	-	-	461	39%	15,395	14,945	+ 450	103%
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,501	244	16,150	96%	15,503	100%	116	210%	442	55%	15,862	15,412	+ 450	103%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,810	14,265	+ 545	104%
滋賀	コシヒカリ	15,745	1,955	15,754	100%	15,228	103%	1,516	129%	257	761%	15,641	15,096	+ 545	104%
滋賀	キヌヒカリ	14,993	624	15,053	100%	-	-	730	85%	-	-	14,757	14,298	+ 459	103%
滋賀	日本晴	14,650	434	15,009	98%	-	-	173	251%	-	-	14,641	14,183	+ 458	103%
京都	コシヒカリ	-	-	15,591	-	-	-	184	-	-	-	15,724	15,535	+ 189	101%
京都	キヌヒカリ	-	-	-	-	14,783	-	-	-	128	-	14,936	14,715	+ 221	102%
京都	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,555	-	-	-
兵庫	コシヒカリ	-	-	16,065	-	15,814	-	127	-	119	-	16,008	15,734	+ 274	102%
兵庫	ヒノヒカリ	14,941	115	14,870	100%	14,801	101%	168	68%	160	72%	14,790	14,460	+ 330	102%
兵庫	キヌヒカリ	14,806	127	-	-	-	-	-	-	-	-	14,841	14,419	+ 422	103%
奈良	ヒノヒカリ	15,650	396	15,614	100%	15,096	104%	437	91%	295	134%	15,535	14,721	+ 814	106%
鳥取	コシヒカリ	-	-	-	-	14,860	-	-	-	325	-	15,463	15,051	+ 412	103%
鳥取	きぬむすめ	-	-	-	-	14,320	-	-	-	318	-	14,681	14,283	+ 398	103%
鳥取	ひとめぼれ	-	-	-	-	14,206	-	-	-	188	-	14,495	14,129	+ 366	103%
島根	コシヒカリ	16,253	471	16,405	99%	15,350	106%	369	128%	882	53%	15,704	15,432	+ 272	102%
島根	きぬむすめ	14,883	560	14,740	101%	14,698	101%	572	98%	581	96%	14,807	14,421	+ 386	103%
島根	つや姫	-	-	15,648	-	-	-	154	-	-	-	15,597	15,160	+ 437	103%
岡山	アケボノ	-	-	14,815	-	15,045	-	947	-	469	-	14,938	15,030	92	99%
岡山	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,060	15,357	297	98%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	15,229	-	15,342	-	264	-	243	-	15,273	15,380	107	99%
広島	コシヒカリ	15,287	1,001	15,312	100%	14,867	103%	768	130%	568	176%	15,463	14,923	+ 540	104%
広島	あきさかり	14,336	299	14,366	100%	-	-	513	58%	-	-	14,500	-	-	-
広島	あきろまん	14,055	291	-	-	-	-	-	-	-	-	14,452	13,651	+ 801	106%

注：本表の注意点は次頁の脚注を参照

相対取引価格・数量③（山口から鹿児島）

(単位:円/玄米60kg税込、玄米トン)

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (元年5月) ①	数量 30年産米 (元年5月) ②	参 考								年産平均価格			
				価格				数量				30年産米 (出回り～) 元年5月)	29年産米 (出回り～) (30年10月)	価格差	対前年比
				30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比	30年産米 (31年4月)	対前月比	29年産米 (30年5月)	対前年比				
山口	コシヒカリ	15,348	272	15,500	99%	15,095	102%	1,071	25%	1,231	22%	15,255	14,983	+ 272	102%
山口	ひとめぼれ	14,695	306	14,465	102%	14,321	103%	515	59%	314	97%	14,403	14,136	+ 267	102%
山口	ヒノヒカリ	14,377	177	14,531	99%	14,424	100%	619	29%	283	63%	14,401	14,159	+ 242	102%
徳島	コシヒカリ	-	-	15,979	-	-	-	132	-	-	-	15,908	14,940	+ 968	106%
徳島	キヌヒカリ	14,904	467	14,904	100%	-	-	120	389%	-	-	15,102	14,221	+ 881	106%
香川	ヒノヒカリ	14,791	374	14,810	100%	14,340	103%	488	77%	1,021	37%	14,812	14,295	+ 517	104%
香川	コシヒカリ	15,252	383	15,252	100%	14,933	102%	627	61%	724	53%	15,272	14,806	+ 466	103%
香川	おいでまい	15,440	259	15,413	100%	-	-	426	61%	-	-	15,399	-	-	-
愛媛	コシヒカリ	15,552	307	15,542	100%	14,221	109%	330	93%	301	102%	15,530	14,303	+ 1,227	109%
愛媛	ヒノヒカリ	15,319	119	15,243	100%	13,661	112%	176	68%	128	93%	15,169	13,692	+ 1,477	111%
愛媛	あきたこまち	-	-	14,835	-	13,678	-	148	-	144	-	14,977	13,693	+ 1,284	109%
高知	コシヒカリ	-	-	-	-	15,114	-	-	-	468	-	15,171	15,244	73	100%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,358	14,358	± 0	100%
福岡	夢つき	16,354	1,243	16,299	100%	16,251	101%	3,382	37%	787	158%	16,276	16,200	+ 76	100%
福岡	ヒノヒカリ	15,528	1,174	15,579	100%	15,196	102%	1,981	59%	1,104	106%	15,448	15,123	+ 325	102%
福岡	元気つき	16,146	1,557	16,301	99%	16,067	100%	1,778	88%	1,779	88%	16,084	15,984	+ 100	101%
佐賀	夢しずく	14,584	166	14,611	100%	14,269	102%	373	45%	664	25%	14,415	14,216	+ 199	101%
佐賀	さがびより	15,175	804	15,363	99%	15,084	101%	834	108%	800	113%	14,998	14,958	+ 40	100%
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	14,227	-	13,988	-	351	-	476	-	14,224	13,921	+ 303	102%
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,475	15,292	+ 183	101%
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,796	15,600	+ 196	101%
長崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,383	16,076	+ 307	102%
熊本	ヒノヒカリ	15,326	474	15,345	100%	14,935	103%	669	71%	587	81%	15,095	14,876	+ 219	101%
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,901	14,514	+ 387	103%
熊本	コシヒカリ	16,276	128	-	-	-	-	-	-	-	-	15,650	15,521	+ 129	101%
大分	ヒノヒカリ	-	-	15,285	-	-	-	1,216	-	-	-	15,655	15,445	+ 210	101%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,764	15,262	+ 502	103%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,458	15,157	+ 301	102%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	15,706	-	-	-	278	-	16,010	15,592	+ 418	103%
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	16,726	-	15,647	-	122	-	273	-	15,983	15,518	+ 465	103%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,307	15,542	+ 765	105%
鹿児島	あきほなみ	17,034	107	-	-	17,230	99%	-	-	180	59%	16,934	16,624	+ 310	102%
全銘柄平均価格、合計数量		15,732	108,552	15,777	100%	15,735	100%	152,783	71%	106,315	102%	15,688	15,595	+ 93	101%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。

ただし、全農が締結する「福島、茨城、千葉、京都、兵庫、鳥取、岡山、広島、愛媛、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。

3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。

4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。

5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の取引状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。

6 報告対象産地品種銘柄ごとの年産平均価格は、当該報告対象産地品種銘柄の出回りから当該月までの相対取引数量ウェイトで加重平均により算定（29年産は確定値、30年産は速報値。確定値は月毎の速報値公表後の修正を反映させたものである）。

7 全銘柄平均価格は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。

8 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。

9 全銘柄平均価格、合計数量欄には公表していない産地品種銘柄分を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

2 スポット価格の状況（日本コメ市場株式会社）

○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。

【平成30年産】

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg）

産地、銘柄	平成30年 8月	9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	令和元年 5月	6月
北海道なつぼし	日本コメ市場（取引会）					15,750		15,500			
北海道ゆめびりか	日本コメ市場（取引会）	16,113									
北海道きらら397	日本コメ市場（随時）					14,975					
青森つがるロマン	日本コメ市場（随時）			14,000							
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場（随時）							14,850			15,121
	日本コメ市場（取引会）									15,030	
秋田あきたこまち	日本コメ市場（随時）	14,693	14,638	15,072	15,140		15,102	14,792	15,147		16,595
	日本コメ市場（取引会）	14,690		15,055		15,200		14,816		15,475	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場（随時）				14,660						14,782
	日本コメ市場（取引会）										14,885
福島ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）					14,550					
茨城コシヒカリ	日本コメ市場（随時）		14,571	14,581	14,613	14,770					14,613
	日本コメ市場（取引会）	14,220	14,470					14,495			14,600
茨城あきたこまち	日本コメ市場（取引会）		13,862								
栃木コシヒカリ	日本コメ市場（随時）			14,260	14,619	14,800					
栃木あさひの夢	日本コメ市場（取引会）				13,671						
群馬あさひの夢	日本コメ市場（取引会）							13,920			
千葉コシヒカリ	日本コメ市場（取引会）	14,226			14,985	14,914					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場（取引会）	13,700									
千葉ふさこがね	日本コメ市場（取引会）				14,014						
新潟コシヒカリ（一般）	日本コメ市場（随時）		16,493		17,649	17,893	18,234		18,930		20,047
	日本コメ市場（取引会）		16,500		17,607		18,620		18,950		20,350

【平成29年産】

（関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg）

産地、銘柄	平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道きらら397	日本コメ市場（随時）					15,600							
青森つがるロマン	日本コメ市場（随時）									14,175			
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場（随時）							15,608					
秋田あきたこまち	日本コメ市場（随時）		15,193	15,508	15,756	15,700	15,846			14,916	14,400	14,198	
	日本コメ市場（取引会）		15,297			16,052		15,696	15,042			14,214	14,000
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場（随時）		14,600		15,003	15,391		15,632					
	日本コメ市場（取引会）				15,003			15,521	15,176				
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）					15,033		15,078				14,021	
茨城コシヒカリ	日本コメ市場（随時）			14,903		15,474	15,584	15,820	15,550			14,420	
	日本コメ市場（取引会）					15,453		15,771				14,442	
茨城あきたこまち	日本コメ市場（取引会）		14,600							14,474			
栃木コシヒカリ	日本コメ市場（随時）					15,100		15,875	15,805	15,300	14,975		
栃木あさひの夢	日本コメ市場（取引会）				14,510								
千葉コシヒカリ	日本コメ市場（取引会）	14,550	14,680		15,000				15,095				
千葉あきたこまち	日本コメ市場（取引会）	14,387											
千葉ふさこがね	日本コメ市場（取引会）		14,225		14,600	14,880							13,400
千葉ふさおとめ	日本コメ市場（取引会）	14,003											
新潟コシヒカリ（一般）	日本コメ市場（随時）		15,613			16,539	16,785	16,920	17,064	17,154	17,661	17,661	
	日本コメ市場（取引会）		15,500		16,271	16,524		17,050	17,232			17,651	16,850

出典：日本コメ市場株式会社HP

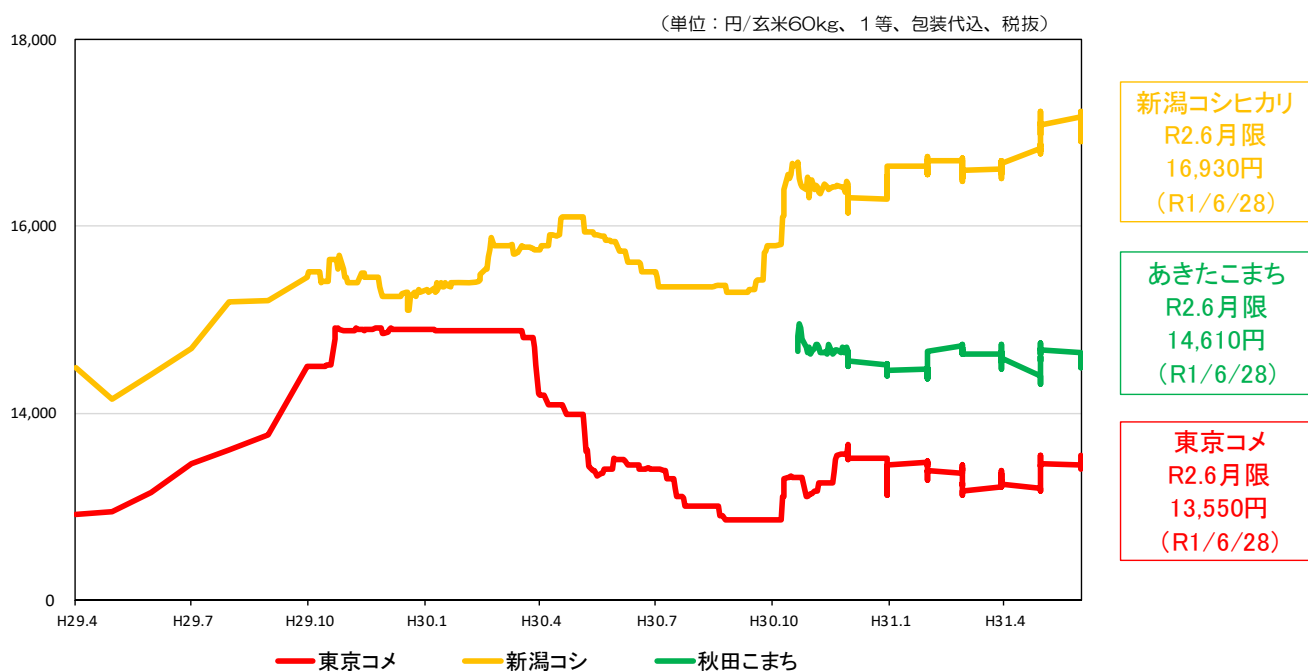
注：1 日本コメ市場（随時）の価格は、随時取引（取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引）の下期（16日～月末分）。ただし、下期が公表されていない場合は上期の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場（取引会）の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格（取引数量により加重平均）であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

3 米の先物取引価格の推移（期先限月の終値）

- 令和元年6月28日の終値は、
東京コメが令和2年6月限13,550円、
新潟コシが令和2年6月限16,930円、
秋田こまちが令和2年6月限14,610円となっている。

価格の推移（期先限月の終値）



出典：大阪堂島商品取引所

注1：東京コメ、新潟コシは平成29年4月3日、秋田こまちは平成30年10月22日から令和元年6月28日までの価格の推移である。

注2：東京コメは栃木・群馬あさひの夢、埼玉彩のかがやき、千葉ふさおとめ・ふさこがね、新潟コシは新潟県産コシヒカリ、秋田こまちは秋田県産あきたこまちを標準品とした取引価格。いずれも1等、消費税抜き、運賃及び包装代を含む。

注3：期先限月とは、現物受渡や売買取引の期限が、その時点から最も先となる月。

日本の商品先物取引の仕組み

商品先物取引とは、将来の一定期日に一定の商品を売買することを約束して、その価格を現時点で決める取引のことです。

米の先物取引の商品設計

	東京コメ	新潟コシ	秋田こまち
標準品 (取引の対象)	・あさひの夢(栃木・群馬) ・彩のかがやき(埼玉) ・ふさおとめ・ふさこがね(千葉)	・コシヒカリ(新潟)	・あきたこまち(秋田)
受渡供用品	水稻うるち玄米	コシヒカリ(新潟)	あきたこまち(秋田)
取引期限	最長で12か月先(12か月以内の偶数月渡し)		
取引単位	200俵(12トン)／枚	25俵(1.5トン)／枚	204俵(12.24トン)／枚

注：標準品及び受渡供用品は、農産物検査法に基づく検査規格合格品。

用語の解説

先物取引 (さきものとりひき)	将来の一定の時期において、商品及びその対価の授受を約する売買取引であって、当該商品の現物の受渡し若しくは建玉の転売又は買い戻しによる差金の授受によって終了することのできる取引のこと。
限月(げんげつ)	先物取引において売買約定(やくじょう)を最終的に決済しなければならない月のこと。
月限(がつぎり)※	最終決済月が〇月であれば、〇月限と呼ぶ。例：9月限(くがつぎり)
枚(まい)	取引所における取引の基本となる取引数量または受渡数量を表す最小取引単位の呼称のこと。
出来高(できだか)	市場において売買約定の成立した数量のことをいう。
建玉(たてぎょく)	取引所において売買取引された売買約定によるもので、未決済のもの。
商品先物取引法※ (しょうひんさきものとりひきほう)	商品先物取引に関する法律。同法に基づき、商品取引所、商品取引清算機関、商品先物取引業者、商品先物取引協会(商品先物取引業者の自主規制組織)等に関する許認可・監督等を行っている。

出典：大阪堂島商品取引所HP「先物取引用語集」(※については、農林水産省が作成。)

商品先物取引の詳細につきましては、以下のURLを御覧下さい。
<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/syoutori/index.html>

4 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和元年6月分)

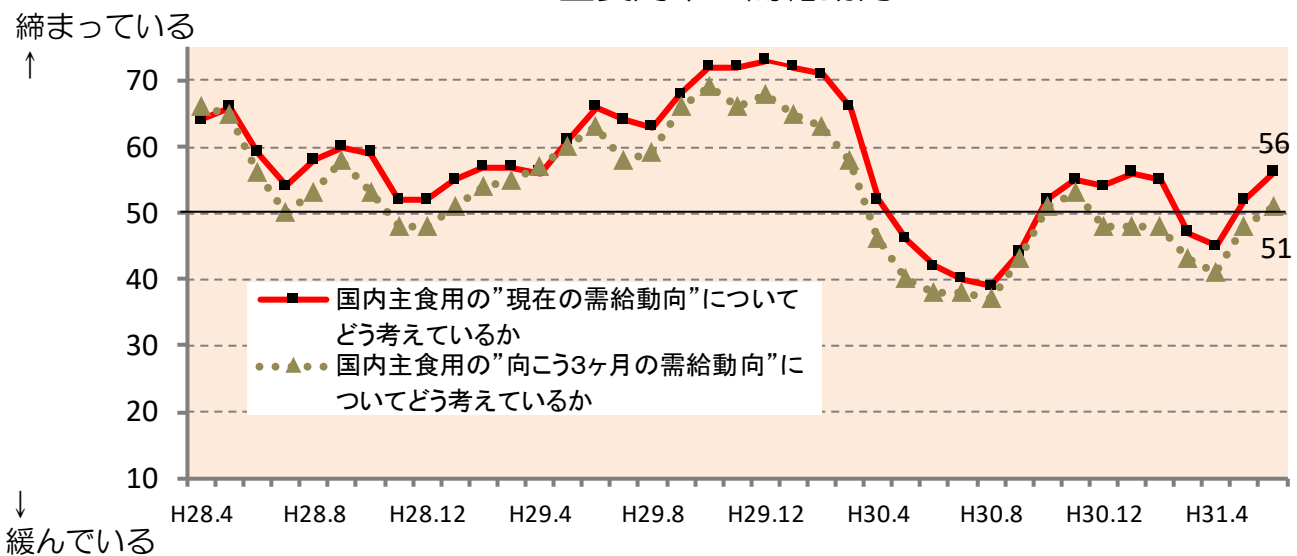
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(令和元年6月分)によると、主食用米の需給動向の現状判断は対前月比+4ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+3ポイント。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 +4 (今月の数値 56)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減 +3 (今月の数値 51)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。
 【<http://www.komenet.jp/>】
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の160客体
- 有効回答数: 119客体
 - 生産者…………… 7
 - 集出荷業者/団体…………… 21
 - 卸売業者(主に主食用米) …… 27
 - 小売業者/中食・外食業者 …… 46
 - その他…………… 18

※「その他」は以下の業者です。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準の現状判断は対前月比±0ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は+1ポイント。

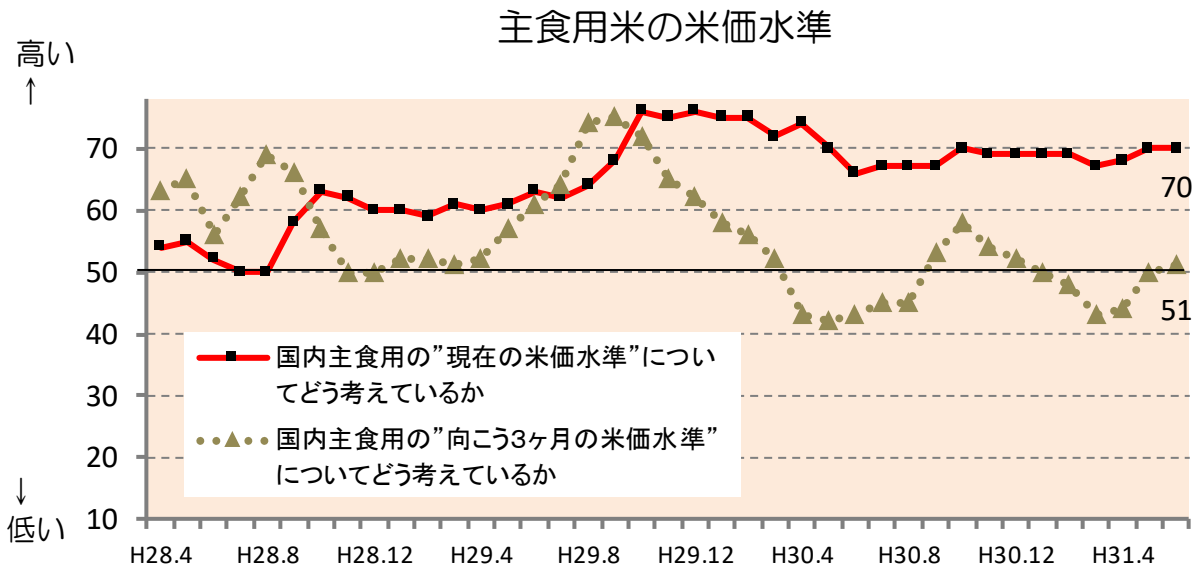
② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断DI

前月からの増減 ±0 (今月の数値 70)

(イ) 見通し判断DI (向こう3ヶ月)

前月からの増減 +1 (今月の数値 51)



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 30年産米の作付状況

- 平成30年産米の作付面積は、主食用米が138.6万ha、主食用米以外が約20.4万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米13.1万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米2.2万ha。

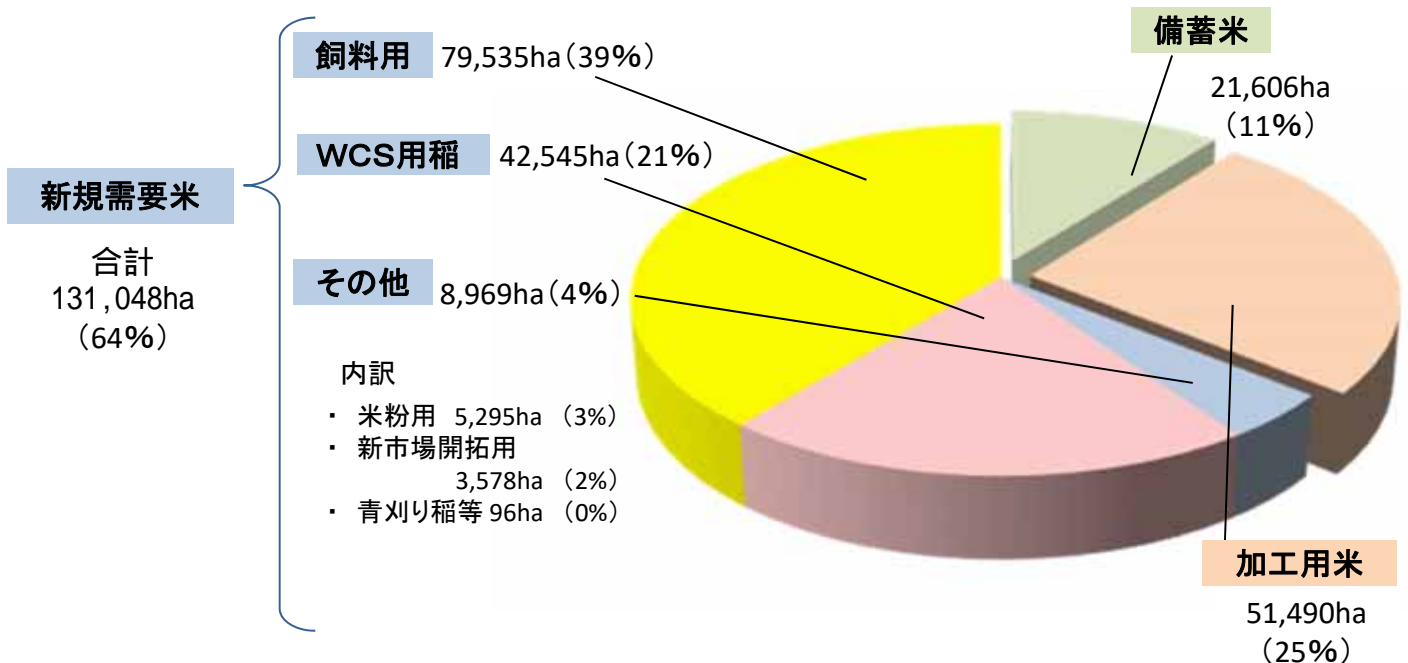
(1) 30年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積 (万ha)	159.0	138.6	13.1	5.1	2.2
生産量 (万トン)		732.9	46.9	28.4	12.3

※主食用米の生産量は、農林水産省「平成30年産水稻の作付面積及び収穫量(12月10日公表)」の収穫量である。それ以外の生産量は、計画生産量である。

※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない。

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移(認定計画版)」より

注1：加工用米及び新規需要米(米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米)は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米 (30年産)					
	飼料用米	米粉用米	新市場開拓用米	WCS用稲	青刈り用稲・わら専用稲	
作付面積 (ha)	131,048	79,535	5,295	3,578	42,545	96
計画生産量 (ト)	468,593	420,667	28,065	19,862		

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況(認定計画版)」より

注1：新規需要米の取組として認定を受けた平成30年9月15日現在の値。

注2：「WCS用稲」及び「わら専用、青刈り用稲」については子実を採らない用途であるため生産量を取りまとめていない。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成29米穀年度における使用量は対前年と同程度の約97万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約78万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割。残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られたところ。

(1) 29米穀年度（平成28年11月～29年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

<うるち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (10)	9		3			24 (10)
米菓用	1	2		4	5	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					11
味噌用		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)		2		3	2		8
米穀粉用		1	2	1	2	1	8
その他用	1	1		1	1		4
合計	19	22	2	15	18	2	78

<もち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	3				1	8
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	6		1	2	5	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約8万トンを含んでいない。

注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）

米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計

加工用米・・・「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量。

(2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

＜うるち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
	29	5	5					11
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
	29		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
	29		2		3	2		8
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
	29		1	2	1	2	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78

＜もち米＞

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
	29	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
	29	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
	29						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19

注1: 清酒用の()書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しょうちゅう(穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの(酒税法第3条第10号))であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万kl程度まで減少。
- 消費者の志向が量から質へと変化してきており、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の国内出荷量全体に占める割合は増加傾向で推移。
- また、輸出については、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向で推移。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	634	593	599	592	580	566	555	540	533	495
特定名称酒	291	221	174	165	159	159	161	164	167	173	178	179	171
吟醸酒	34	30	20	18	18	17	19	21	24	25	24	24	23
純米吟醸酒	25	26	24	23	23	25	27	29	32	37	42	45	45
純米酒	62	54	57	56	54	55	56	58	59	62	65	67	64
本醸造酒	169	111	73	68	64	61	60	56	52	49	46	43	38

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注2：国内出荷量には輸出货量は含まれていない。

日本酒の輸出货量の推移

(千kl)

年度	10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年
日本酒輸出货量	8	8	12	12	14	14	14	16	16	18	20	23	26
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	4	4	4	4	5	5	6	6
大韓民国	0	0	2	2	3	3	3	4	3	3	4	5	5
中国	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	2	3	4
台湾	4	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
香港	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2
その他	2	2	3	3	4	3	4	4	4	5	5	6	6

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

(2) 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米、「酒造好適米」（山田錦、五百万石など）が使用されている。
- 近年、日本酒の出荷量は減少傾向であるものの、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒の割合が増加傾向にあるため、日本酒原料米の使用量は総じて堅調に推移。

日本酒原料米の使用状況

(千トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産
日本酒原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248	251	241	240
酒造好適米									(4)	(7)	(7)	(7)
加工用米	99	75	77	71	65	65	68	76	90	99	97	94
その他	86	89	74	72	77	71	79	95	105	94	93	88
その他	220	151	110	103	90	102	94	72	53	58	51	58

資料：農林水産省による推計値。

注：酒造好適米の（ ）書きは生産数量目標の枠外で生産された数量で内数。

(3) 酒造好適米の生産量

- 酒造好適米の生産量（農産物検査数量）は、平成22～27年産まで毎年増加。特に、平成27年産は、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したこと等により、酒造好適米の生産にシフトしたこと等から、前年産より約2割生産量が増加。
- 平成28年産以降は、需要に応じた生産への取組により減少に転じ、平成30年産は、前年産から▲6%程度の96千トン程度の生産量となり、需要量（推計）を若干上回る水準と見込まれている。

酒造好適米の生産量（農産物検査数量）の推移

(トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	
														対29年産比
酒造好適米	99,448	74,854	76,788	71,098	65,283	65,461	68,335	75,813	90,185	108,797	106,618	102,400	95,667	93.4%
山田錦	24,639	22,853	21,399	21,126	19,418	20,027	21,217	23,081	29,812	39,528	37,257	38,431	34,011	88.5%
五百万石	33,282	23,169	24,186	19,949	18,688	18,888	18,798	20,602	22,596	27,078	26,030	20,564	21,560	104.8%
美山錦	11,304	7,487	7,016	6,543	6,309	5,367	6,052	6,426	7,786	7,838	7,513	7,018	6,408	91.3%
雄町	2,502	1,827	1,780	1,625	1,438	1,397	1,538	1,700	2,312	2,886	2,481	2,873	2,723	94.8%
その他	27,721	19,518	22,407	21,855	19,430	19,782	20,730	24,004	27,679	31,467	33,337	33,514	30,965	92.4%

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注：30年産は、平成31年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

(4) 酒造好適米の需要量

- 酒造好適米の需要量については、平成30年度の需要量調査によると、平成30年産及び令和元年産は92～94千トン程度の需要量が見込まれ、ほぼ同水準で推移。

（参考）平成30年度 酒造好適米等の需要量調査の概要

- 日本酒の全酒造メーカー（1,461社）を対象として、平成30年7月に酒造好適米等の購入実績及び将来の購入見込数量を調査。716社から回答があり、回答率は数量ベースの回答率は約82～83%と推計される。

酒造好適米等の需要量調査結果

(トン)

	28年産	29年産		30年産		元年産	
			対28年産比		対28年産比		対28年産比
酒造好適米の需要量調査結果(実数)	79,996	77,371	96.7%	77,076	96.4%	76,883	96.1%
山田錦	32,524	31,643	97.3%	30,964	95.2%	30,932	95.1%
五百万石	18,790	17,099	91.0%	17,008	90.5%	16,807	89.4%
美山錦	4,714	4,562	96.8%	4,451	94.4%	4,357	92.4%
雄町	1,460	1,632	111.7%	1,655	113.4%	1,635	112.0%
その他	22,507	22,435	99.7%	22,998	102.2%	23,153	102.9%
酒造好適米の全体需要量(推計)	96～98千トン	93～95千トン		92～94千トン		92～94千トン	

資料：「平成30年度 酒造好適米等の需要量調査結果」（農林水産省）

注1：「酒造好適米の需要量調査結果(実数)」は、平成30年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量の積み上げの実数。

注2：「酒造好適米の全体需要量(推計)」は、平成30年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量が全体需要量の約82～83%と推計されるため、今回調査した各年産の需要量を当該割合で除することにより推計。

産地銘柄毎の需要量等の酒造好適米に関する詳細な情報は、以下URLの「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米等の需要量調査結果等」を参照ください。

URL：http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

4 飼料用米の需要量

- 畜産側の令和元年産に係る飼料用米の年間需要量は、約120万トン。
〔農林水産省生産局畜産部飼料課調べ〕
- ① 全農グループ飼料会社：約69万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量）
- ② (協)日本飼料工業会組員工場：約50万トン（米の需要量見込み約88万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量）
- ③ 全国酪農業協同組合連合会：約1万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ④ 日本養鶏連：約4万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ⑤ 畜産農家：約2万トン〔44件〕（新規需要量、令和元年6月28日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	65	ホクレンくみあい飼料
東北	203	JA全農北日本くみあい飼料
関東	125	JA東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	25	JA東日本くみあい飼料
東海	35	〃
近畿・中国	32	JA西日本くみあい飼料
四国	25	〃
北九州	37	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	143	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	691	

- (※) 使用可能数量は、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) この他、MA米、備蓄米に対する需要が約13万トンある。
- (※) 畜種別の使用割合は、グループ内の飼料会社からの聞取りをもとに、採卵鶏約33%、豚約29%、ブロイラー約19%、肉用牛約13%、乳用牛約6%と推計。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組員の工場の飼料用米需要量見込み（平成31年1月現在）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	21	
東北	153	
関東	115	
中部	51	
関西	58	
九州	97	
合計	495	

- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) この他、MA米、備蓄米に対する需要が約38万トンある。
- (※) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。
- (※) 畜種別の使用割合は、組員の一部の工場からの聞取りをもとに、豚約35%、ブロイラー約32%、採卵鶏約30%、乳用牛約2%、肉用牛約1%と推計。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

〔(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。〕

問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」 TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	
合計	14.4	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、乳用牛約85%、肉用牛約15%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成31年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、採卵鶏約70%、ブロイラー約25%、その他約5%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることを前提とした需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の令和元年産飼料用米の新規需要量（令和元年6月28日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
岩手県	3	1,350	2	1,300
群馬県	2	450		
千葉県	5	6,930	3	500
山梨県	5	13		
長野県	4	277	1	3
石川県	1	9		
愛知県	3	320		
大阪府	2	15		
奈良県	5	1,610		
広島県	1	300		
香川県	4	110		
福岡県	2	1,250		
佐賀県	1	4		
長崎県	3	280	3	62
大分県	1	1,000		
宮崎県	2	2,450		
合計	44	16,368	9	1,865

(※) 供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載（現在とりまとめ中の都道府県もあり）。

(※) 追加の希望があれば随時更新。

(※) 畜種別の使用割合は都道府県の報告から、肉用牛5件1,568トン、乳用牛4件990トン、豚10件1,390トン、採卵鶏20件8,146トン、ブロイラー3件1,424トン、その他2件2,850トン。

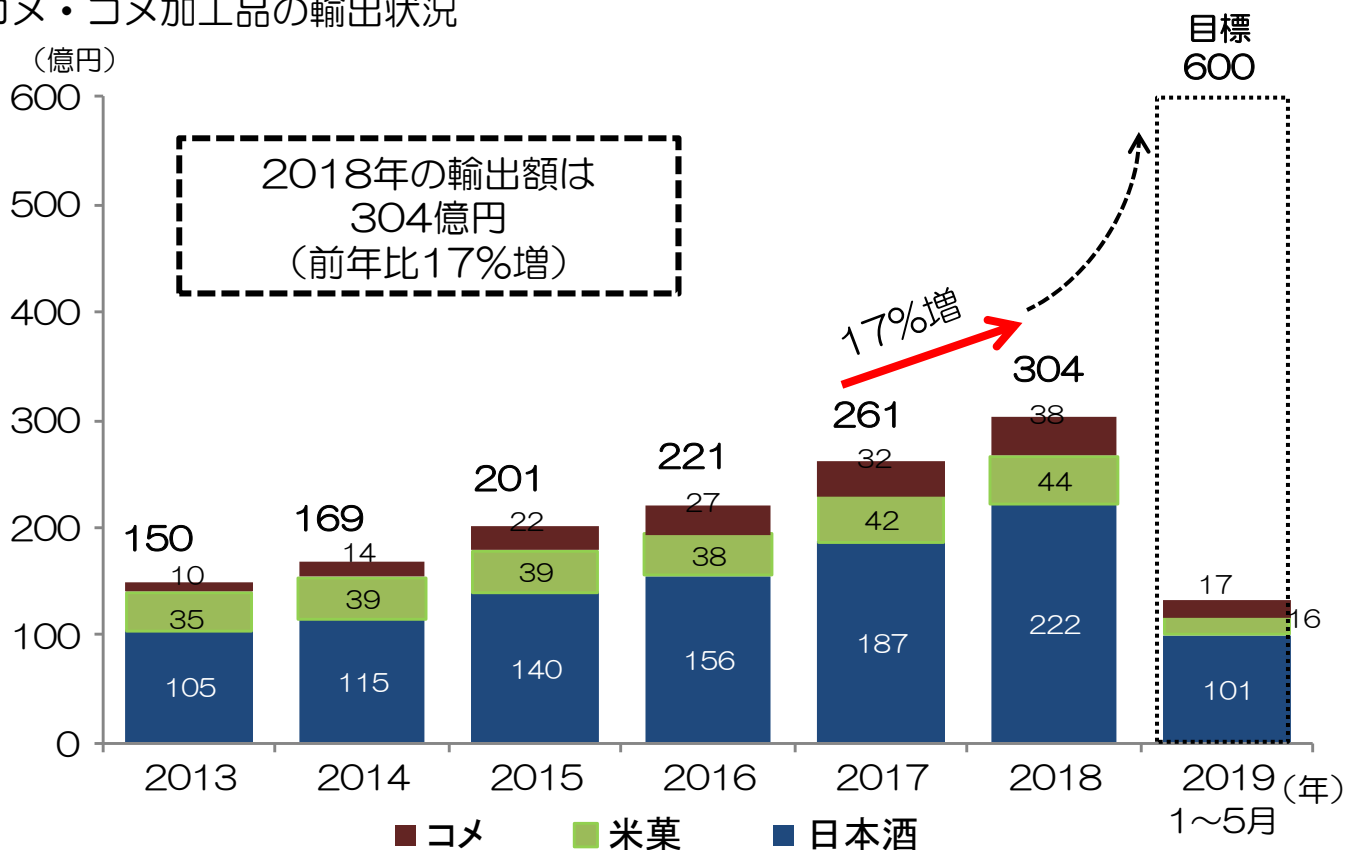
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（令和2年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（令和2年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、2019年（令和元年）に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2018年の輸出額は、304億円（前年比17%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709
2017年	23,482	18,679	3,849	4,186	11,841	3,198
2018年	25,747	22,232	4,053	4,425	13,794	3,756
2019年 (1~5月)	11,300	10,057	1,538	1,626	6,378	1,696

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 米政策改革の定着に向け、食料自給率・自給力の向上に資する飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化とともに、産地交付金により、地域の特色ある魅力的な産品による産地の創造を支援します。

水田活用の直接支払交付金(1)

【令和元年度予算額3,215億円】

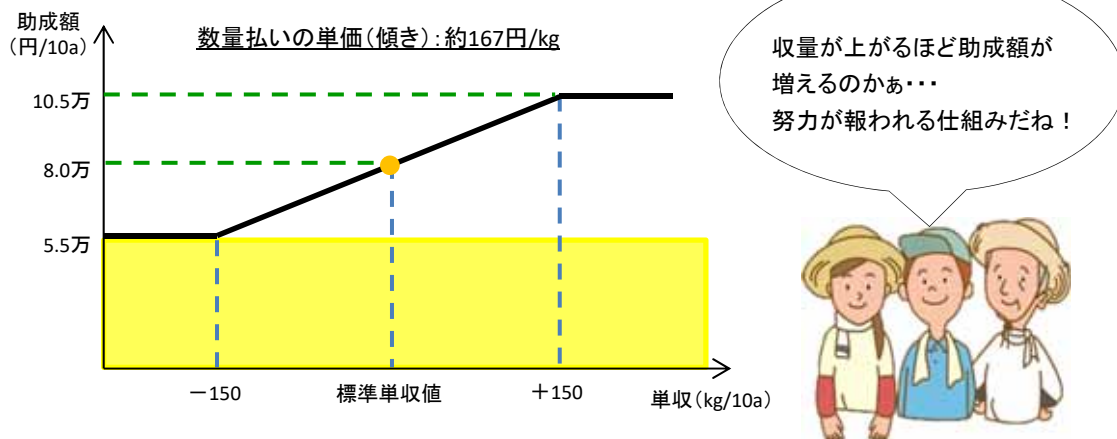
支援内容

① 戦略作物助成※1

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※2	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※1 基幹作のみ対象
※2 飼料用とうもろこしを含む

<飼料用米、米粉用米の収量と交付単価の関係(イメージ)>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- 標準単収値の各地域への適用に当たっては、地域農業再生協議会が当該地域に応じて定めている単収(地域の合理的な単収)を適用します。なお、地域の合理的な単収は当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{地域の合理的な単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平均収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

基本的運用

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容(交付対象作物・取組・単価等)を設定できます(一定割合以上は都道府県段階で助成内容を決定)。
- また、取組に応じた配分(下表参照)を都道府県に対して行います。

対象作物等	取組内容	追加配分単価
飼料用米 米粉用米	多収品種の取組	12,000円/10a
そば なたね	作付けの取組 ※ 基幹作のみ。	20,000円/10a
新市場 開拓用米	作付けの取組 ※ 基幹作のみ。	20,000円/10a
畑地化	交付対象水田からの除外	105,000円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を行います。

- ① 転換作物拡大加算(10,000円/10a)
転換作物が拡大し、主食用米の面積が平成29年度以降の最小面積より更に減少した場合に、その面積に応じて配分。
- ② 平成31年度緊急転換加算(5,000円/10a)
令和元年度に限り、転換作物が拡大し、主食用米の面積が平成30年度より減少した場合に、その面積に応じて配分。
- ③ 高収益作物等拡大加算(20,000円/10a)
主食用米の面積が平成30年度より減少し、高収益作物等※の面積が拡大した場合に、その面積に応じて配分。

※ 高収益作物等：高収益作物(園芸作物等)、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

助成内容の設定

- 助成内容は以下のルールに即して設定します。
 - ① 地域における水田農業経営の課題に対応し、収益力向上に資する取組に対する助成とすること
 - ② 経営所得安定対策等における趣旨を損なうような助成としないこと
(例:品位の低いもののみへの加算)
 - ③ 主食用米、備蓄米、不作付地への助成は行わないこと
 - ④ 地方農政局長等が特に必要と認めた場合を除き、所得増加に直接寄与しない作物(景観形成作物等)への助成は行わないこと

水田活用の直接支払交付金(3)

令和元年産における需要に応じた生産の推進策

【平成30年度】

① 転換作物拡大加算 (1.0万円/10a)

- 都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米の面積が29年度以降の最小面積より更に減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。

【令和元年度】

① 転換作物拡大加算 (1.0万円/10a)

- 左記と同様の内容で継続支援。

(②と合わせると、1.5万円/10a。)

② 平成31年度緊急転換加算 (5千円/10a) (R1限り)

- 都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米の面積が30年度より減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。

③ 高収益作物等拡大加算 (2.0万円/10a) (新規)

- 地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米の面積が30年度より減少し、高収益作物等※の面積が拡大した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。ただし、30年産で高収益作物等を減少させた協議会は、令和元年産で当該減少面積の1/2以上に拡大させることが要件。

※高収益作物等：高収益作物（園芸作物等）、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

④ 産地交付金の県枠 (1割以上) の設定・拡大 (新規)

- 当初配分のうち1割以上は、県段階で支援内容を決定し、重点品目の単価を上乗せ。

⑤ 産地交付金の留保解除時の傾斜配分 (新規)

- 留保解除時に、各都道府県における転換作物の増減に応じて傾斜配分。

水田活用の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は34万7千件で、平成29年度の支払実績と比べて7万8千件減少。
- 支払面積は、戦略作物(基幹作物)全体では43万haと、平成29年度と比べて1万6千ha減少。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、2千ha減の9万6千ha
 - (イ) 大豆は、2千ha減の8万7千ha
 - (ウ) 飼料作物は、平成29年度からほぼ横ばいの7万2千ha
 - (エ) 新規需要米(WCS用稲、米粉用米、飼料用米)は、特に飼料用米が減少したこと
から、1万2千ha減の12万6千ha
 - (オ) 加工用米は、昨年度とほぼ横ばいの4万8千ha

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)			
	個人	法人	集落営農	
平成30年度	346,933	329,920	11,876	5,137
平成29年度	424,823	407,774	11,443	5,606
対前年度比較	▲ 77,890	▲ 77,854	433	▲ 469

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積 基幹作物

	(単位: ha)									(参考)		
	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	新規需要米			加工用米	合計	そば	なたね	新市場 開拓用米
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米					
平成30年度	96,491	86,664	72,195	126,465	42,071	5,243	79,151	48,370	430,184	26,414	781	3,491
平成29年度	98,173	88,638	72,424	138,621	42,340	5,271	91,009	48,684	446,540	26,155	727	—
対前年度比較	▲ 1,683	▲ 1,974	▲ 229	▲ 12,156	▲ 269	▲ 28	▲ 11,859	▲ 314	▲ 16,357	259	54	3,491

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、5千2百ha(前年度並)、2万8千トン(7百トン減)
526kg/10a
 - (イ) 飼料用米では、7万8千ha(1万2千ha減)、41万7千トン(7万3千トン減)
538kg/10a

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

(単位: ha、トン、kg/10a)

	米粉用米			飼料用米		
	面積	数量	単収	面積	数量	単収
平成30年度	5,234	27,540	526	77,512	417,037	538
平成29年度	5,257	28,272	538	89,238	489,687	549
対前年度比較	▲ 23	▲ 732	▲ 12	▲ 11,726	▲ 72,649	▲ 11

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。

面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。

数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算出。

数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【令和元年度予算額：1,998(2,065)億円(所要額)】

(1) 支援内容（数量払）（注：単価は令和元年産）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハソ・中華麵用品種:60kg当たり)	9,040円	8,540円	8,390円	8,330円	7,880円	7,380円	7,230円	7,170円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,740円	6,240円	6,090円	6,030円	5,580円	5,080円	4,930円	4,870円
二条大麦 (50kg当たり)	5,550円	5,130円	5,010円	4,960円	4,690円	4,270円	4,140円	4,090円
六条大麦 (50kg当たり)	6,030円	5,610円	5,480円	5,430円	5,000円	4,580円	4,460円	4,410円
はだか麦 (60kg当たり)	8,650円	8,150円	8,000円	7,910円	7,080円	6,580円	6,430円	6,350円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分

特定加工用:豆腐・油揚げ・しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,390円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するしょ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容 (面積払 (営農継続支払))

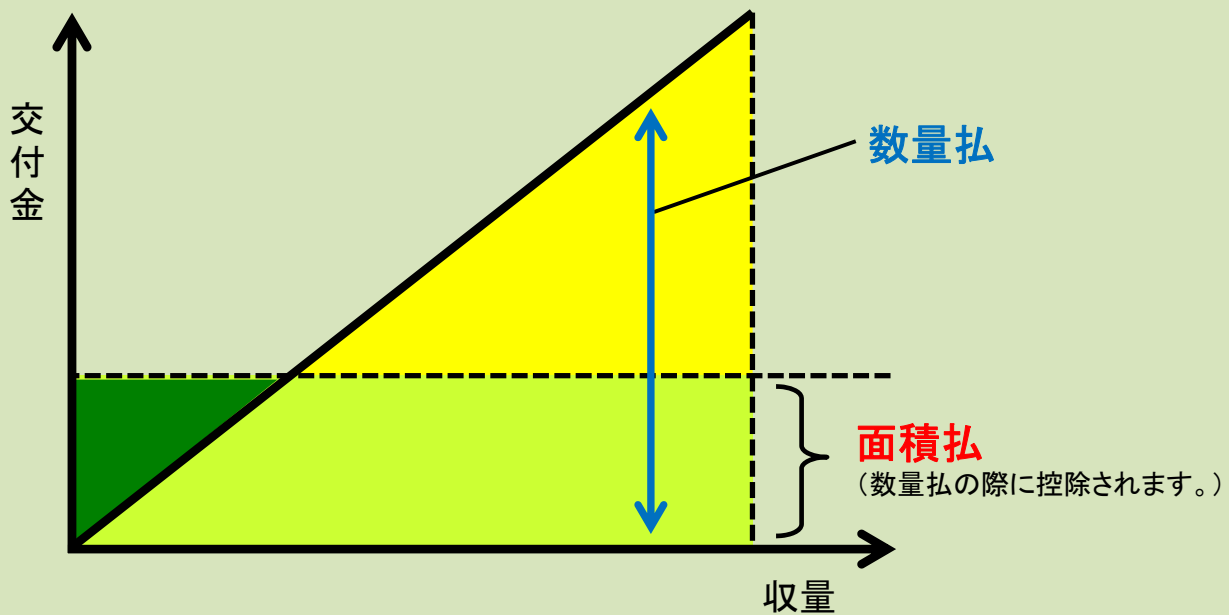
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10a当たり2万円
※「そば」は、10a当たり1万3千円

③ 数量払と面積払の関係



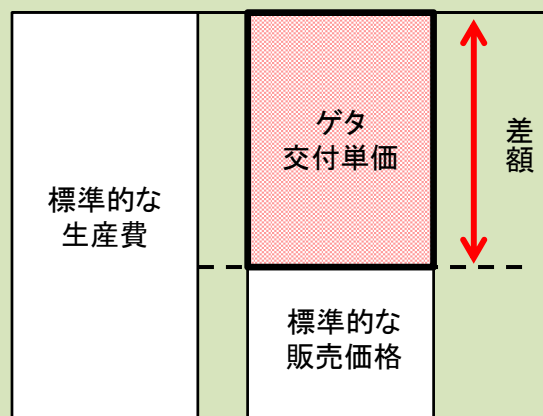
交付対象者

認定農業者、集落営農、
認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
※ビール用麦、黒大豆、種子用として
生産されるものなどは対象外
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ
※北海道産のみ

交付単価のイメージ



(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）

【令和元年度予算額：740(746)億円(所要額)】

- 米・畑作物の収入減少影響緩和交付金（ナラシ対策）は、農家拠出を伴う経営に着目したセーフティネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません。）。

- ※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5か年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3か年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

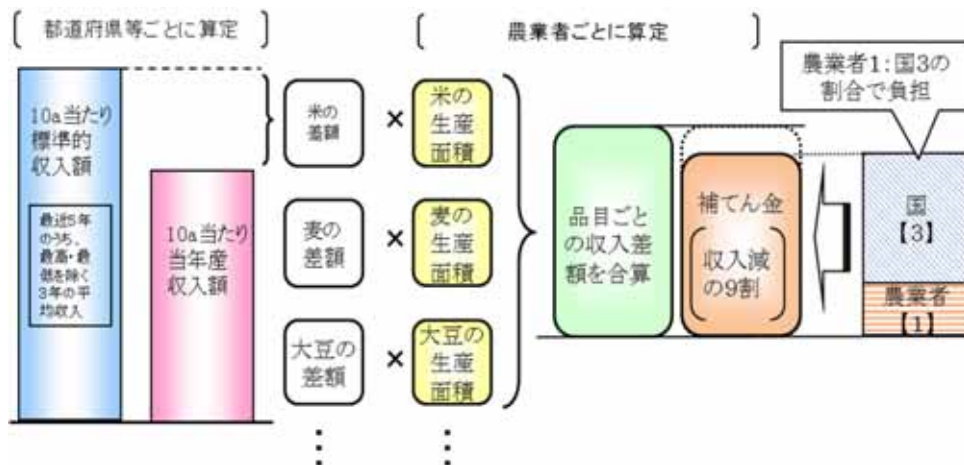
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の拠出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(4) 収入保険との関係

- 収入保険導入（平成31年1月）以降は、農業者は収入保険かナラシ対策のどちらかを選択して加入することができます。

(参考) 平成29年産ナラシ対策の支払実績 (平成30年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県		加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)
全 国		103,359	18,737	54.44
北 海 道		19,072	4,533	16.92
東	青 森 県	4,780	84	0.52
	岩 手 県	3,113	54	0.23
	宮 城 県	4,108	290	2.18
	秋 田 県	8,378	185	1.18
北	山 形 県	7,636	38	0.18
	福 島 県	4,750	38	0.14
関	茨 城 県	3,004	61	0.17
	栃 木 県	5,171	86	0.21
	群 馬 県	932	6	0.02
	埼 玉 県	1,200	3	0.00
	千 葉 県	994	3	0.00
	東 京 都	3	—	—
	神 奈 川 県	121	2	0.00
	山 梨 県	122	9	0.01
東	長 野 県	1,378	41	0.23
	静 岡 県	316	—	—
北 陸	新 潟 県	12,228	10,198	22.05
	富 山 県	1,470	172	0.50
	石 川 県	1,752	23	0.04
	福 井 県	1,146	102	0.25
東 海	岐 阜 県	645	83	0.27
	愛 知 県	571	75	0.51
	三 重 県	901	707	1.47
近 畿	滋 賀 県	2,247	725	3.23
	京 都 府	313	7	0.00
	大 阪 府	34	—	—
	兵 庫 県	1,008	26	0.03
	和 歌 山 県	82	3	0.00
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	363	39	0.09
	島 根 県	667	4	0.00
	岡 山 県	787	1	0.00
	広 島 県	482	3	0.00
	山 口 県	770	21	0.05
	徳 島 県	146	1	0.00
	香 川 県	591	4	0.00
	愛 媛 県	571	24	0.09
	高 知 県	198	1	0.01
	九 州	福 岡 県	2,069	513
佐 賀 県		1,531	167	0.26
長 崎 県		682	26	0.01
熊 本 県		3,204	132	0.89
大 分 県		1,290	210	0.44
宮 崎 県		1,540	16	0.03
鹿 児 島 県	830	21	0.03	
沖 縄 県	100	—	—	

(注1) 加入件数は、平成29年7月31日時点(福岡県及び大分県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

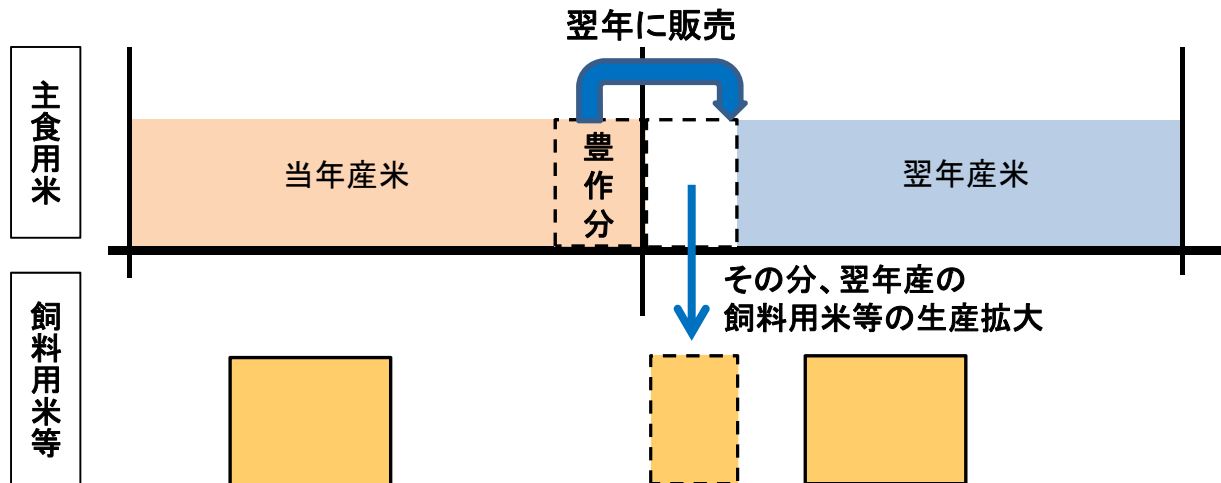
(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成30年8月31日時点の数値である。

(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：令和元年度予算額50億円（前年度：50億円））
- 必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。（水田活用の直接支払交付金：令和元年度予算額 3,215億円（前年度：3,059億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

<対策のポイント>

生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援。

<政策目標>

生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現。

<事業の内容>

<事業イメージ>

全国事業

1. 業務用米等の安定取引拡大支援

産地と中食・外食事業者等との安定取引を拡大するため、民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援します。

1. 業務用米等の安定取引拡大支援

〔業務用米取引セミナー〕



〔展示商談会〕



産地

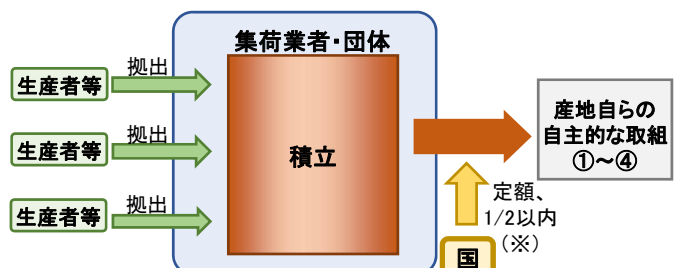
2. 周年供給・需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します（※）。

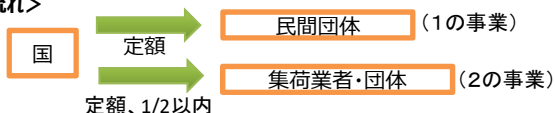
2. 周年供給・需要拡大支援

- 主食用米を翌年から翌々年以降に長期計画的に販売する取組（収穫前契約や複数年契約の場合は追加的に支援）
- 主食用米を輸出向けに販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- 主食用米を業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等の取組
- 主食用米を非主食用へ販売する取組

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援します。



<事業の流れ>



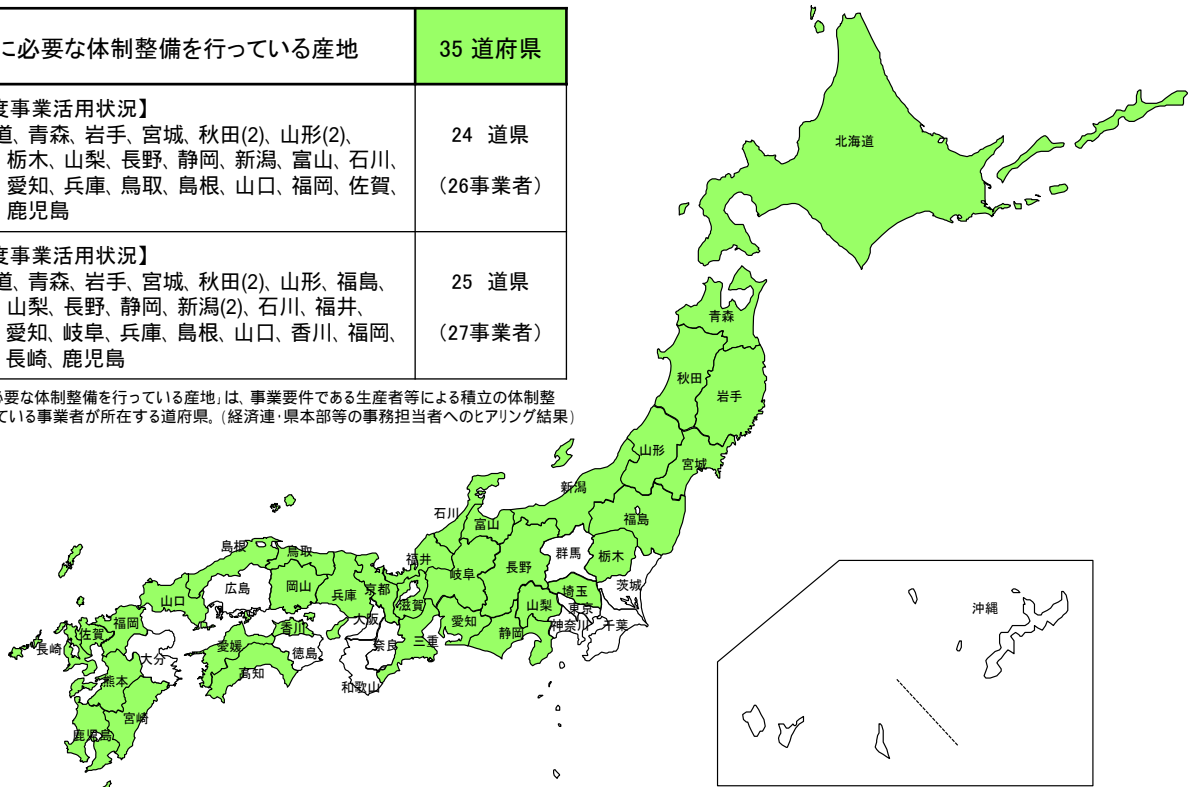
（※）値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、35道府県の38事業者において行われている状況。
- これまで、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）、平成30年度24道県（26事業者）が事業を活用。
- 出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	35 道府県
【30年度事業活用状況】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形(2)、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟、富山、石川、福井、愛知、兵庫、鳥取、島根、山口、福岡、佐賀、長崎、鹿児島	24 道県 (26事業者)
【29年度事業活用状況】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟(2)、石川、福井、富山、愛知、岐阜、兵庫、島根、山口、香川、福岡、佐賀、長崎、鹿児島	25 道県 (27事業者)

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による積立の体制整備等を行っている事業者が所在する道府県。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア及びイベントを活用した北海道産米のPR 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア及びイベントを活用した秋田県産米のPR 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	<p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬぎ」PRキャンペーンの開催 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア及びイベントを活用した山形県産米のPR 販路拡大に向けたコンサルティング活動
新潟	<p>【長期計画的な販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア及びイベントを活用した新潟県産米のPR JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施 インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握
石川	<p>【長期計画的販売の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 <p>【輸出向けへの販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 <p>【業務用向け等への販売促進等の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア及びイベントを活用した石川県産米のPR 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

(5) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（平成29年9月8日公表）

我が国のコメの消費量が毎年約10万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である令和元年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

令和元年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大

目標：10万トン^(※)

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

○ 本プロジェクトの参加状況

令和元年6月28日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 69事業者（目標数量合計 14万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1) 団体・法人 250産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 21 団体
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1 団体
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東、インド

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

○ 今後の取組方針

海外市場における日本産米の需要をより一層喚起し、輸出拡大に繋げるため、平成30年度補正予算に盛り込まれた輸出促進予算等を活用して戦略的輸出事業者による海外市場開拓を強力に推進します。

また、海外需要に応じた輸出用米の生産拡大を進めるため、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地の結びつけ・マッチングを進めるとともに、各県・地域が水田フル活用ビジョンの検討を進める中で、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との間で輸出用米の具体的な生産数量や品種等の調整が進むよう、関係者が一体となって輸出用米生産の取組を推進します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要な事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
農産企画課米穀輸出企画班 小川、坂本、鈴木
E-mail:kome_yusyutu@maff.go.jp
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-6069

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
穀物課 美保、山崎、木村、新井
E-mail:kome_santi@maff.go.jp
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。

また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画を公開しています。

「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

(農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL)

http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

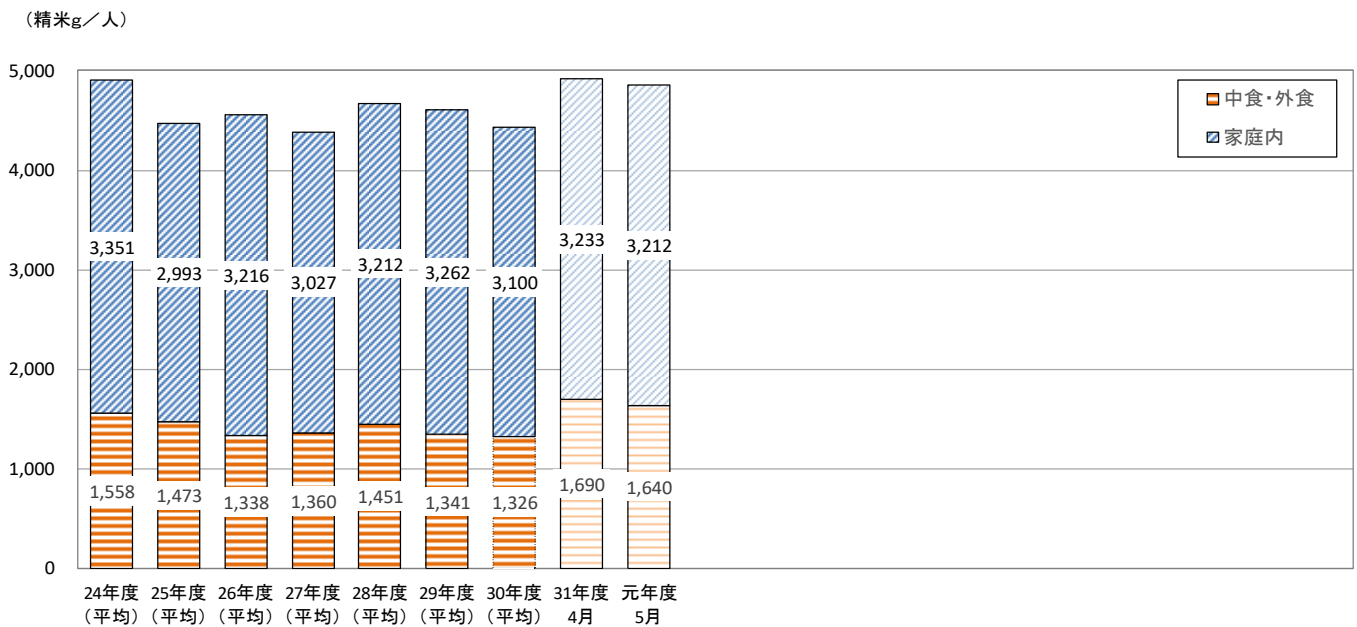
VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向調査」（令和元年5月）によると、1人1か月当たりの精米消費量は、対前年同月比+5.6%。
- このうち、家庭内での消費量は対前年同月比+0.6%、中・外食は+17.1%。

1人1か月当たり精米消費量の推移



(精米g/人、%)

	精米消費量					内訳比率				前年同月比					
	合計	家庭内	中・外食		合計	家庭内	中・外食		合計	家庭内	中・外食				
			中食	外食			中食	外食			中食	外食			
24年度	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲ 1.3	1.6	▲ 7.6	▲ 8.8	▲ 5.8
30年度	4,426	3,100	1,326	782	544	100.0	70.0	30.0	17.7	12.3	▲ 3.8	▲ 5.0	▲ 1.1	0.6	▲ 3.5
31年度 4月	4,923	3,233	1,690	979	710	100.0	65.7	34.3	19.9	14.4	1.9	▲ 4.4	16.9	13.4	21.8
元年度 5月	4,851	3,212	1,640	968	672	100.0	66.2	33.8	20.0	13.9	5.6	0.6	17.1	15.0	20.4

出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 令和元年5月分の有効調査世帯数は1,929世帯。

2 平成25～30年度は各年4月から翌年3月までの平均値である。

3 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

4 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

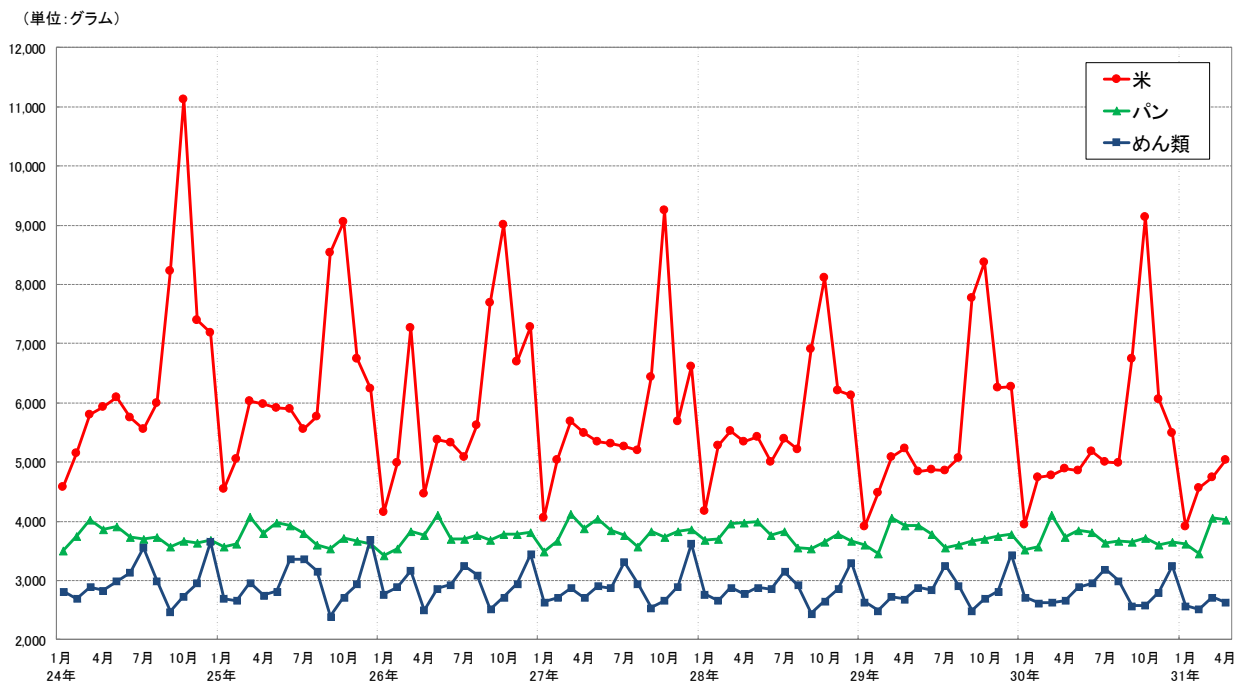
5 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

6 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成31年4月の米の購入数量は、対前年同月比+2.9%の5.0kg、パンについては+7.8%の4.0kg、めん類については▲1.1%の2.6kg。

1世帯当たり1か月間の購入数量の推移



(単位:グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	前年(同月)比	購入数量	前年(同月)比	購入数量	前年(同月)比
平成21年(累計)	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
22年(累計)	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
23年(累計)	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
24年(累計)	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
25年(累計)	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
26年(累計)	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
27年(累計)	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
28年(累計)	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
29年(累計)	67,070	97.6%	44,829	99.4%	33,878	99.1%
30年(累計)	65,820	98.1%	44,534	99.3%	33,890	100.0%
31年1月	3,910	99.2%	3,625	103.1%	2,577	94.7%
31年2月	4,560	96.0%	3,453	96.6%	2,513	95.7%
31年3月	4,740	99.2%	4,066	99.0%	2,720	103.3%
31年4月	5,030	102.9%	4,030	107.8%	2,635	98.9%

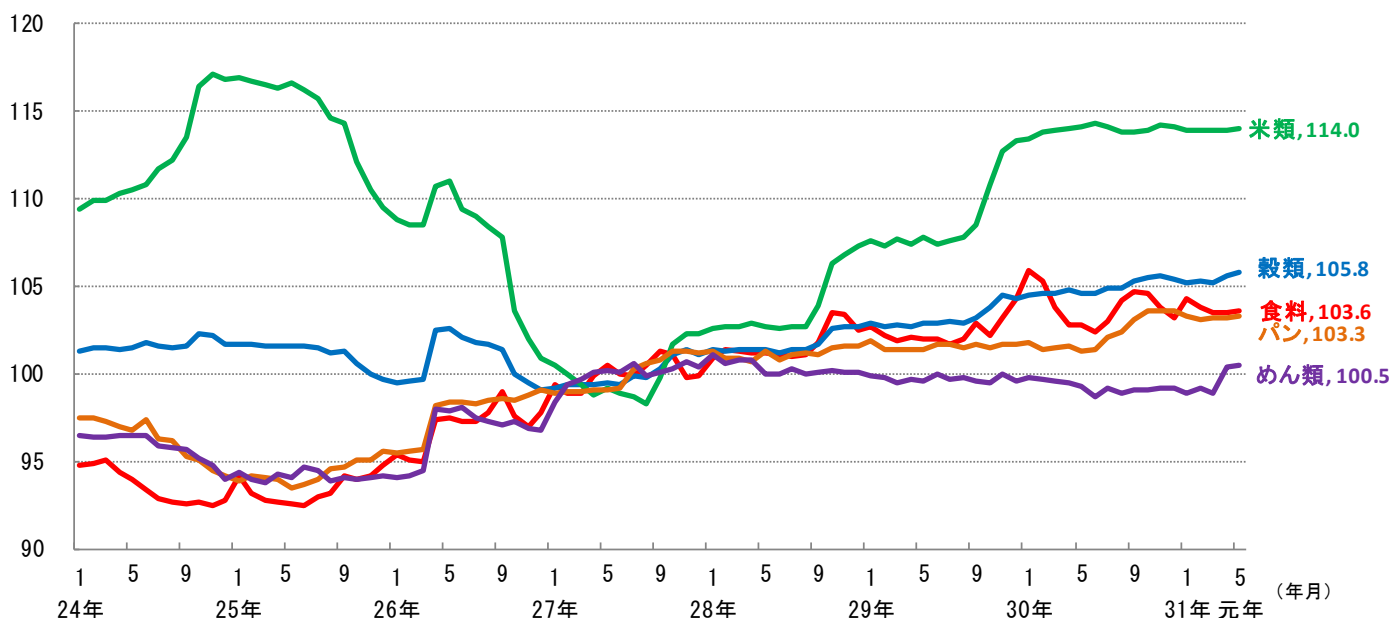
資料： 総務省「家計調査」

注： 1 二人以上の世帯の数値である。

2 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- 総務省が公表している消費者物価指数によると、令和元年5月の米類の指数は対前月比 +0.1、対前年同月比 ±0 の114.0ポイント。



- 注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
 2 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

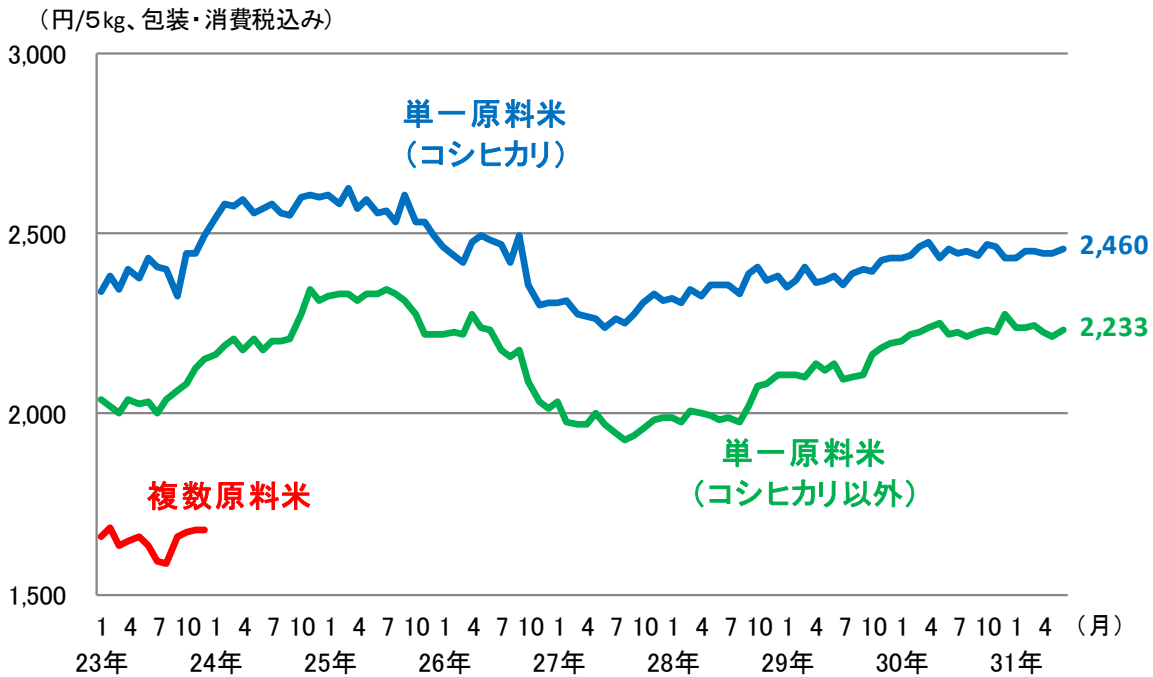
(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	対前年 (同月)比	
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年	102.4	0.7%	103.2	1.5%	108.8	4.8%	109.2	5.1%	101.6	0.4%	99.7	▲0.6%
平成30年	103.9	1.4%	104.9	1.7%	114.0	4.7%	114.6	5.0%	102.3	0.7%	99.3	▲0.5%
平成31年1月	104.3	▲1.5%	105.2	0.7%	113.9	0.5%	114.7	0.5%	103.3	1.5%	98.9	▲0.8%
2月	103.8	▲1.4%	105.3	0.7%	113.9	0.1%	114.7	0.1%	103.1	1.7%	99.2	▲0.5%
3月	103.5	▲0.3%	105.2	0.5%	113.9	0.0%	114.6	0.0%	103.2	1.7%	98.9	▲0.7%
4月	103.5	0.7%	105.6	0.8%	113.9	▲0.1%	114.6	▲0.1%	103.2	1.5%	100.4	0.9%
令和元年5月	103.6	0.8%	105.8	1.1%	114.0	0.0%	114.7	0.0%	103.3	1.9%	100.5	1.2%

- 資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）
 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
 2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
 3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
 4 平成21年から平成30年のデータは年平均、平成31年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、令和元年6月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、対前年同月比±0の2,460円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、対前年同月比+0.5%の2,233円。



(円/5kg、包装・消費税込み)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
29年	2,388	1.4%	2,132	5.6%	-
30年	2,451	2.6%	2,232	4.7%	-
31年1月	2,434	0.0%	2,241	1.7%	-
2月	2,453	0.6%	2,242	0.9%	-
3月	2,451	▲0.6%	2,244	0.7%	-
4月	2,443	▲1.3%	2,229	▲0.5%	-
令和元年5月	2,444	0.5%	2,216	▲1.7%	-
6月	2,460	0.0%	2,233	0.5%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

5：平成20年から平成30年のデータは年平均、平成31年1月以降は月次データを用いている。

(5) 米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向

- 令和元年5月の販売数量(対前年比)は、小売事業者向け95%、中食・外食事業者等向け96%。
- 平成30年6月を基準にした令和元年5月の販売価格の値動きは、小売事業者向け101.2、中食・外食事業者等向け99.4。
- 前年同月を基準にした令和元年5月の販売価格の値動きは、小売事業者向け100.3、中食・外食事業者等向け102.0。

1 販売数量の動向 (対前年比)

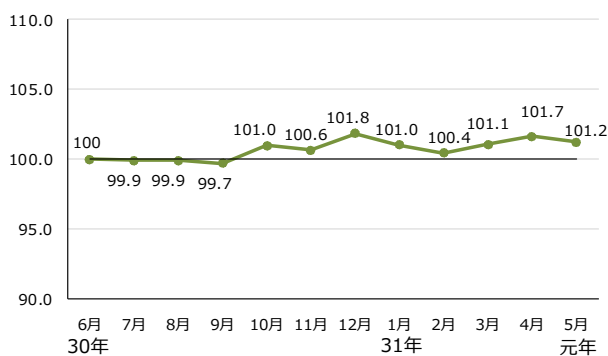
	30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	元年 5月
小売事業者向け	103%	102%	100%	101%	101%	102%	100%	97%	98%	98%	101%	95%
中食・外食事業者等向け	97%	98%	99%	98%	101%	100%	97%	98%	99%	96%	96%	96%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

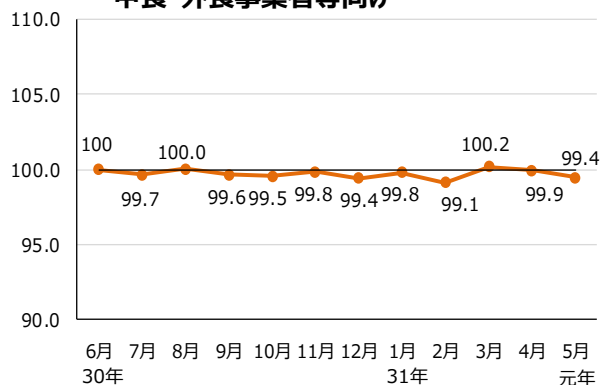
注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

2 販売価格の動向 (30年6月を基準にした値動き)

小売事業者向け



中食・外食事業者等向け

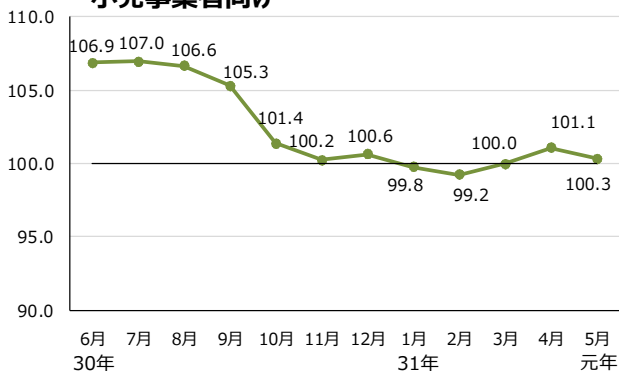


資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

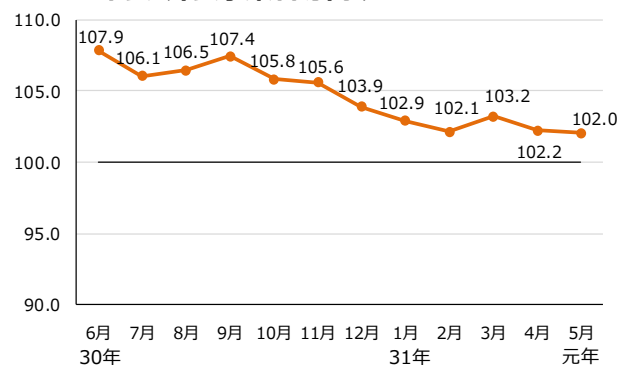
注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

3 販売価格の動向 (前年同月の価格を基準にした値動き)

小売事業者向け



中食・外食事業者等向け



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

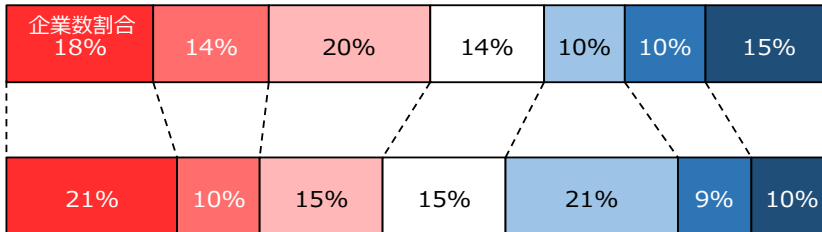
※ 上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

(6) 中食・外食事業者の米の仕入状況

仕入数量の動向(平成31年1～3月期と平成30年1～3月期を比較) (前年からの変動別企業数割合)

前回調査(平成30年10～12月期と平成29年10～12月期を比較)に比べて、仕入数量の対前年同期比の増減について大きな変動はみられない。

【平成31年1月～3月】 回答企業全体の仕入数量は対前年同月比99.1%。



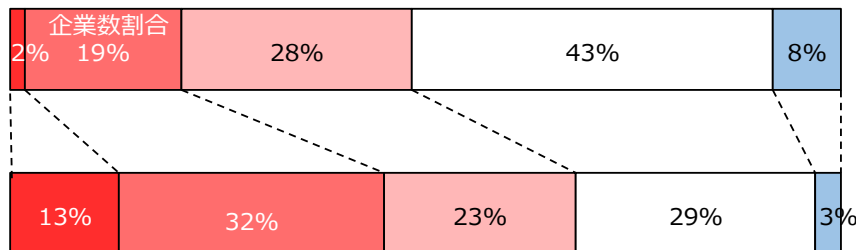
【平成30年10月～12月】 回答企業全体の仕入数量は対前年同月比99.3%。



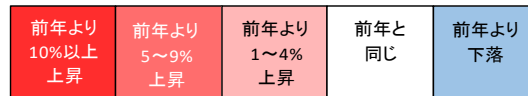
仕入価格の動向(平成31年1月と平成30年1月を比較) (前年からの変動別企業数割合)

前回調査(平成30年10月と平成29年10月を比較)に比べて、仕入価格の対前年比は「上昇した」と回答した事業者の割合が減少し、「前年と同じ」と回答した事業者の割合が増加。

【平成31年1月】



【平成30年10月】



注 本調査項目では仕入れた米の年産については調査していないため、必ずしも30年産米の仕入価格を表したものではありません。

<参考：米の相対取引価格(年産平均)>

●29年産：15,595円(対前年比109%) ●30年産：15,685円(対前年比101%)

<当データを利用する上での留意事項>

▶ 日本惣菜協会、日本べんとう振興協会、日本炊飯協会、日本弁当サービス協会、日本フードサービス協会の会員企業(合計418社)にご協力を頂き、平成31年1月から3月までの期間の米の仕入状況に関するアンケート調査を実施いたしました。

回答がありました124社の企業形態別の内訳は、中食事業者(38社)、外食事業者(10社)、中食・外食事業者に米飯等を提供する事業者(62社)、その他(13社)となっております。

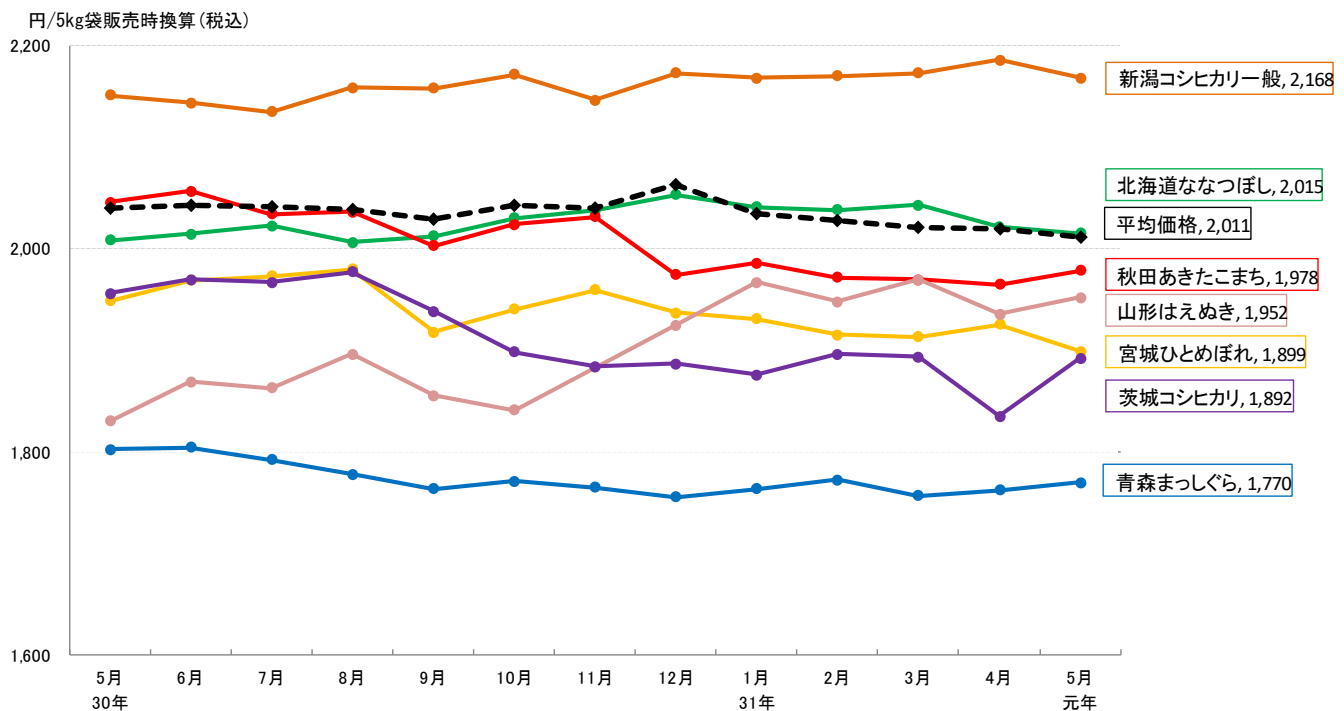
また、前回(平成30年10月)調査で回答のありました136社の企業形態別の内訳は、中食事業者(52社)、外食事業者(13社)、中食・外食事業者に米飯等を提供する事業者(58社)、その他(13社)となっております。

▶ ご協力いただいた企業は東京、大阪圏が多いため、今回取りまとめたデータは必ずしも全国の趨勢を示したものではありません。

本アンケート調査にご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(7) 小売価格の推移 (POSデータ)

- 令和元年5月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月比▲8円(▲0.7%)、対前年同月比▲29円(▲1.7%)の2,011円。



単位:円/5kg袋販売時換算(消費税込)

	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	全POS取引 平均価格
平成30年5月	2,008	1,802	1,948	2,046	1,830	1,956	2,151	2,040
6月	2,014	1,804	1,969	2,056	1,869	1,970	2,143	2,043
7月	2,022	1,792	1,973	2,034	1,863	1,967	2,134	2,041
8月	2,006	1,778	1,980	2,036	1,896	1,977	2,158	2,039
9月	2,012	1,763	1,918	2,003	1,855	1,938	2,157	2,029
10月	2,030	1,771	1,940	2,024	1,841	1,898	2,171	2,042
11月	2,037	1,765	1,959	2,031	1,883	1,884	2,146	2,039
12月	2,053	1,755	1,937	1,974	1,924	1,887	2,173	2,063
平成31年1月	2,041	1,764	1,931	1,986	1,967	1,876	2,168	2,035
2月	2,038	1,772	1,915	1,971	1,948	1,896	2,170	2,027
3月	2,044	1,757	1,915	1,963	1,970	1,894	2,174	2,024
4月	2,022	1,762	1,926	1,965	1,936	1,835	2,186	2,019
令和元年5月	2,015	1,770	1,899	1,978	1,952	1,892	2,168	2,011
対前月比	▲ 0.4%	+ 0.4%	▲ 1.5%	+ 0.7%	+ 0.8%	+ 3.0%	▲ 0.9%	▲ 0.7%
対前年同月比	+ 0.2%	▲ 1.8%	▲ 2.7%	▲ 3.3%	+ 6.6%	▲ 3.3%	+ 0.7%	▲ 1.7%

資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注: 1 (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,061店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ 輸入米（MA米、CPTPP・国別枠）の動向

1 MA米（一般、SBS）

（1） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計		
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度	365	264	56	74	8	767	655	100
平成30年度	359	316	69	15	8	767	701	59

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注：1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合せ結果(平成30年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成30年4～6月分	28,998	平成30年4～7月分	2,745
4月分	561	平成30年8～11月分	2,951
5月分	1,361	平成30年12～平成31年3月分	2,796
6月分	699		
7～9月分	27,412		
7月分	107		
8月分	339		
9月分	684		
10～12月分	27,082		
10月分	594		
11月分	585		
12月分	1,013		
平成31年1～3月分	24,161		
1月分	323		
2月分	311		
3月分	397		
小計	114,627		
合計	123,119		

(3) SBS輸入米の見積合せ結果(平成30年度)

(単位:実トン)

		アメリカ		タイ		中国		オーストラリア		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成30年9月26日)	一般米	1,540	200	204								1,944
	砕精米	516	140	500								1,156
	計	2,056	340	704								3,100
第2回 (平成30年10月26日)	一般米	2,310	212	514				100		137		3,273
	砕精米	700	200			200						1,100
	計	3,010	412	514		200		100		137		4,373
第3回 (平成30年11月30日)	一般米	2,244		998	90			4,708		423		8,463
	砕精米	2,300		200								2,500
	計	4,544		1,198	90			4,708		423		10,963
第4回 (平成30年12月19日)	一般米	1,176	160	676				1,800		692		4,504
	砕精米	1,900		200		300				100		2,500
	計	3,076	160	876		300		1,800		792		7,004
第5回 (平成31年1月16日)	一般米	980	780	924				1,720		725		5,129
	砕精米	2,180	100	600		120						3,000
	計	3,160	880	1,524		120		1,720		725		8,129
第6回 (平成31年2月1日)	一般米	3,304	900	432		174		615		80		5,505
	砕精米	2,600	300	100								3,000
	計	5,904	1,200	532		174		615		80		8,505
第7回 (平成31年2月20日)	一般米	3,110		836		300		740		74		5,060
	砕精米	2,000	100									2,100
	計	5,110	100	836		300		740		74		7,160
第8回 (平成31年3月6日)	一般米	1,700	140	40		120		3,520		346		5,866
	砕精米	2,044	100	100	1,200							3,444
	計	3,744	240	140	1,200	120		3,520		346		9,310
平成30年度計	一般米	16,364	2,392	4,624	90	594	0	13,203	0	2,477	0	39,744
	砕精米	14,240	940	1,700	1,200	620	0	0	0	100	0	18,800
	計	30,604	3,332	6,324	1,290	1,214	0	13,203	0	2,577	0	58,544
平成29年度計 (参考)	一般米	45,841	2,976	3,506	90	1,580	0	27,863	0	2,007	0	83,863
	砕精米	8,966	1,000	2,012	360	660	0	2,839	0	300	0	16,137
	計	54,807	3,976	5,518	450	2,240	0	30,702	0	2,307	0	100,000
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	6,861	0	1,236	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	0	0	100	0	28,548
	計	52,138	4,300	5,787	496	2,396	0	6,861	0	1,336	0	73,314
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	1,285	0	959	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	0	0	150	0	16,452
	計	15,191	4,718	5,182	1,094	736	0	1,285	0	1,109	0	29,315
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	559	0	767	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	0	0	100	0	4,316
	計	662	3,142	5,272	324	780	0	559	0	867	0	11,606
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,227	0	766	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	9,017	0	1,896	0	20,100
	計	15,262	4,784	10,721	452	714	0	26,244	0	2,662	0	60,839

資料:農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成25~30年度

2 CPTPP・国別枠の見積合せ結果(令和元年度)

(単位:実トン)

		オーストラリア	
		うるち	もち
第1回 (令和元年5月28・29日)	一般米	856	
	加工品・調製品		
	砕精米		
	計	856	
令和元年度計	一般米	856	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	0	0
	計	856	0
平成30年度計 (参考)	一般米	1,000	0
	加工品・調製品	0	0
	砕精米	120	0
	計	1,120	0

Ⅷ その他

(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成30年産水稲うるち玄米の平成31年3月31日現在の検査数量は、432万トン。
- 1等米比率は、80.5%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
29	13	244	1,463	3,268	3,851	4,062	4,163	4,279	4,409	4,764
参考：前年比	72%	105%	88%	92%	95%	96%	96%	96%	96%	97%
30	21	297	1,446	3,328	3,782	3,962	4,075	4,199	4,324	
参考：前年比	159%	122%	99%	102%	98%	98%	98%	98%	98%	

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28	4,928,745	4,110,565	668,746	67,438	81,995	83.4	13.6	1.4	1.7
29	4,763,550	3,919,530	676,990	74,247	92,784	82.3	14.2	1.6	1.9
30(注3)	4,324,483	3,480,673	689,287	79,169	75,353	80.5	15.9	1.8	1.7

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 29年産米までは、生産年の翌年10月31日現在（確定値）。

3 30年産米については、平成31年3月31日現在（速報値）。

(2) 平成30年産水陸稲の収穫量

(平成30年12月10日公表)

水稲の収穫量（主食用）は732万7,000t

調査結果の概要

- 1 平成30年産水稲の作付面積（子実用）は147万haで、うち主食用作付面積は138万6,000haとなった。
- 2 全国の10a当たり収量は529kg（1.70mmのふるい目幅ベース。10a当たり平年収量532kg。）となり、前年産に比べ5kgの減少が見込まれる。
- 3 以上の結果、収穫量（子実用）は778万tで、うち主食用の収穫量は732万7,000tが見込まれる。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の10a当たり収量は511kg（10a当たり平年収量519kg）となり、作況指数は98となる見込み。
- 5 平成30年産陸稲の作付面積（子実用）は750haで、10a当たり収量は232kg（10a当たり平均収量対比100%）となり、収穫量（子実用）は1,740tとなった。

平成30年産水稲の作付面積及び収穫量

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10a当たり収量		収穫量（子実用）			参 考		
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差	実数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対差	対比				対差	対比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,470,000	5,000	100	529	△ 5	7,780,000	△ 42,000	99	1,386,000	7,327,000	98
北 海 道	104,000	100	100	495	△ 65	514,800	△ 67,000	88	98,900	489,600	90
東 北	379,100	4,300	101	564	0	2,137,000	22,000	101	345,500	1,947,000	99
北 陸	205,600	1,500	101	533	4	1,096,000	17,000	102	184,800	985,300	98
関東・東山	270,300	1,800	101	539	6	1,457,000	26,000	102	259,300	1,398,000	100
東 海	93,400	1,000	101	495	△ 3	462,400	2,300	100	91,000	450,600	98
近 畿	103,100	△ 100	100	502	△ 8	517,500	△ 9,100	98	99,500	498,700	98
中 国	103,700	△ 600	99	519	△ 11	537,800	△ 14,600	97	101,100	524,200	101
四 国	49,300	△ 600	99	473	△ 13	233,400	△ 9,000	96	49,000	232,000	98
九 州	160,400	△ 2,700	98	512	2	821,300	△ 10,600	99	156,100	800,000	102
沖 縄	716	△ 11	98	308	7	2,210	20	101	716	2,210	100

- 注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 2 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 3 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成25年産	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
30(概数値)	100.0	0.9	1.6	2.3	3.3	17.6	74.3
平均 値	100.0	0.8	1.4	1.9	2.7	14.9	78.3
対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.4	0.6	2.7	△ 4.0

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下同じ。）。

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
平成25年産	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量(子実用)	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量(子実用)	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量(子実用)	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量(子実用)	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	409
	収穫量(子実用)	t	7,822,000	7,752,000	7,634,000	7,470,000	7,243,000	5,984,000
30 (概数値)	10a 当たり収量	kg	529	524	516	504	486	393
	収穫量(子実用)	t	7,780,000	7,710,000	7,586,000	7,407,000	7,150,000	5,781,000
	対前年比	%	99	99	99	99	99	97

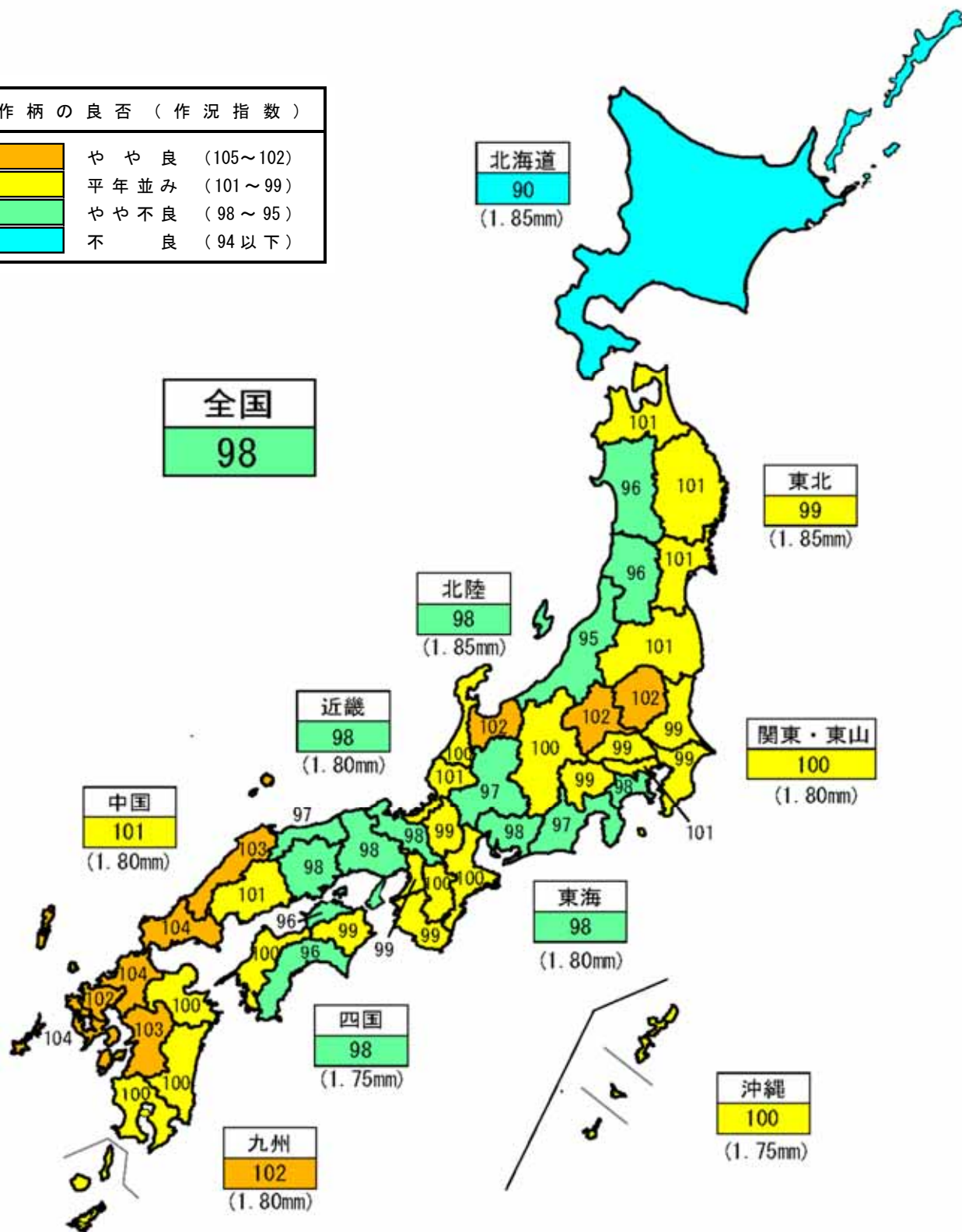
注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

「平成30年産水陸稲の収穫量」は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y5 】

全国農業地域・都道府県別作況指数 【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）
	不良（94以下）



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。

平成30年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 都道府県	作付面積（子実用）			10 a 当たり 収 量 ②	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 収 量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④
		対差	対比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,470,000	5,000	100	529	511	519	98
北 海 道 (2)	104,000	100	100	495	480	532	90
青 森 (3)	44,200	800	102	596	577	573	101
岩 手 (4)	50,300	500	101	543	526	522	101
宮 城 (5)	67,400	1,100	102	551	527	520	101
秋 田 (6)	87,700	800	101	560	533	554	96
山 形 (7)	64,500	0	100	580	556	580	96
福 島 (8)	64,900	900	101	561	535	528	101
茨 城 (9)	68,400	300	100	524	508	515	99
栃 木 (10)	58,500	900	102	550	537	528	102
群 馬 (11)	15,600	100	101	506	489	479	102
埼 玉 (12)	31,900	300	101	487	471	476	99
千 葉 (13)	55,600	400	101	542	525	530	99
東 京 (14)	133	△ 8	94	417	410	404	101
神 奈 川 (15)	3,080	△ 10	100	492	470	479	98
新 潟 (16)	118,200	1,900	102	531	500	527	95
富 山 (17)	37,300	△ 300	99	552	535	527	102
石 川 (18)	25,100	△ 200	99	519	507	506	100
福 井 (19)	25,000	100	100	530	503	500	101
山 梨 (20)	4,900	△ 60	99	542	526	533	99
長 野 (21)	32,200	△ 100	100	618	607	607	100
岐 阜 (22)	22,500	600	103	478	465	478	97
静 岡 (23)	15,800	100	101	506	496	513	97
愛 知 (24)	27,600	100	100	499	489	499	98
三 重 (25)	27,500	100	100	499	489	489	100
滋 賀 (26)	31,700	0	100	512	501	506	99
京 都 (27)	14,500	△ 200	99	502	491	501	98
大 阪 (28)	5,010	△ 140	97	494	475	480	99
兵 庫 (29)	37,000	400	101	492	479	490	98
和 歌 山 (30)	8,580	△ 30	100	514	499	500	100
和 歌 山 (31)	6,430	△ 130	98	492	479	484	99
鳥 取 (32)	12,800	200	102	498	488	504	97
島 根 (33)	17,500	0	100	524	515	502	103
岡 山 (34)	30,200	100	100	517	504	514	98
広 島 (35)	23,400	△ 300	99	525	517	513	101
山 口 (36)	19,800	△ 500	98	522	513	492	104
徳 島 (37)	11,400	△ 100	99	470	466	469	99
早期栽培 (38)	4,400	△ 50	99	466	463	459	101
普通栽培 (39)	7,000	△ 80	99	474	470	475	99
香 川 (40)	12,500	△ 300	98	479	470	491	96
愛 媛 (41)	13,900	0	100	498	492	493	100
高 知 (42)	11,500	△ 100	99	441	437	454	96
早期栽培 (43)	6,470	△ 30	100	465	462	475	97
普通栽培 (44)	5,000	△ 60	99	411	407	425	96
福 岡 (45)	35,300	△ 400	99	518	497	478	104
佐 賀 (46)	24,300	△ 300	99	532	514	503	102
長 崎 (47)	11,500	△ 100	99	499	483	463	104
熊 本 (48)	33,300	0	100	529	510	497	103
大 分 (49)	20,700	△ 300	99	501	478	480	100
宮 崎 (50)	16,100	△ 200	99	493	480	482	100
早期栽培 (51)	6,410	△ 50	99	476	469	469	100
普通栽培 (52)	9,670	△ 200	98	505	487	490	99
鹿 児 島 (53)	19,200	△ 1,200	94	481	468	469	100
早期栽培 (54)	4,340	△ 120	97	450	439	435	101
普通栽培 (55)	14,800	△ 1,200	93	490	477	479	100
沖 縄 (56)	716	△ 11	98	308	305	306	100
第一期稲 (57)	527	△ 10	98	364	362	358	101
第二期稲 (58)	189	△ 1	99	151	145	160	91

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
 3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

収穫量（子実用）				参 考		
実 数 ⑥=①×②	前年産との比較			主 食 用 作付面積 ⑦	収 穫 量 (主食用) ⑧=⑦×②	
	対差	対比				
t	t	%		ha	t	
7,780,000	△ 42,000	99		1,386,000	7,327,000	(1)
514,800	△ 67,000	88		98,900	489,600	(2)
263,400	4,700	102		39,600	236,000	(3)
273,100	7,700	103		48,800	265,000	(4)
371,400	16,700	105		64,500	355,400	(5)
491,100	△ 7,700	98		75,000	420,000	(6)
374,100	△ 11,600	97		56,400	327,100	(7)
364,100	12,700	104		61,200	343,300	(8)
358,400	900	100		66,800	350,000	(9)
321,800	28,000	110		54,700	300,900	(10)
78,900	1,600	102		13,700	69,300	(11)
155,400	△ 700	100		30,800	150,000	(12)
301,400	1,700	101		53,900	292,100	(13)
555	△ 25	96		133	555	(14)
15,200	△ 500	97		3,080	15,200	(15)
627,600	15,900	103		104,700	556,000	(16)
205,900	600	100		33,300	183,800	(17)
130,300	△ 1,000	99		23,200	120,400	(18)
132,500	1,800	101		23,600	125,100	(19)
26,600	△ 600	98		4,820	26,100	(20)
199,000	△ 4,200	98		31,300	193,400	(21)
107,600	700	101		21,500	102,800	(22)
79,900	△ 1,000	99		15,700	79,400	(23)
137,700	△ 3,100	98		26,700	133,200	(24)
137,200	5,700	104		27,100	135,200	(25)
162,300	△ 1,600	99		30,100	154,100	(26)
72,800	△ 2,200	97		13,900	69,800	(27)
24,700	△ 1,400	95		5,000	24,700	(28)
182,000	△ 1,400	99		35,500	174,700	(29)
44,100	△ 800	98		8,530	43,800	(30)
31,600	△ 1,700	95		6,430	31,600	(31)
63,700	△ 1,800	97		12,700	63,200	(32)
91,700	900	101		17,200	90,100	(33)
156,100	△ 7,600	95		29,400	152,000	(34)
122,900	△ 3,700	97		22,900	120,200	(35)
103,400	△ 2,400	98		18,900	98,700	(36)
53,600	△ 1,600	97		11,200	52,600	(37)
20,500	△ 900	96		(38)
33,200	△ 700	98		(39)
59,900	△ 2,100	97		12,500	59,900	(40)
69,200	△ 1,400	98		13,900	69,200	(41)
50,700	△ 3,900	93		11,400	50,300	(42)
30,100	△ 2,300	93		(43)
20,600	△ 1,400	94		(44)
182,900	1,200	101		34,900	180,800	(45)
129,300	△ 1,300	99		24,000	127,700	(46)
57,400	0	100		11,400	56,900	(47)
176,200	700	100		32,300	170,900	(48)
103,700	△ 2,600	98		20,600	103,200	(49)
79,400	△ 1,900	98		14,700	72,500	(50)
30,500	△ 1,400	96		(51)
48,800	△ 800	98		(52)
92,400	△ 6,700	93		18,300	88,000	(53)
19,500	△ 1,600	92		(54)
72,500	△ 5,900	92		(55)
2,210	20	101		716	2,210	(56)
1,920	20	101		(57)
285	△ 2	99		(58)

4 (参考)の農家等が使用しているふるい目幅で選別された③10a当たり収量、④10a当たり年平均収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

5 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊) 「資料編」の目次

I	契約・在庫情報	
(1)	平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成29年7月末から30年6月末) (速報)	1
(2)	産地別事前契約数量(累計、うるち米、平成26~29年産)	9
(3)	平成28・29年産米の産地別契約・販売状況(累計、うるち米)	11
II	米の価格情報	
(1)	米の相対取引価格の推移(通年平均価格)	25
(2)	業者間取引の状況	28
	① 日本コメ市場(随時取引の結果)	
	② 日本コメ市場・クリスタルライス(取引会の結果)	
	③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
	④ 米の現物市場の状況	
III	主食用米以外(輸出を含む)	
(1)	加工用米及び新規需要米等の生産状況	31
	① 加工用米の生産量(平成17~30年産)	
	② 新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移(平成20~30年産)	
	③ 平成30年産 都道府県別の生産状況	
(2)	飼料用米のマッチングの取組状況、 配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	33
(3)	政府備蓄米の運営 備蓄米の買入入札の結果(落札実績)(平成23~30年産)	34
(4)	商業用の米の輸出数量及び金額の推移	35
(5)	2018年の主な増加要因(輸出業者等からのヒアリング結果による)	36
(6)	米菓の輸出数量及び金額の推移	37
(7)	日本酒(清酒)の輸出数量及び金額の推移	38
IV	消費動向	
(1)	米の消費動向(米穀機構による調査)	39
(2)	小売価格の推移(POSデータ、主な銘柄)	42
V	その他	
(1)	米取引関係者の判断(米穀機構による調査、令和元年6月分)	43
(2)	平成29年産水陸稲の収穫量	48
(3)	水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移(全国)	51
(4)	水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、 10a当たり収量及び収穫量(子実用)の年次別推移(全国)	51
(5)	年産・都道府県別主食用米の作付面積及び収穫量等の推移	54
(6)	麦・大豆の需要情報	56
	① 31年産麦の産地別銘柄別入札結果	
	② 30年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(7)	野菜等の需給情報	63
(8)	米の安定取引研究会報告書の概要	67

○「米に関するマンスリーレポート」を更にご活用いただくため、読み解き方などを解説した特集ページ「米に関するマンスリーレポート解説特集『ここが分からない！マンレポ』」を開設しました！

http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

○米に関する各種情報は「米に関するメールマガジン」でも毎月発信中！ご登録お待ちしております！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

「お米の輸出動画」 配信中！

お米の新しい市場を開拓！ 「日本産米を世界へ」について

お米の輸出の可能性や農水省の輸出促進の取組について解説した動画を配信中！

「どうして今、お米を輸出するの？」「今、生産者や事業者の人はどんなことに取り組んでいるの？」という疑問にお答えします！

1. コメ輸出を取り巻く現状

国内消費量の減少、海外における日本食レストランの拡大、日本産米の輸出状況、中国向け輸出の指定施設の追加等コメ輸出に関する最近の動きを紹介。



「日本産米を世界へ」



3. 輸出産地及び輸出事業者へのインタビュー

現在輸出用の米を生産し、海外での販売に取り組む生産者に対するインタビュー、コメ・コメ加工品の輸出に取り組む事業者のインタビュー等を紹介。



「日本産米を世界へ！輸出への挑戦 生産者たちの声」



2. 輸出手続きに関する情報

コメ輸出に関する手続きの流れ、植物検疫、残留農薬基準、原発事故に係る輸入規制に関する注意点、各手続きに関する問い合わせ先を紹介。



「日本産米を世界へ」(①手続き一般編)



4. 日本産米の海外における需要情報

海外における日本産米の販売事例や求められている米等について、海外のレストランへのインタビューを紹介。



お米の新しい市場を開拓！【おむすび権米衛 in USA】日本産米おにぎりの普及に向けて



QRコードを掲載した動画以外についても、海外レストランでの取組事例や国内の事業者・生産者の取組事例等について、様々な動画を配信しています。

農林水産省HPまたはYouTubeで公開していますので、ぜひご覧下さい！

Youtubeから見る

Youtubeの検索バナーで「お米の輸出」と検索！

お米の輸出

×



(「日本産米を世界へ」 URLはこちら)

<https://www.youtube.com/watch?v=0w4t0XwHCm4>

農林水産省HPから見る

トップページの「キーワード」にある「米の輸出」をクリック！

(ホーム > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の輸出について)



キーワードの「米の輸出」をクリックすると「米の輸出について」のページに移動します！

① キーワード

- > 農業競争力強化支援法
- > SDGs・食品ロス
- > 「まるみえアプリ」
- > 農業技術総合ポータル
- > 収入保険制度
- > 米政策改革
- > 米の輸出
- > 食料自給率・食料自給力
- > 輸出促進/GFP (外部リンク)
- > 経営所得安定対策
- > 農地中間管理機構
- > 6次産業化
- > 農産物価格
- > 和食
- > 農業女子
- > ディスカバー農山村(むら)の宝
- > 食糧
- > GAP-info
- > プラスチックリサイクル
- > スマート農業
- > G20新農業大臣会合
- > 産地振興



URL:http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

お問合せ先：農林水産省政策統括官付農産企画課
(TEL：03-6738-6069)



令和
元年度

飼料用米 多収日本一 コンテストを開催！

飼料用米生産農家の生産技術の向上を目指し、多収を実現している先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する「**飼料用米多収日本一**」を開催します。

■ 参加できる方

令和元年産の飼料用米の生産で、次の要件を全て満たす方

- ・多収品種（知事特認含む）をおおむね1ha以上生産する方
- ・生産コスト低減等に取り組む方

■ 開催スケジュール

- | | |
|---------|-----------|
| ・元年5月7日 | 応募開始 |
| ・元年7月1日 | 応募締切 |
| ・2年1月末日 | 収量の報告締切 |
| ・2年2月 | 審査委員会 |
| ・2年3月 | 表彰式（東京都内） |



日本一には
農林水産大臣賞
が授与されます

■ 褒賞

成績優秀者には、以下の賞が授与されます。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・農林水産大臣賞 | ・政策統括官賞 |
| ・全国農業協同組合中央会会長賞 | ・全国農業協同組合連合会会長賞 |
| ・協同組合日本飼料工業会会長賞 | ・日本農業新聞賞 |

■ 応募先及びお問い合わせ窓口

各ブロック事務局へ御相談下さい。
(裏面をご覧ください。)

【主催】（一社）日本飼料用米振興協会、農林水産省
【後援】J A全中、J A全農、協同組合日本飼料工業会

各ブロック事務局一覧

(応募先及びお問い合わせは、以下へご連絡ください)

ブロック		事務局	郵便番号	住所、電話番号
北海道	北海道	北海道農政事務所 生産経営産業部生産支援課	064-8518	札幌市中央区南22条西6-2-22 TEL 011-330-8807
東北	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	東北農政局生産部生産振興課	980-0014	仙台市青葉区本町3-3-1 TEL 022-221-6169
関東	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県 静岡県	関東農政局生産部生産振興課	330-9722	さいたま市中央区新都心2-1 (さいたま新都心合同庁舎2号館) TEL 048-740-0409
北陸	新潟県 富山県 石川県 福井県	北陸農政局生産部生産振興課	920-8566	金沢市広坂2-2-60 (金沢広坂合同庁舎) TEL 076-232-4302
東海	岐阜県 愛知県 三重県	東海農政局生産部生産振興課	460-8516	名古屋市中区三の丸1-2-2 TEL 052-223-4622
近畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	近畿農政局生産部生産振興課	602-8054	京都市上京区西洞院通下長者町下ル丁子風呂町 (京都農林水産総合庁舎) TEL 075-414-9020
中国 四国	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	中国四国農政局生産部生産振興課	700-8532	岡山市北区下石井1-4-1 (岡山第2合同庁舎) TEL 086-224-9411
九州	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県	九州農政局生産部生産振興課	860-8527	熊本市西区春日2丁目10番1号 (熊本地方合同庁舎) TEL 096-300-6212
沖縄	沖縄県	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部生産振興課	900-0006	那覇市おもろまち2-1-1 (那覇第2地方合同庁舎2号館) TEL 098-866-1653
本省	全国	農林水産省政策統括官付穀物課 (企画班)	100-8950	東京都千代田区霞が関1-2-1 TEL 03-3502-5965

農林水産省補助事業

出展無料

大規模生産法人、
農協等の
皆様へ



業務用途への安定取引に向けて

米マツチングフェア 2019

【開催時期】

2019年8月・9月 2020年1月・2月

【開催場所】

東京2回・大阪2回



業務用途に特化した米の商談会

平成30年度産米から行政による生産数量目標の配分がなくなった中で、今後一層、**米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要**です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「**米マツチングフェア2019**」を東京と大阪で開催します。

過去2年の開催では、出展者の半数以上が「商談相手が見つかった」と回答しており、生産者と実需者の結びつきが数多く生まれています。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催◎全国農業再生推進機構

全国農業再生推進機構：(一財)全国豆腐連合会/(一社)全国農業会議所/(一社)日本惣菜協会/(一社)日本弁当サービス協会/協同組合日本飼料工業会/くみあい飼料工場会/(公社)日本放飯協会/(公社)日本べんとう振興協会/(公社)米穀安定供給確保支援機構/国産米使用推進団体協議会/全国稲作経営者会議/全国加工米需要者団体協議会/全国主食業者協同組合連合会/全国農業協同組合中央会/全国農業協同組合連合会/全国米穀工業協同組合/全国米穀販売事業共済協同組合/日本米粉協会/日本豆腐協会/日本米穀小売商業組合連合会

※本イベントは **農林水産省補助事業** (2019年度 米穀周年供給・需要拡大支援事業のうち業務用米等の安定取引拡大支援事業) の下で、全国農業再生推進機構が主催し、(一財)日本米穀商連合会、株式会社 グレイン・エス・ビーが業務運営を行います。

お問い合わせ

米マツチングフェア2019事務局
株式会社 グレイン・エス・ビー：末田、小林

〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビル3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708
E-mail: kome-matching@grainsp.co.jp

やっぱりごはんでしょ！



MAFF
農林水産省



米の消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」では、

- 皆さんがごはんをもっと好きになる
 - もっと食べたくなる
- 情報をお届けします！

掲 載 内 容

企業等における企画・イベントに関する情報

消費拡大につながる取り組みとして、

- ・ おかわり無料
- ・ 大盛り無料
- ・ 新製品の開発
- ・ 食育

などを実施する企業等を紹介

掲載企業は
絶賛募集中！

【主な掲載企業（五十音順）】

大戸屋、株式会社 結わえる、高知食糧、ココス、ごはん処喜楽や、すき家、セブンイレブン、象印食堂、タイガー魔法瓶、太成食品、東洋ライス、鳥元、永谷園、ファミリーマート、ほっともっと、松のや・松乃家・チキン亭、やよい軒、ヤンマーアグリノベーション（株）、吉野家、和食カフェ GOHANYA' GOHAN、SABAR PLUS（なんばCITY店、上野マルイ店）、SBIアフラプロモ株式会社 など

さらに！

実施中のキャンペーン情報などもタイムリーに発信！

“ごはん食”に関するお店情報

農林水産省 × 食ベログ

- 全国各地のごはん大盛り、おかわり無料のお店をご紹介

農林水産省 × ぐるなび

- 地域ならではの“ごはん食”が食べられるお店をご紹介

お米の栄養や、お米を使ったレシピに関する情報

【掲載サイト一覧（一部抜粋）】

ごはん健康

- お米と健康
- ごはんを中心とした日本型食生活のススメ
- ごはん彩々（全米販）
- 3・1・2弁当箱法
- 早寝早起き朝ごはん全国協議会

ごはんレシピ等

- 和食文化推進協議会
- コメレシピ
- 妊婦さんのためのレシピ紹介
- 農林水産省の公式キッチン（クックパッド）
- お米を使った料理・朝ごはんネット
- 6月30日は夏越ごはん

詳しくはこちらからアクセス！

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/gohan.html>

やっぱりごはんでしょ！



掲載情報のご紹介

白米感覚で食べる玄米「金芽ロウカット玄米」を発売中 (東洋ライス)

- 玄米表面にある硬くて防水性の高い「ロウ層」を「カット(除去)」した「金芽ロウカット玄米」は、玄米の高い栄養価はそのままに、白米のふっくらと美味しい食感の両方を実現しました。
- このほかにも、消化に優れていることや、カロリーオフな点が特長です。詳細は以下のURLをご覧ください。

<https://www.toyo-rice.jp/genmai/#risk>



農林水産省は「米の消費拡大」に関する展示・イベントを行いました (6/3実施)

- 農林水産省北別館1F「消費者の部屋」にて、お米・米粉・米加工製品に関するパネル展示や、ごはん・米加工品の試食体験を行いました。
- 試食体験では、ごはん4種類の食べ比べを行い、甘さや粘りなどの食味の違いを実際に体験していただきました。また、米粉・小麦パンの食べ比べでは、米粉製品の甘さやもちもちした食感などの特徴をPR。
- 多くのご来場をいただいた当イベントは、9月17日～20日に再度実施を予定していますので是非ご来場ください。

< 各種パネルや、米粉・米加工製品を展示 >



< ごはんの試食体験 >



体験者からは、「銘柄毎の違いが感じられおもしろかった。自分好みのお米を探したい。」との声もあった。

SNSで情報発信しています

Facebook・Twitterで新着情報などを随時発信しておりますので、是非フォローをお願いします。



Facebookアカウント @MAFFGOHAN



Twitterアカウント @MAFF_GOHAN

このアイコン写真が目印！

